

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第238集

八分平E遺跡

第二東名No.141-2地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

長泉町-9

2011

中日本高速道路株式会社東京支社
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第238集

八分平E 遺跡

第二東名No.141-2地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

長泉町-9

2011

中日本高速道路株式会社東京支社
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

序

富士山の南側にそびえる愛鷹山、その南側に広がる丘陵は遺跡の宝庫です。第二東名高速道路の建設に伴って当財団では、この愛鷹山麓で多くの遺跡を発掘調査してきました。

今回報告する八分平E遺跡は、平安時代、縄文時代、旧石器時代に渡る遺跡です。平安時代では竪穴住居跡を調査しました。縄文時代以来長く続いた竪穴式の住居としては終末期に当たるもので、縄文時代では、早期の撚糸文土器や押型文土器が出土し、それらの土器を検討したところ、縄文時代早期の中でも特定の時期に見られる組み合わせであることから、この遺跡が短期間のうちに形成されたことがわかりました。旧石器時代の調査では、休場層から質の良い頁岩製の石器がまとまって出土しました。原産地は突き止められませんでしたが、地元では採集できない石材であることから、このような石材が、どこからどのようにして運ばれてきたのか、今後の検討に期待がかかります。

この調査を通じてお世話になった中日本高速道路株式会社、静岡県教育委員会、長泉町教育委員会、そして、現地調査と整理作業にたずさわってくださった皆様に、心よりお礼を申し上げます。

平成23年3月

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 石田 彰

例　言

- 1 本書は静岡県駿東郡長泉町東野字八分平484-78他にある八分平E遺跡（第二東名No.141-2地点）の調査報告書である。
- 2 調査は、第二東名高速道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、日本道路公団（現中日本高速道路株式会社）静岡県建設局の委託を受け、静岡県教育委員会文化財保護課の指導のもと、長泉町教育委員会の協力を得て、財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。
- 3 八分平E遺跡の確認調査・本調査及び資料整理の期間は以下のとおりである。
確認調査 平成13年12月3日～平成14年1月11日 平成14年1月15日～平成14年3月31日
木調査 平成13年4月26日～平成13年7月7日 平成13年12月3日～平成14年3月29日
平成14年4月2日～平成14年7月3日
資料整理・本報告書作成 平成22年4月1日～平成23年3月31日
- 4 本遺跡の調査担当は下記のとおりである。
平成13年度（本調査）
所長 斎藤忠 副所長 山下晃 総務部長 条田徳幸 総務課長 本杉昭一 経理専門員 稲葉保幸
総務係長 山本広子 会計係長 大橋薫
調査研究部長 佐藤達雄 調査研究部次長兼調査研究一課長 及川司
調査担当 前嶋秀張 鈴木庭之
平成14年度（本調査）
所長 斎藤忠 副所長 藤田英夫 総務部長 条田徳幸 総務課長 本杉昭一 経理専門員 稲葉保幸
総務係長 山本広子 会計係長 大橋薫
調査研究部長 山木昇平 調査研究部次長兼資料課長 栗野克巳
調査研究部次長兼調査研究一課長 中嶋部大
調査担当 前嶋秀張 笹原芳郎 岩崎しのぶ 村松利彦
平成22年度（資料整理）
所長 石田彰 次長兼総務課長 松村亨 専門監兼事業係長 稲葉保幸 総務係長 鶴見やこ
会計係長 杉山和枝 調査課長 中林賢治 調査第一係長 勝又直人 調査第二係長 岩本貴
調査担当 宮脇孝志
- 5 本書は、特記のない限り富塙が執筆した。
- 6 黒曜石の原産地推定は、独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授 望月明彦氏に依頼した。
- 7 炭化物の年代測定は、株式会社加速器分析研究所に依頼した。
- 8 整理作業において、下記の諸氏に御教示をいただいた。
池谷信之、船田孝司、小崎晋、原田雄紀（五十音順）
- 9 発掘調査の資料は、すべて静岡県教育委員会が保管している。
- 10 本書の編集は、静岡県埋蔵文化財調査研究所が行った。

凡 例

- 現地調査は、2002年4月の世界測地系への移行以前に設定した座標を使用しているため、日本測地系による平面直角座標値系のX=34440.0, Y=-93380.0を起点として設定してある。
- 整理作業の過程で、遺構番号を付け直してあるため、付属CDに新旧番号の対照表を示した。
- 編集の都合上、遺物台帳、ブロック別石器組成表、疊群属性表は付属CDに所収した。

新旧遺構番号対照表

旧	新	旧	新	旧	新
BL01	ブロック09	RG03	疊群01	SY02	集石02
BL02	ブロック10、疊群10	RG04	疊群11	SY03	集石03
BL03	ブロック08、疊群07、疊群08	RG05	疊群09	SY04	集石04
BL04	ブロック07、疊群06	RG06	疊群05	なし	ブロック01
BL05	ブロック03、疊群04	RG07	疊群08	なし	ブロック02
BL06	ブロック14、疊群13	RG08	疊群12	なし	ブロック04
BL07	ブロック15、疊群14	RG09	疊群15	なし	ブロック05
BL08	ブロック17	SB01	豎穴住居跡02	なし	ブロック06
FP01	焼土土坑01	SB02	豎穴住居跡03	なし	ブロック11
FP02	焼土土坑02	SB03	豎穴住居跡04	なし	ブロック12
FP03	焼土土坑03	SB04	豎穴住居跡01	なし	ブロック13
FP04	焼土土坑04	SB05	豎穴住居跡05	なし	ブロック16
RG01	疊群02	SB05SY01	集石05		
RG02	疊群03	SY01	集石01		

本書で用いる石材の略号は下記のとおりである。

和名	英名	略号	和名	英名	略号
角閃石安山岩	Hornblende Andesite	An(Ho)	ホルンフェルス	Hornfels	Hor
輝石安山岩	Pyroxene Andesite	An(Py)	硬質頁岩	Hard Shale	HS
玄武岩	Basalt	Ba	硬質砂岩	Hard Sandstone	HSS
チャート	Chert	Ch	砂岩(中粒)	Medium-grained Sandstone	MSS
チャート(黒色)	Black Chert	Ch(BI)	黒曜石	Obsidian	Ob
砂岩(粗粒)	Coarse-grained Sandstone	CSS	ひん岩	Porphyry	Po
デイサイト	Dacite	Da	流紋岩	Rhyolite	Rhy
閃綠岩	Diorite	Di	赤玉石(碧玉)	Red Jasper	RJa
ドレライト	Dolerite	Do	頁岩(ケツガン)	Shale	Sh
細粒安山岩	Fine-grained Andesite	FAn	シルト岩	Siltstone	Si
砂岩(繊粒)	Fine-grained Sandstone	FSS	珪質岩	Siliceous Rock	SR
凝灰岩(細粒)	Fine-grained Tuff	FT	珪質頁岩	Siliceous Shale	SSh
ガラス質黒色安山岩	Glassy Black Andesite	GAn	凝灰岩	Tuff	Tu
緑色片岩	Green Schist	GS	安山岩(多孔質)	Vesicular Andesite	VAn
緑色凝灰岩	Green Tuff	GT	玄武岩(多孔質)	Vesicular Basalt	VBa
硬質細粒凝灰岩	Hard Fine-grained Tuff	HFT			

本書で用いる黒曜石産地の略号は下記のとおりである(望月明彦氏による)。

産地			略号
長野県	诹訪	星ヶ台群	SWHD
	和田(WD)	農山群	WDTY
		土屋橋北群	WDTK
		美唇ライト群	WDHY
	蓼科	冷山群	TSTY
静岡県	天城	柏崎群	AGKT
神奈川県	箱根	烟宿群	HNHJ
東京都	神津島	恩駄島群	KZDQ

目 次

序・例言・凡例

第1章 調査の概要

第1節 第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯	1
第2節 発掘調査の方法と経過	2
第2章 遺跡の概要	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3節 層位と文化層の設定	6
第3章 平安時代の調査	9
第4章 繩文時代の調査	13
第5章 旧石器時代の調査	
第1節 休場層出土の遺構と遺物	49
第2節 第Ⅲスコリア帯～第Ⅲ黒色帶出土の遺構と遺物	95
第6章 まとめ	95
付編1 八分平E遺跡における放射性炭素年代	99
付編2 第二東名八分平E遺跡出土黒曜石产地推定結果	105

図版目次

第1図 八分平E遺跡周辺地形図	4
第2図 八分平E遺跡周辺道跡分布図	5
第3図 八分平E遺跡の土層図	7
第4図 平安時代の遺構分布図、 堅穴住居跡01平・断面図	10
第5図 坚穴住居跡02、03平・断面図	11
第6図 坚穴住居跡04平・断面図、出土遺物	12
第7図 繩文時代の遺構分布図	14
第8図 繩文時代の遺物分布図	15
第9図 坚穴住居跡05平・断面図、 出土遺物	16
第10図 集石01、03平・断面図、出土遺物	17
第11図 集石02平・断面図、出土遺物	18
第12図 集石04平・断面図、出土遺物	20
第13図 集石05平・断面図	21
第14図 燃土坑01、02平・断面図	22
第15図 燃土坑03平・断面図、 周辺遺物分布図	23
第16図 燃土坑03周辺出土遺物	24
第17図 燃土坑04平・断面図、 出土遺物	26
第18図 J7グリッド周辺遺物分布図、 出土遺物(1)	27
第19図 J7グリッド周辺出土遺物(2)	28
第20図 繩文時代包含層出土遺物(1)	30
第21図 繩文時代包含層出土遺物(2)	32
第22図 繩文時代包含層出土遺物(3)	33
第23図 繩文時代包含層出土遺物(4)	35
第24図 J7グリッド周辺、 繩文時代包含層出土遺物	37
第25図 繩文時代包含層出土遺物(5)	38
第26図 繩文時代包含層出土遺物(6)	39
第27図 繩文時代包含層出土遺物(7)	41
第28図 繩文時代包含層出土遺物(8)	42
第29図 繩文時代包含層出土遺物(9)	43
第30図 繩文時代包含層出土遺物(10)	44
第31図 繩文時代包含層出土遺物(11)	45
第32図 繩文時代包含層出土遺物(12)	46
第33図 繩文時代包含層出土遺物(13)	47
第34図 繩文時代包含層出土遺物(14)	48
第35図 休場層出土遺構、遺物分布図	50
第36図 休場層遺物接合状況	51
第37図 磨群01、02平・断面図	52
第38図 磨群03平・断面図	53
第39図 磨群09、11平・断面図	55
第40図 磨群12、15平・断面図	56
第41図 ブロック01遺物分布図、 出土遺物	57
第42図 ブロック02、04遺物分布図	58
第43図 ブロック03、磨群04遺物分布図	59
第44図 休場層出土遺物(1)	60
第45図 休場層出土遺物(2)	61
第46図 ブロック05遺物分布図	63
第47図 ブロック05出土遺物(1)	64

第48図	ブロック05出土遺物（2）	65
第49図	ブロック06遺物分布図	66
第50図	ブロック06出土遺物	67
第51図	ブロック07、 礫群05、06遺物分布図	68
第52図	ブロック08、礫群07、08遺物分布図、 出土遺物	69
第53図	ブロック07、08出土遺物	70
第54図	ブロック08出土遺物	71
第55図	ブロック09遺物分布図	73
第56図	ブロック10、礫群10遺物分布図	74
第57図	ブロック10出土遺物（1）	75
第58図	ブロック10出土遺物（2）	76
第59図	ブロック11、12遺物分布図、 出土遺物	77
第60図	ブロック13遺物分布図、 出土遺物	79
第61図	ブロック14、礫群13遺物分布図、 出土遺物	80
第62図	ブロック15、礫群14遺物分布図	81
第63図	ブロック15出土遺物（1）	82
第64図	ブロック15出土遺物（2）	83
第65図	ブロック16遺物分布図、 出土遺物	84
第66図	休場層出土遺物（1）	85
第67図	休場層出土遺物（2）	86
第68図	休場層出土遺物（3）	87
第69図	休場層出土遺物（4）	89
第70図	休場層出土遺物（5）	90
第71図	休場層出土遺物（6）	91
第72図	休場層出土遺物（7）	92
第73図	休場層出土遺物（8）	93
第74図	休場層出土遺物（9）	94
第75図	第Ⅲ黒色帶遺物分布図、 ブロック17遺物分布図	96
第76図	ブロック17出土遺物（1）	97
第77図	ブロック17出土遺物（2）、 第Ⅳ黒色帶出土遺物	98
第78図	曆年較正年代グラフ（1）	103
第79図	曆年較正年代グラフ（2）	104
第80図	黒曜石産地位置	118

表 目 次

第1表	八分平E遺跡の土層注記	8
第2表	年代測定結果一覧表（1）	101
第3表	年代測定結果一覧表（2）	102
第4表	出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表	106
第5表	產地原石判別群一覧表 (SEIKO SEA-2110L 蛍光X線分析装置による)	116

写真図版目次

図版1	調査区遠景	
図版2	竪穴住居跡04遺物出土状況	
	竪穴住居跡04土器出土状況	
図版3	竪穴住居跡01、04完掘状況	
	竪穴住居跡01完掘状況	
図版4	竪穴住居跡02完掘状況	
	竪穴住居跡03完掘状況	
図版5	竪穴住居跡05、集石05検出状況	
	竪穴住居跡06床面検出状況	
図版6	集石01検出状況	
	集石05内部状況	
図版7	集石05掘削途中	
	集石05底部礫出土状況	
図版8	集石02検出状況	
	集石04検出状況	
図版9	諸職b式土器出土状況	
	礫群03検出状況	
図版10	ブロック08検出状況	
	ブロック09検出状況	
図版11	竪穴住居跡04出土土器他	
図版12	焼土土坑03周辺出土土器	
図版13	燃糸文土器（1）	
図版14	燃糸文土器（2）	
図版15	燃糸文土器、押型文土器	
図版16	早期縦文土器（1）	
図版17	早期縦文土器（2）	
図版18	早期条痕文土器	
図版19	諸職b式土器（1）	
図版20	諸職b式土器（2）	
図版21	下吉井式土器、諸職b式土器	
図版22	包含層出土石器（1）	
図版23	包含層出土石器（2）	
図版24	包含層出土石器（3）	

第1章 調査の概要

第1節 第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯

昭和62年、東名・名神高速道路の混雑緩和の対策として、道路審議会において、第二東名、第二名神高速道路の建設が建議された。

平成元年、第四次全國総合開発計画の閣議決定、国土開発幹線自動車道建設法の一部改正等を経て、第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において、神奈川県横浜市から愛知県東海市に至る第二東名高速道路（以下、第二東名）が計画された。この基本計画策定を受けて静岡県は、12月、第二東名建設推進室内連絡会議を設置し、静岡県教育委員会文化課（以下、文化課）もこの協議に参加した。

平成3年、第二東名の基本計画について、文化財を含む環境調査等が行われ、他の公共事業や地域開発計画との調整を図り、9月24日、静岡県の長泉町から引佐町（現浜松市、以下同じ）に至る都市計画の決定が告示された。

平成4年、環境調査と並行して、埋蔵文化財の分布状況も把握された。第二東名建設に係る調査の指示を受けた日本道路公団（現中日本高速道路株式会社、以下同じ）は、2月17日付けで文化庁にこれを通知するとともに、5月11日付けで、日本道路公団東京第一建設局長（以下、建設局長）から静岡県教育委員会教育長宛て（以下、県教育長）に、第二東名建設予定地内の埋蔵文化財の分布調査が依頼された。また、8月27日付けで日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所長（以下、事務所長）から県教育長宛てに、「第二東名自動車道の埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」が照会された。これを受けた県教育委員会は、9月29日に関係市町村教育委員会の関係者を集めて、第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を設けるとともに、第二東名路線内における埋蔵文化財の所在について、当該市町教育委員会に照会し、当該教育委員会から回答を得た。

平成5年、県教育委員会はこの回答をもとに協議を行い、結果を3月18日付けで、県教育長から事務所長宛てに回答した。この時点で調査対象箇所は136箇所、調査対象面積は1,453,518m²となっている。

その後、長泉町～引佐町間にについては、11月19日付けで日本道路公団に施工命令が出された。これに伴い、日本道路公団東京第一建設局及び静岡県土木部高速道路建設課、文化課で、埋蔵文化財調査の進め方を協議した。調査対象範囲の確定、個々の遺跡の取り扱い等について検討するとともに発掘調査の実施については日本道路公団が財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所（以下、当財團）に委託することが確認された。しかし、短期間に膨大な調査を行うための体制作りが課題となった。

平成6年、文化課が調査対象箇所の状況を調査するとともに、前年度に告示されたバーティングエリア、サービスエリア建設予定地内の踏査を、当該市町教育委員会に依頼。その結果、調査対象地は133箇所、調査対象総面積は1,286,759m²となった。

平成7年、日本道路公団静岡建設所と文化課による「第二東名関連埋蔵文化財連絡調整会議」が設置され、12月13日に第1回会議が行われた。

平成8年、第二東名に係る埋蔵文化財調査に向けて、建設局と県教育委員会は、9月24日付けで埋蔵文化財の取り扱いに関する確認書を締結した。さらに調査実施機関である当財團を加えた三者は、9月25日付けで第二東名に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について定めた協定書を締結し、年度内に調査を始めることになった。そして、掛川市、浜北市（現浜松市）で確認調査を始めた。

平成9年、本格的に発掘調査を開始した。これ以降、原則として第二東名の本線、サービスエリア、バーティングエリア、廃土処分場については、当財團が調査を実施、工事用道路、取り付け道路部分については、当該市町教育委員会が対応することとし、現在に至っている。

第2節 発掘調査の方法と経過

(1) 発掘調査の方法

遺跡の測量や遺物の出土位置の特定などのため、平面直角座標第Ⅷ系のX = -93380、Y = 34440を原点として調査区全体に10m四方の方眼を設定した。そして、Y軸に対して南から北に向かってアルファベット、X軸に対して西から東へアラビア数字によって記号をつけた。10m四方のグリッドの名称は、南西隅の記号をとり、R31区、W36区のように呼ぶこととした。

遺構の測量や遺物の出土位置は、株式会社トブコンのトータルステーションGTS-700を使用して、国家座標により記録し、そのデータは株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」にて管理した。

(2) 現地調査

平成13年度

奈良時代から平安時代の竪穴住居跡を4軒調査した。いずれも一辺3m程度の小さな住居跡であることから、本格的な定住的とは考えにくいが、焼土と炭化物の集中から竈が付いていたと思われるものもあった。

縄文時代の調査では、竪穴住居跡を1軒検出した。長径3m、短径2m程の楕円形で、住居埋没後に集石遺構が作られていた。

旧石器時代の調査では、休場層からまとまった石器が出土した。

平成14年度

縄文時代の調査で集石土坑と焼土土坑を検出した。包含層からは早期～前期の土器が多量に出土した。

旧石器時代の調査では、13年度に引き続き休場層からまとまった石器が出土した。下層の調査では、第Ⅲ黒色帯でも石器の集中地点を検出した。

(3) 資料整理、報告書作成

平成22年4月～平成23年3月まで我井整理事務所で行った。平安時代、縄文時代、旧石器時代の調査いずれも現地調査と並行して行った基礎整理作業で、遺物台帳の整備や図面整理などを進めてあつたため、整理作業の円滑化におおいに有効であった。

奈良時代～平安時代の整理作業では、住居跡の記載に重点を置いた。4軒検出した住居跡のいずれも出土遺物が少ないため、時期判定に若干の時間を要した。

縄文時代の整理作業では、土器の型式分類と遺物分布域の抽出に重点を置いた。遺物の分布では、J7グリッド付近と焼土土坑03付近に遺物の集中域が認められたため、この2つを遺物の集中域としたが、出土した土器の型式から、複数時期に渡ることが明らかで、一括性は乏しいと思われる。

旧石器時代の整理作業では、文化層の設定に重点を置いた。遺物が出土しているのは、休場層と第Ⅳ黒色帯で、第Ⅲ黒色帯は問題なく文化層を設定できたが、休場層中の文化層設定には時間がかかった。休場層は上層、中層、下層に分けられるが、これと文化層が必ずしも合わないことは、これまでの整理作業でも経験していることである。現地調査では、休場層上層、中層上位、中層中位の3層に文化層を設定していたが、遺物の出土レベルと遺物の接合では、休場層上位と中位を別の文化層にする根拠は見出せなかった。次に休場層上層と中層を別の文化層に分けられるか検討した。疊群は、休場層上層から中層にかけて、連続して出土しており、特定のレベルに集中する傾向は認められなかった。遺物の接合でも、休場層上層と中層で接合するものが複数認められた。これらのことから、休場層上層と中層を別の文化層に分けることはできないと判断した。したがって、休場層上層と中層を同じ文化層とした。

細石器とナイフ形石器の分離についても検討したが、同じ産地の黒曜石を使用している場合や個体識別のできない石材を使用している場合があることから、両者の分離は不可能と判断した。

第2章 遺跡の概要

第1節 地理的環境

愛鷹山（標高1,504m）は、富士山の南側にある山で、40年前から10万年前まで活動していた成層火山である。愛鷹山麓の南東側に広がるなだらかな丘陵地は、この火山活動によって形成された。また、この火山活動でできたデイサイトは、台石や石皿、石斧などの石器の材料として使われた。

愛鷹山が火山活動を終えた後、8万年前、今の富士山の前身である古富士が火山活動を始めた。この噴火は激しいもので、多量の火山灰を噴出しながら、現在の富士山へと成長した。この火山灰は、偏西風で西に運ばれ、関東ローム層形成の一因にもなったが、火山灰は主に西に運ばれたため、愛鷹山山麓に積もった火山灰の厚さは4m程度である。

愛鷹山麓に積もった火山灰は、ローム化して愛鷹ローム層と呼ばれている。この中で上部のローム層に遺跡が残っている。このローム層は、腐植質土壌の黒色帯と、激しい噴火で短時間に堆積したスコリア層が交互に堆積している。

この愛鷹ローム層が堆積した愛鷹山麓は、いくつもの川が南北方向に谷を刻み、谷に挟まれた丘陵地は、眺望が開けた良好な居住地で、丘陵地上には旧石器時代以降の多くの遺跡がある。

八分平E遺跡は、第1図に示したように、上記のような開析谷に挟まれた緩斜面上にある。遺跡の現況は植林による林になっており、遠方への眺望はきかない。

長泉町が発行している2009年8月1日付け『広報ながいすみ』によれば、八分平と言う地名の由来には諸説あるらしく、沼津市から長泉町池ノ平に行く道のりの八分目に当たる平地だからという説や、八分隊という部隊が開墾したからという説などがあるらしい。

第2節 歴史的環境

周辺での遺跡分布を第2図に示す。沼津市の元野遺跡では、第二東名建設に伴う調査で、愛鷹ローム層の第VII黒色帯から石器が出土した。放射性炭素年代測定で、3万年を越える年代値が出ている層から石器が出土したこと、日本最古級の石器として話題になった。その後、第二東名建設に伴って調査したNo25地点、No27地点、東細尾遺跡、富士石遺跡、海ノ木沢遺跡、向田A遺跡、そして、前回報告した的場遺跡でも第VII黒色帯から遺物が出土し、日本最古級の石器群として貴重な資料が蓄積された。

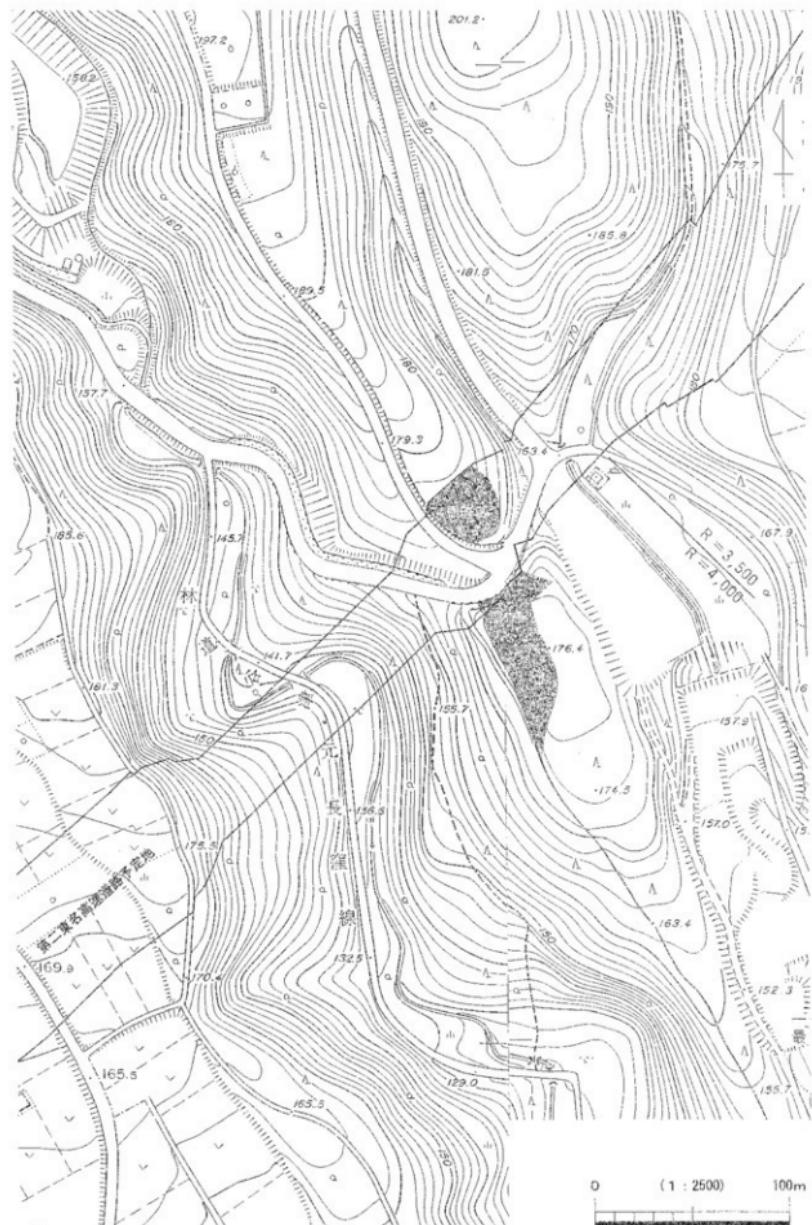
愛鷹山の南東側山麓は、東にある箱根山麓と並んで、旧石器時代の落とし穴が集中する地域もある。これらはいずれも愛鷹ローム層の第IV黒色帯に掘り込まれたもので、硬いスコリア層を掘り抜いて作られている。1986年、三島市の初音ヶ原B遺跡で60基もの土坑が並んで発見されて以降、愛鷹山麓と箱根西麓では、当然のようにこうした土坑の発見が相次いだ。

第二東名建設に伴う調査でも、No27地点、No28地点、東細尾遺跡、富士石遺跡、東野遺跡、塚松遺跡、向田A遺跡などで土坑が発見されているが、今回報告する八分平E遺跡では発見されなかつた。

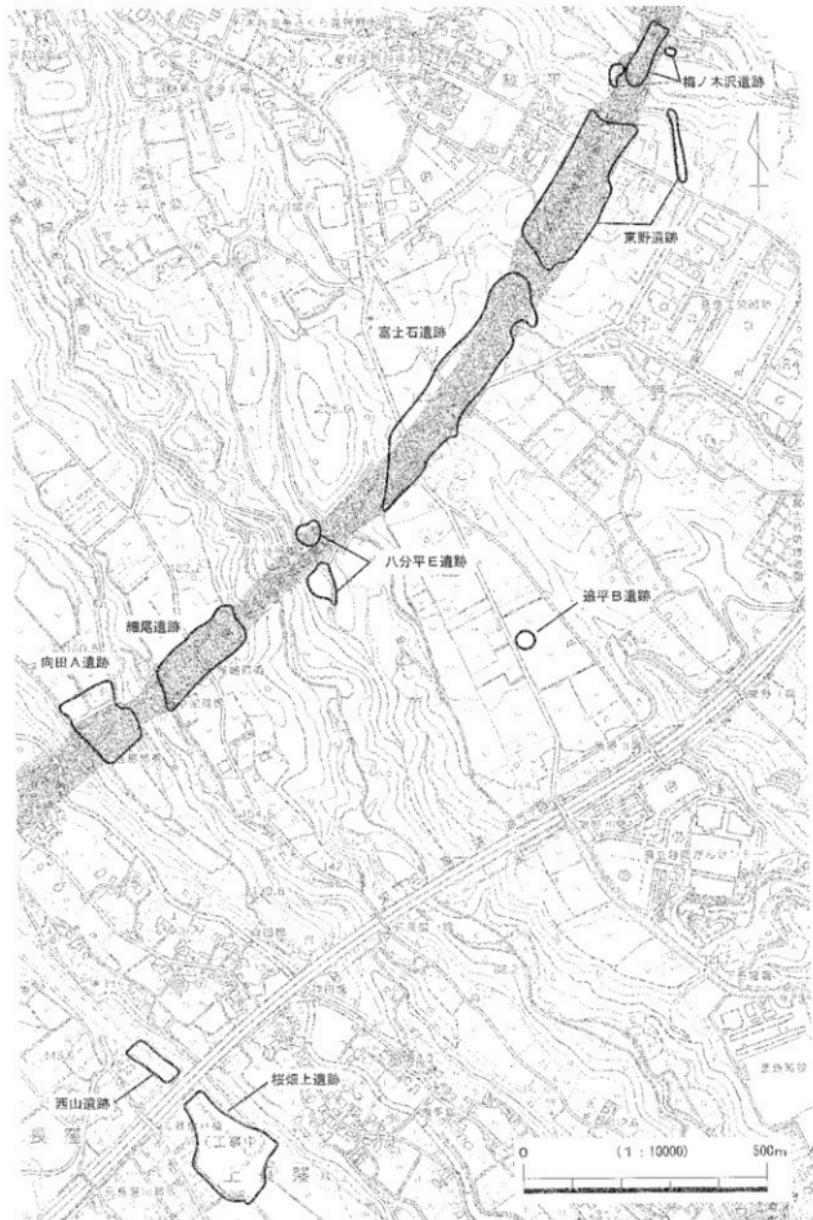
ニセローム層と呼ばれる層には、2万5千年前の姶良丹沢火山灰が含まれ、他の地域との年代比較の材料になっている。その上層に堆積している黒色帯や休場層には非常に多くの遺跡が残されている。

縄文時代に入ても愛鷹山南東山麓には多くの遺跡が分布する。縄文時代草創期～前期は遺跡の多い時期で、沼津市の葛原沢IV遺跡では、縄文時代草創期の押庄繩文土器を伴う堅穴住居跡が発見されており、縄文時代に入って間もなく定住に近い生活が始まったことがうかがえる。また、清水柳北遺跡では、縄文時代草創期の良好な石器ブロックが発見されている。

縄文時代早期になると遺跡数が急増する。尾上イラウネ遺跡や清水柳北遺跡などで、この時期の良好



第1図 八分平E遺跡周辺地形図



第2図 八分平E遺跡周辺遺跡分布図

な集落が発見されている。また、早期前半になると、この地域独特の土器型式が見られるようになる。「駿豆撫糸文系土器」はその代表である。

早期後半になると、清水柳E類、元野式といった独自の土器型式が見られると同時に、木島式のように東海系の土器が下地となって、この地域で独自に発達した型式や、南関東や長野県の土器が下地となって発達した型式が見られるようになり、この地域が各方面の文化的交流地になっていたことがわかる。

この時期、集落を外れた地域には、落とし穴が多く作られた。沼津市の植出遺跡や拓南東遺跡では、丘陵上や尾根上に列をなした落とし穴が発見されている。多くの落とし穴には、そこに逆茂木を刺したと思われる小さな穴が複数埋められている。

このような縄文時代集落の盛行は縄文時代前期前葉までは続くが、その後は徐々に遺跡数が減り、前期末には無人の地になってしまったかのように遺跡が見られなくなる。長野県や関東地方で縄文時代中期以降、遺跡数や規模が増大する傾向と対照的である。

次に愛鷹山麓に遺跡が見られるようになるのは、弥生時代後期以降である。沼津市の植出遺跡では、弥生時代後期の大規模な集落が発見されている。ここでは、竪穴住居跡が301軒、掘立柱建物跡54棟の他に方形周溝墓などが発見された。また、尾上田橋西遺跡や清水柳北遺跡では、弥生時代後期の大規模な墳丘墓が発見されている。

古墳時代前期の遺跡は見られないが、後期になると、6世紀初頭の長塚古墳や、年代は明らかでないが、長塚古墳に先行するとも考えられる子ノ神古墳といった前方後円墳が出現する。

その後、6世紀後半から7世紀初頭になると、群集墳が作られるようになり、古墳の数は激増する。清水柳2号墳や虎杖原古墳などが築かれる。荒久城山古墳からは金銅製の馬具が出土しており、二ツ塚古墳からは単鳳環頭大刀が出土している。

参考文献『沼津市史 通史編 原始・古代・中世』沼津市 2005年

第3節 層位と文化層の設定

(1) 層位

八分平E遺跡での層位を第3図、その注記を第1表に示す。愛鷹山麓の標準的な地層を示すが、第Ⅱ黒色帯より下の黒色帯は、色を基にした分層が難しかった。また、第0黒色帯と第Ⅰスコリア層、第Ⅲスコリア帯第3スコリア層～第Ⅲスコリア帯第5スコリア層は分層できなかつたため、同一層として扱つた。

(2) 文化層の設定

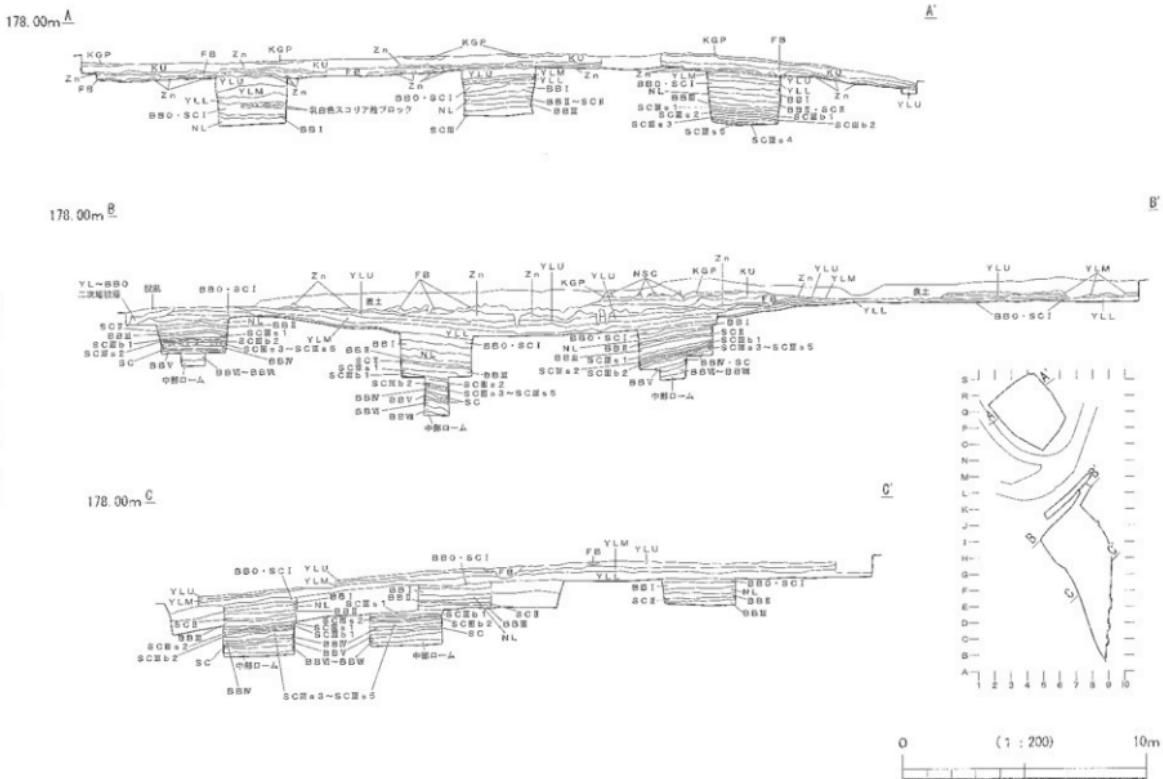
休場層上層～下層

休場層上層～下層にいくつの文化層があるのかは、常に問題になることである。ブロックと礫群の出土層では、休場層上層に中心を持つもの、休場層中層に中心を持つもの、休場層上層～中層にまたがるもの、休場層上層～下層にまたがるもの等の4種類が認められた。ここで、休場層上層に中心を持つ遺構と休場層中層に中心を持つ遺構を別の文化層に分けるとしても、休場層上層～中層、休場層上層～下層にまたがる遺構の所属文化層を決ることはできなかつた。また、休場層上層で常に問題になるのが、ナイフ形石器と細石器の分離であるが、分布が重なるうえに、両者とも同じ産地の黒曜石を使っていることなどから、分離できなかつた。

第Ⅲ黒色帯

ほとんどの遺物がⅠ区から出土している。上下の層からは遺物が出土しておらず、接合もこの層内に収まるため、1つの文化層にした。

第3図 八分平E道路の土壌図



第1表 八分平E遺跡の土層注記

土層名	略号	色調	注記
表土			
新期スコリア層	NSC	7.5YR3/4 暗褐色	
カワゴ平バミス		10YR3/4 暗褐色	直径3~5mmのスコリアからなる。
栗色土層	KU	10YR3/3 暗褐色	直径1~2mmのスコリアを含む。
富士黒色土層	FB	10YR2/2 黒褐色	直径2~3mmのスコリアを含む。
漸移層	Zn	10YR3/3 暗褐色	直径2~3mmのスコリアを含む。
休場層上層	YLU	10YR4/4 褐色	直径2~3mmのスコリアを含む。
休場層中層	YLM	10YR4/4 褐色	直径2~3mmのスコリアを多く含む。
休場層下層	YLL	10YR3/4 暗褐色	スコリアを非常に多く含む。
第Ⅰ黑色帯・第Ⅰスコリア層	BB0・Sc I	7.5YR3/4 暗褐色	本来は別の層だが、この遺跡では分層できなかった。
第Ⅰ黒色帯	BB I	10YR3/4 暗褐色	硬く締まる。
ニセローム層	NL	10YR4/6 褐色	始良丹沢火山灰を含む。
第Ⅱ黒色帯	BB II	7.5YR4/4 黒褐色	直径3~5mmのスコリアを含み、硬く締まる。
第Ⅱスコリア層	Sc II	7.5YR4/4 褐色	直径5mm程度のスコリアからなる。
第Ⅲ黒色帯	BB III	10YR3/4 暗褐色	直径3~5mmのスコリアを含み、硬く締まる。
第Ⅲスコリア帯第1スコリア帯	Sc III s 1	7.5YR4/6 暗赤褐色	直径3mm程度のスコリアからなり、黄白色の粒子を多量に含む。
第Ⅲスコリア帯第1黒色帯	Sc III b 1	7.5YR4/4 黑褐色	直径3~5mmのスコリアを含み、硬く締まる。
第Ⅲスコリア帯スコリア2	Sc III s2	7.5YR4/4 暗赤褐色	非常に硬く締まる。
第Ⅲスコリア帯第2黒色帯	Sc III b2	7.5YR4/4 黑褐色	直径3~5mmのスコリアを含み、硬く締まる。
第Ⅲスコリア帯第3スコリア層	Sc III s3	7.5YR4/4 暗赤褐色	非常に硬く締まる。
第Ⅲスコリア帯第4スコリア層	Sc III s4	7.5YR4/4 暗赤褐色	非常に硬く締まる。
第Ⅲスコリア帯第5スコリア層	Sc III s5	7.5YR4/4 暗赤褐色	非常に硬く締まる。
第IV黒色帯	BB IV	7.5YR4/4 褐色	
第Ⅲスコリア層	Sc III	7.5YR4/4 暗赤褐色	直径3mm程度のスコリアからなる。
第V黒色帯	BB V	7.5YR4/4 褐色	
第VI黒色帯	BB VI	7.5YR3/4 暗褐色	
第VII黒色帯	BB VII	7.5YR3/4 暗褐色	
中部ローム	M.	黄褐色	硬く締まる。

第3章 平安時代の調査

平安時代の遺構分布を第4図上段に示す。北側の調査区で竪穴住居跡を4軒検出した。検出面はカワグチ平ハミス層の上面で、地形は尾根上の平坦面である。4軒の住居跡は隣接しており、竪穴住居跡01と04、竪穴住居跡02と03が隣り合うようにして検出された。

(1) 竪穴住居跡01（第4図下段）

標高175.9m～176.2mで検出した。今回検出した竪穴住居跡の中では最も残りが良い。埋土は流れ込んだ黒色土である。規模は南北2.47m、東西2.13mで、平面形は長方形である。壁は垂直に立ち上がり、壁溝は確認されなかった。図中の3層が貼り床で、黒褐色土が硬く締まっている。床面2箇所で焼土が検出された。竈は確認できなかつたが、北隅の焼土集中部は竈の位置を示しているかもしれない。

遺物は埋土から土師器が少数出土しただけである。

(2) 竪穴住居跡02（第5図上段）

尾根上の平坦面、標高176.7m～177m付近で検出した。住居跡の東側は現代の畑を作った際に大きく破壊されている。また、南側は斜面土の流出により残りは良くない。埋土は流れ込んだ黒色土である。

規模は、検出できた範囲では南北3.25m、東西2.2mである。平面形は正方形に近かったと思われる。主軸の方向は北西で、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は確認されなかつた。床面はほぼ平坦で、全面に黒色土を硬く締めた貼り床を作っている。

西側の壁沿いに炭化物が弧を描くように分布している。ここに竈があり、弧を描く部分が竈の袖に当たると思われるが、竈が崩落した状態である。遺物は土師器の小片が少数出土したのみである。

(3) 竪穴住居跡03（第5図下段）

標高176.8m～177mで検出した正方形に近い住居跡だが、ほとんど流出した状態で、残りは悪い。埋土は流れ込んだ黒色土である。壁は垂直に立ち上がり、壁溝は確認されなかつた。貼床は検出されず、掘り方のみを検出した。遺物は出土していない。

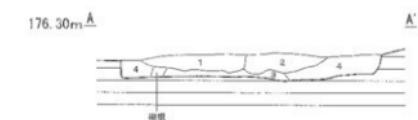
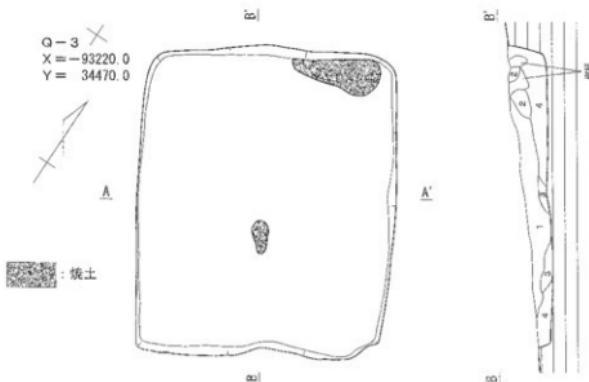
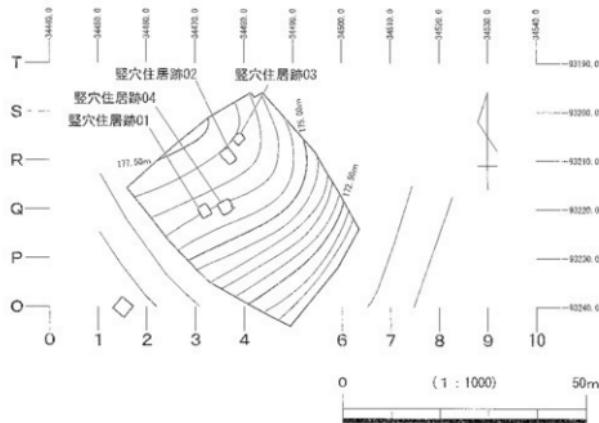
(4) 竪穴住居跡04（第6図）

標高175.7m～176mで検出した。残りは良くなく、東側の一部は破壊されている。埋土は炭化物が混じった黒色土である。規模は南北2.77m、東西2.73mである。壁は垂直に立ち上がり、壁溝は確認されていない。床面は平坦で、貼り床は確認できなかつた。南隅に浅い土坑を検出し、この中から後述の土器が出土した。竈は検出できなかつたが、北東隅には焼土があり、竈の可能性がある。

遺物は今回検出した平安時代の竪穴住居跡では最も多く、埋土から多くの土師器片が出土した。床面に掘られた土坑からは捨てられたような状態で土師器が出土した。

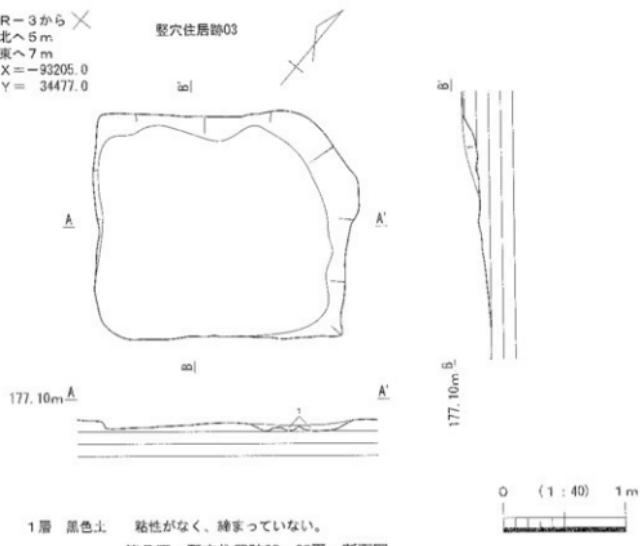
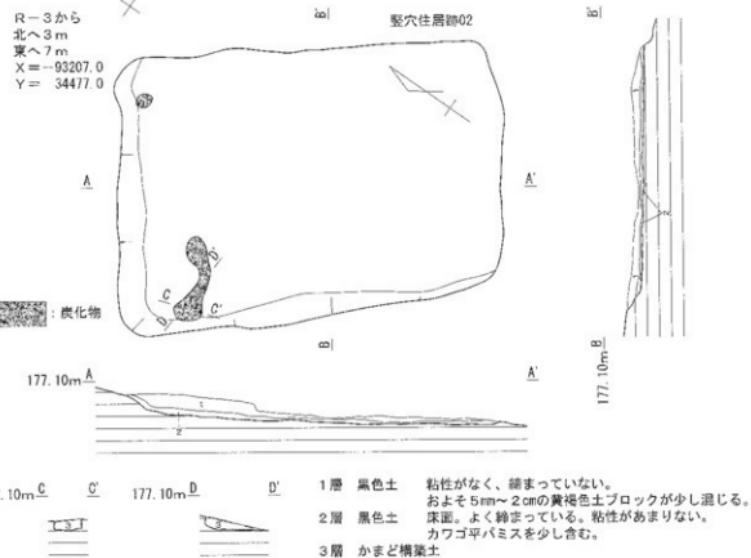
1は土師器の壺で、床面から出土した。口縁部はやや外反している。内面は横方向になでた後、丁寧に磨いている。外面はなでて仕上げている。底は糸切りの後、へら状工具で不定方向になでていている。2は土師器の壺で、床面に掘られた土坑から出土した。内面は横方向になでた後、丁寧に磨いている。外面はなでて仕上げている。底はへら状工具で不定方向になでており、糸切り痕は残っていない。3は甕の口縁部で、床面から出土した。口縁端部がわずかにつまみ上げられている。4は鉢と思われる土器で、床面に掘られた土坑から出土した。内外面とも非常に丁寧に磨いてあり、内面には暗文が見られる。

第6図-5は、包含層出土の土師器で、内外面に細かいはけ目が見られる。

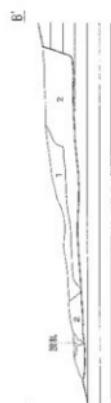
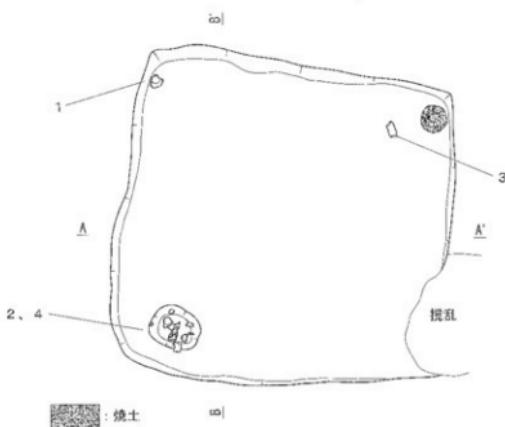


- 1層 黒色土 よく縫まっている。粘性があまりない。
およそ 2~3mmの赤褐色スコリア粒と黄褐色土粒を多く含む。
- 2層 黒褐色土 よく縫まっている。粘性があまりない。およそ 2~3mmの
赤褐色スコリア粒と黄褐色土粒を多く含む。
- 3層 黒褐色土 よく縫まっている。粘性があまりない。
- 4層 カワゴ平バミス層混合土 よく縫まっている。粘性があまりない。
およそ 2~3mmの
赤褐色スコリア粒と黄褐色土粒を多く含む。

第4図 平安時代の遺構分布図、竪穴住居跡01平・断面図

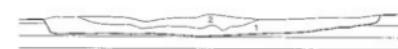


X Q-3から
 北へ2m
 東へ4m
 X = -93218.0
 Y = 34474.0

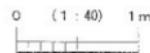


176.20m A

A'



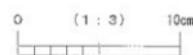
1層 黒色土 粘性がなく、あまり締まっていない。
 2層 黒褐色土 よく締まっている。粘性があまりない。



3

4

5
包含層出土



第6図 深穴住居跡04平・断面図、出土遺物

第4章 繩文時代の調査

繩文時代の遺構、遺物は南側の調査区で集中して発見された。遺構は第7図に示すように、竪穴住居跡1軒と集石5基、焼土土坑4基を検出した。検出面は富士黒土層上面～休場層上層である。地形は、南側に緩やかに下っていく尾根上である。

遺物の分布は、第8図に示したように濃密であるが、繩文時代の遺物は表土～漸移層の各層から出土しているため、全部を表示するとこのような図になる。層単位で分けると、遺物包含層としては通常の密度である。この中で特にJ7グリッド周辺と焼土土坑03付近に集中する傾向があったため、遺物分布域として報告する。

繩文時代早期前半の土器については、池谷信之2003「縦位密接施文から異方向帶状施文へ—駿豆地方押形文土器の変遷と立野式—」『利根川』第24・25合併号で、「西洞段階」と「イラウネ段階」を設定してあるため、この用語を用いる。また、胎土については、細かい気泡があり、大きさの割に軽く、表面がスベスベする独特の胎土を使ったものがあり、池谷2003では、これを「軽じょうな」胎土と表現してあるため、下記でもこの表現を用いる。

(1) 竪穴住居跡05（第9図）

休場層上層の上面、標高175.5m～175.6mで検出した。埋土は炭化物が混じった富士黒土層の流れ込みである。規模は南北3.8m、東西3.24mで、平面形は不整の橢円形である。壁は垂直に立ち上がり、壁溝は確認できなかった。中央付近にある大きな擾乱は、後に報告する集石05である。

床面中央で焼上の集中部を検出した。この下には南北0.64m、東西0.5m、深さ10cm程の土坑が掘り込まれている。この住居跡の炉跡と考えて良い。この炉跡は、住居跡埋没後に作られた後述の集石05により半分近くを破壊されている。また、床面東側には、長軸0.6m、短軸0.42m、深さ0.14mの土坑が掘られている。形は不整形で、炭化物を多く含んだ富士黒土層が入っている。この土坑からは遺物は出土しなかった。床面で検出したため、この住居跡に伴うと考えているが、性格は不明である。

遺物は、第34図-6の台石が床面に置かれた状態で出土した。玄武岩の円礫を使っており、表面が磨滅してなだらかになっている。

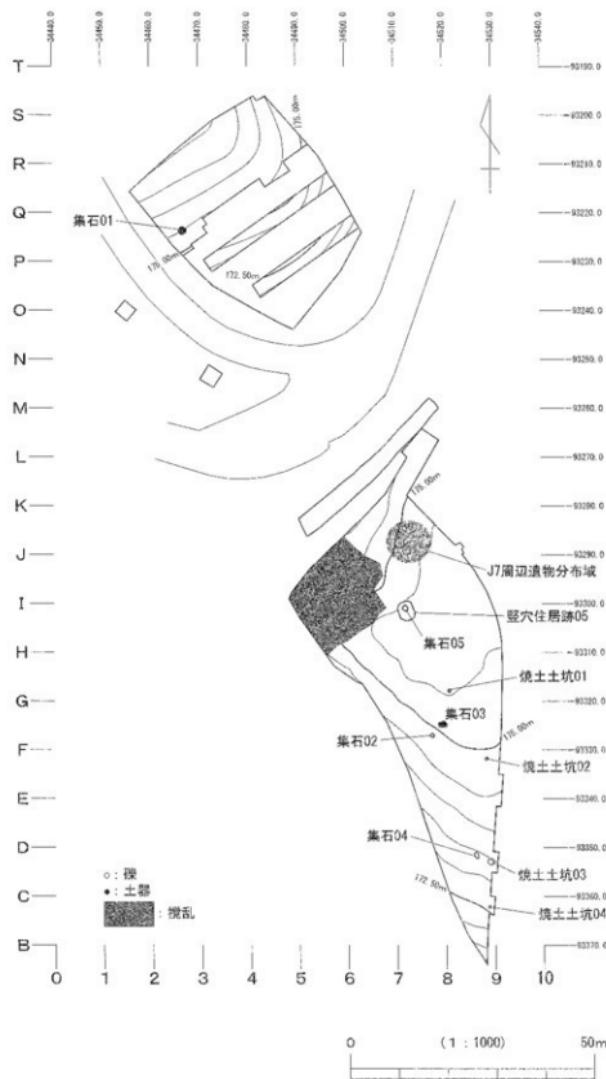
土器は、第9図-1、2に示したものが出土地した。1は繩文土器の口縁部で、外面に繩文が付いている。繩の擦りの方向は不明だが、繩粒の間隔が開いているのが特徴である。同様の特徴を持つ上縁は、包含層中からも多く出土しており、いずれも繩文時代早期の西洞～イラウネ段階と考えられる。これも同じ土器であろう。2も口縁部の破片で、口縁端部はなでて面取りをしてあり、外面には連続爪形文を付けてある。粕烟式に並行する土器と考えられる。

(2) 集石01（第10図上段）

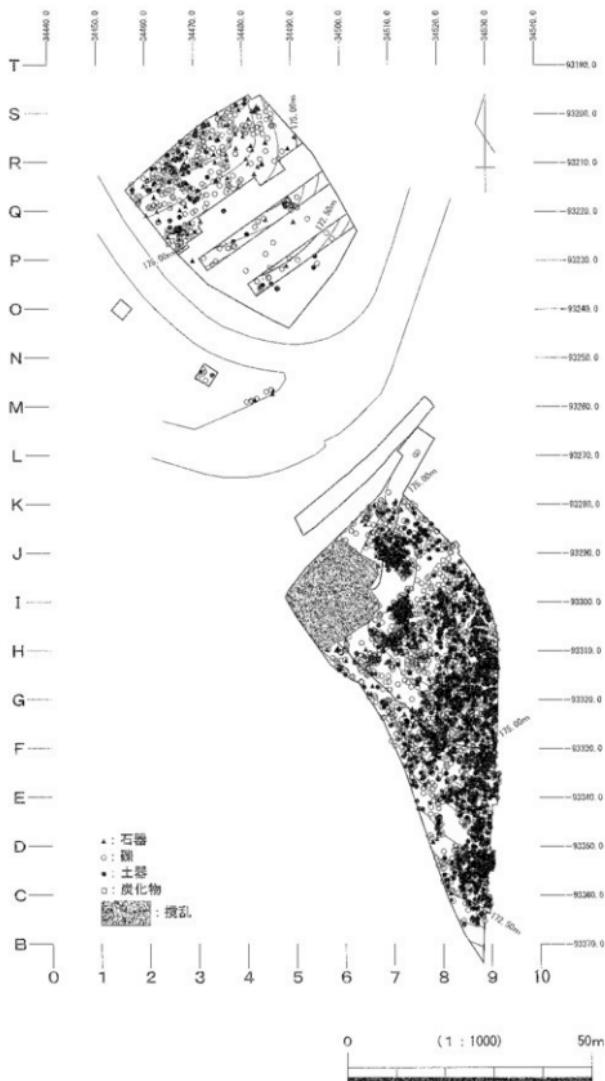
15cm大の礫を円形に敷き詰めたような状態で検出した。規模は長径0.75m、短径0.64mである。すべての礫が赤化している。遺物は出土していない。

(3) 集石02（第11図）

富士黒土層上面で検出した。長径0.88m、短径0.72mの土坑に礫が入っているが、上面を失われているため、本来の規模は不明である。土坑の埋め土は炭化物の混じった富士黒土層である。土坑の底に第11図-1の台石が置かれたような状態で出土した。台石を礫として再利用していると思われる。また、2に示した石皿の破片も出土している。これも割れた石皿を礫として再利用しているのであろう。土坑の東側には礫がない部分があり、人為的に礫を抜き取ったような状態である。土坑内で火を焚いた痕跡は認められないが、ほとんどの礫が赤化して割れている。

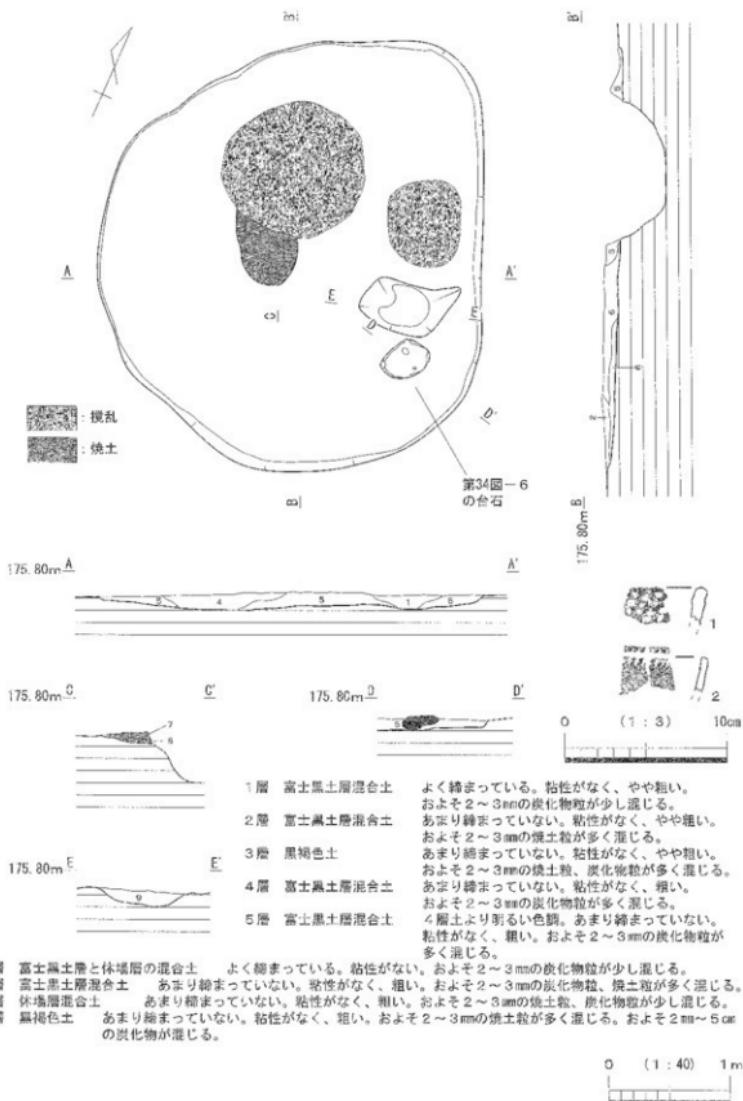


第7図 縄文時代の遺構分布図

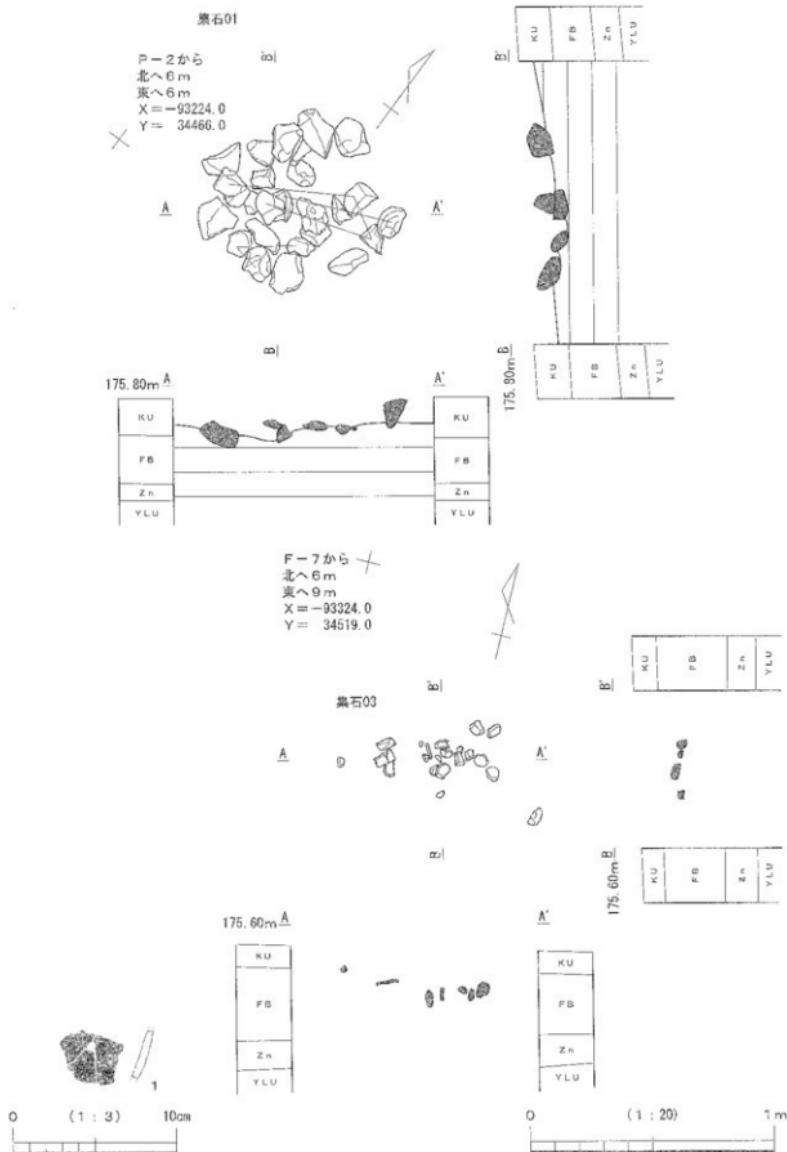


第8図 縄文時代の遺物分布図

I - 7
 X = -93300.0
 Y = 34510.0

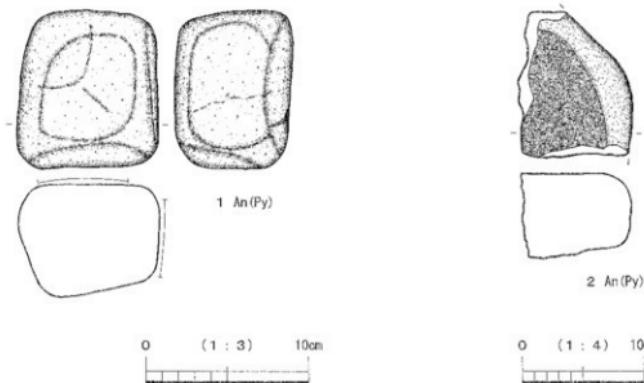
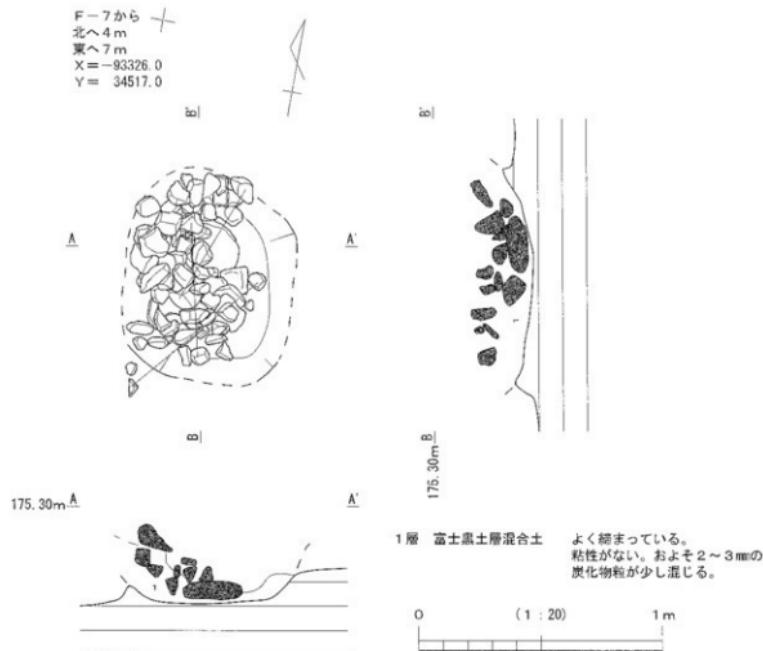


第9図 堅穴住居跡05平・断面図、出土遺物



第10図 黒石01、03平・断面図、出土遺物

F - 7 から
北へ4 m
東へ7 m
X = -93326.0
Y = 34517.0



第11図 集石02平・断面図、出土遺物 (1 : 1/3, 2 : 1/4)

(4) 集石03（第10図下段）

南北0.65m、東西1.32mの範囲に5cm程度の礫が散在する。礫の平均重量が39.1gと軽いのが特徴である。ほとんどの礫が赤化している。図中に示した撚糸文土器が伴っている。Rの撚糸を縦方向に施している。器壁は分厚い。

(5) 集石04（第12図）

漸移層上面で検出した。直径1.16m～1.3m、深さ0.23mの土坑の中に礫が入っている。土坑中の埋土は炭化物の混じった富士黒土層で、土坑下部に行くほど炭化物の量は多くなる。土坑内に火を焚いた痕跡は見られないが、ほとんどの礫が赤化している。

出土遺物を第12図－1～4に示す。1～3はいずれも格子目文土器の小片である。1は格子目文が切り合っている状況が見える。2はネガティブ押型文である。3は整った菱形が並んだ格子目文である。3点とも文様原体が違うので、同一個体の土器ではない。また、4に示した石皿の破片が出土している。表面が磨滅して平坦になっている。破損した石皿を礫として再利用しているのであろう。

(6) 集石05（第13図）

豊穴住居跡05が埋没した後、その住居跡の上に作ってある。直径1.24m～1.26m、深さ0.49mの土坑の中に礫が入っている。土坑内埋土は炭化物を含んだ黒色土で、下に行くほど炭化物の量は増える。土坑の断面は逆台形をしており、土坑内に礫を詰め込んだような状態である。礫の総点数は237点で、今回調査した集石の中では最多である。平均重量も1066.1gと重いのが特徴である。埋土中に炭化物は含むが、焼土を含まないことから、土坑内で火を焚いたとは思えないが、ほとんどの礫が赤化している。礫の接合は土坑内だけでなく、土坑外の礫とも接合している。遺物は出土していない。

(7) 焼土土坑01（第14図上段）

休場層上層の上面で検出した。長軸0.64m、短軸0.55m、深さ0.15mの土坑である。平面形は梢円形で、埋土は焼土の粒を多く含んだ富士黒土層と同じく焼土の粒を多く含んだ休場層である。遺物は諸磯b式土器と撚糸文土器の小片が出土している。土器の時期から考えれば、この土坑は縄文時代前期、諸磯b式の時期ということになる。

(8) 焼土土坑02（第14図下段）

休場層上層の上面で検出した。直径0.45m～0.58m、深さ0.12mの円形の土坑である。埋土は焼土の粒を多く含んだ富士黒土層と同じく焼土の粒を多く含んだ休場層である。遺物は出土していない。

(9) 焼土土坑03（第15図上段）

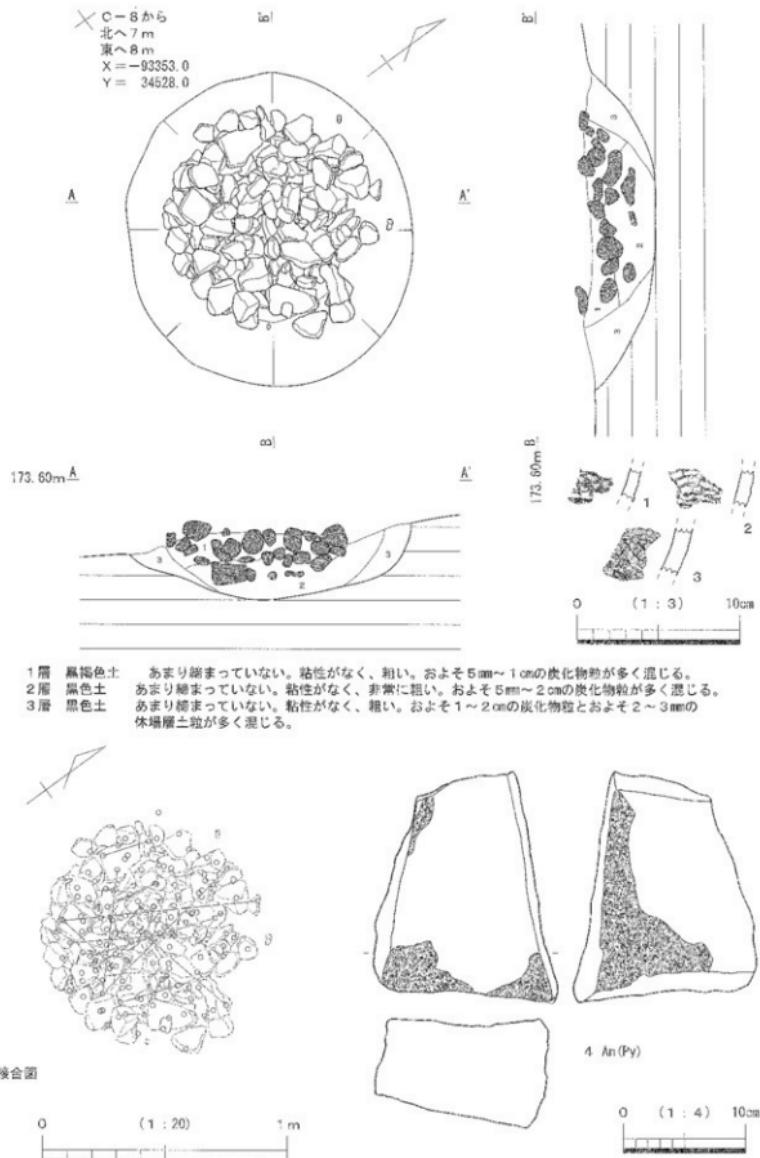
休場層上層の上面で検出した。長軸1.72m、短軸0.55m、深さ0.29mの歪んだ梢円形の土坑である。埋土は焼土を多く含んだ休場層である。検出面と埋土から考えると旧石器時代の可能性もあるが、後述するように、周辺で縄文土器が出土しているため、縄文時代の土坑として報告する。

(10) 焼土土坑03周辺遺物分布域（第15図下段）

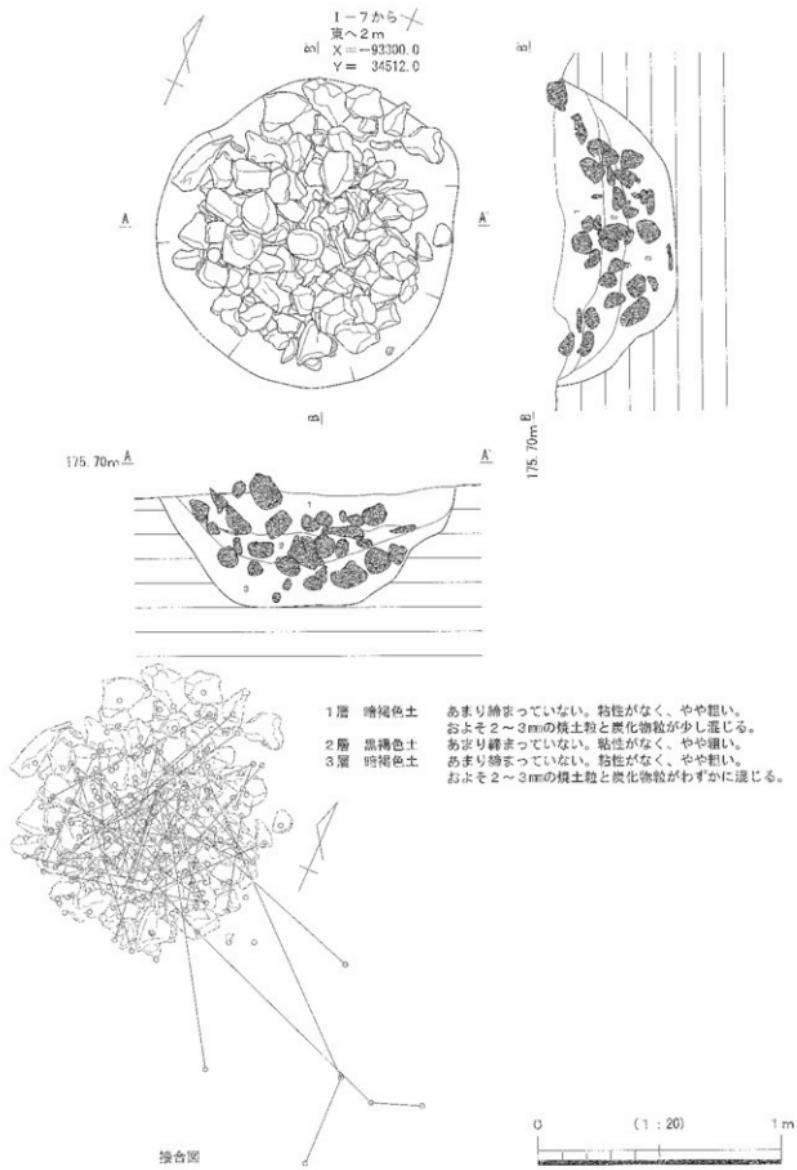
焼土土坑03の周辺では、縄文時代早期の遺物が集中して出土した。出土層は富士黒土層を中心に、その上層の栗色土層から、富士黒土層の下層にある漸移層まで及んでいる。出土した遺物を第16図に示す。土器は撚糸文土器と押型文土器、早期の縄文土器が出土している。

1～4は撚糸文土器である。1は、R撚りの撚糸が交差している。2はR撚りの撚糸を縦方向と斜め方向に施して交差させている。3もR撚りの撚糸を縦方向に交差させるように施してている。4もR寄りの撚糸を縦方向に交差させるように施してている。1～4の撚糸文土器は、別個体であるが、R撚りの撚糸文を交差させる特徴がある。いずれもイラウネ段階と考えられる。

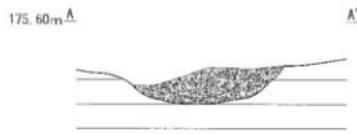
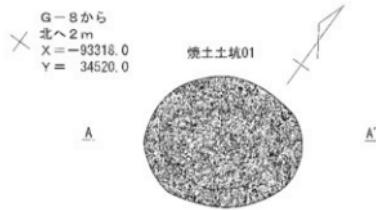
5～8は格子目文土器である。5は格子目文土器と思われるが、格子が不規則で乱れた印象を受ける。6は長方形が規則正しく並んだ印象の格子目が入っている。



第12図 集石04平・断面図、出土遺物 (1~3 : 1/3, 4 : 1/4)

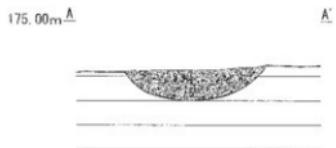
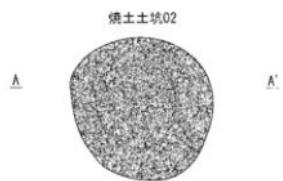


第13図 築石05平・断面図

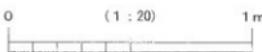


1層 富士黒土層混合土 固く締まり粘性はない。焼土を多く含む。
 2層 休場層混合土 硬く締まり粘性はない。焼土を多く含む。

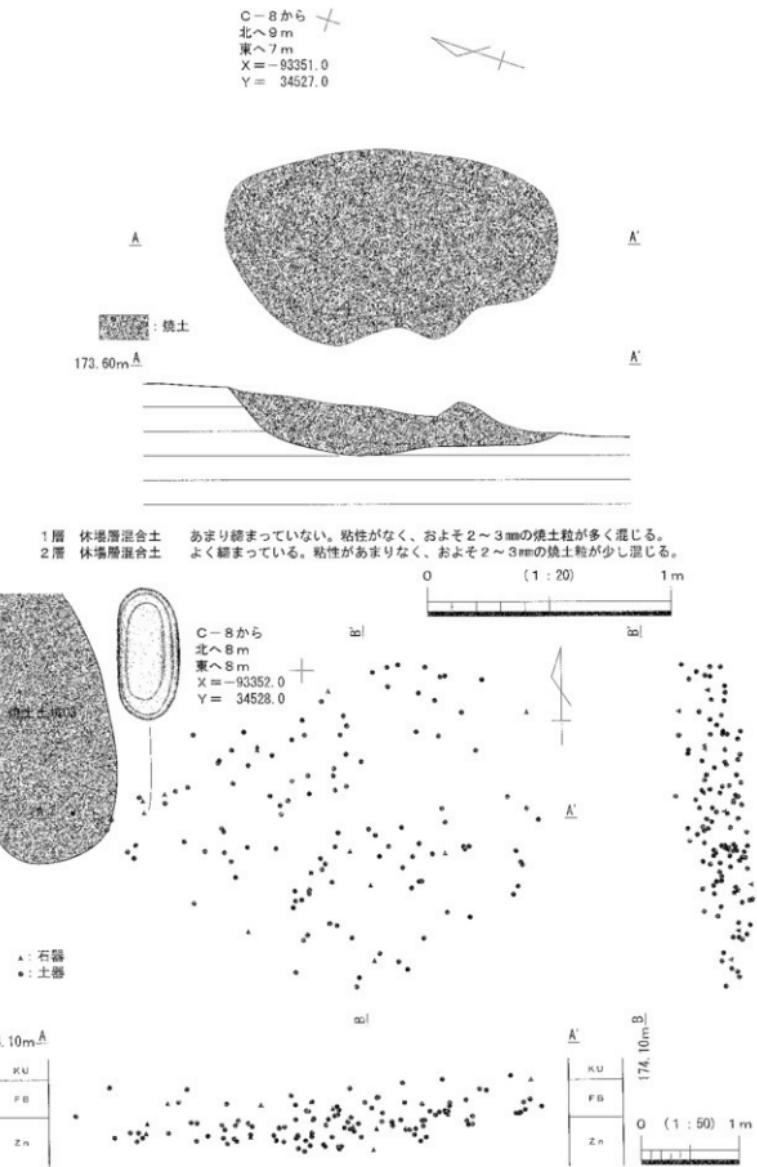
: 焼土



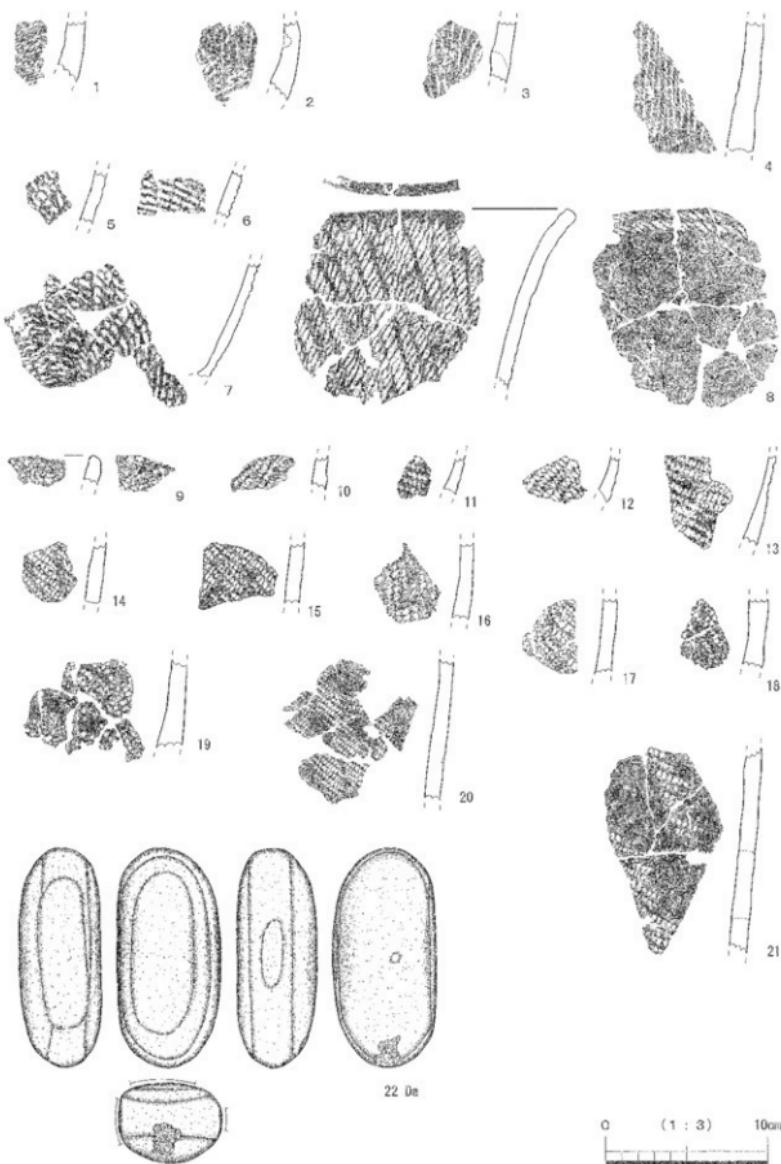
1層 富士黒土層混合土 あまり締まっていない。粘性がなく、粗い。およそ2~3mmの焼土粒が多く混じる。
 2層 休場層混合土 よく締まっている。粘性があまりなく、およそ2~3mmの焼土粒が少し混じる。



第14図 焼土土坑01、02平・断面図



第15図 焼土土坑03平・断面図、周辺遺物分布図



第16圖 烧土土坑03周辺出土遺物

7は底部に近い部分の破片で、長方形が規則正しく並んだ感じの格子目文が入っている。8は口縁部を面取りした後、外面一面に格子目文を入れている。内側の口縁部直下にも格子目文が入っている。格子目の文様は一見して特徴的である。これらの格子目文土器はいずれもイラウネ段階であろう。

9～21は縄文土器である。9は口縁部の破片で口縁端部を面取りした後、外面にLRの縄文を施文してある。10と11はRLの縄文を施文してある。12はLRの縄文を施文してある。13はLRの縄文を施文した後、なでて調整してある。14と15、19はLRの縄文、16と17はRLの縄文を施してある。14～17、19は、大きさの割に軽く、滑らかな手触りの胎土に特徴がある。18はLRの縄文を施してあるが、縄目がまばらなため、縄文を回転させているのか疑問である。20はRLの縄文を施文しているが、施文がまばらである。胎土は軽しきような胎土である。21はRLの縄文を施文しているが、施文間隔が広く開いているため、かなりまばらな印象を受ける。これも軽しきような胎土を使っている。

22はデイサイトの円礫を使った磨き痕と敲打痕のある石器で、表面に磨き痕、端部に敲打痕がある。

(11) 焼土土坑04（第17図）

漸移層上面で検出した直径0.55m、深さ29cmの土坑である。埋土は焼土を多く含んだ富士黒土層と休場層上層である。埋土の上層から第17図-1の石皿が出土している。

(12) J7グリッド周辺出土遺物（第18図、第19図、第24図）

J7グリッド付近に遺物の集中が認められたため、遺構ではないが、遺物集中域として扱った。出土した土器を第18図と第19図に載せたが、燃糸文土器、押型文土器、下吉井式、諸磯式と複数時期に渡る土器が出土しているため、一括遺物ではない。

第18図-1、2は燃糸文土器で、1はRの燃糸を斜め方向に施文してある。2はLの燃糸を斜め方向に施文した後、表面をなでてあるため、表面の粘土が燃糸文の上にはみ出している部分がある。これによって、拓本では燃りの方向を表現できなくなっている。いずれも西洞へイラウネ段階の土器である。

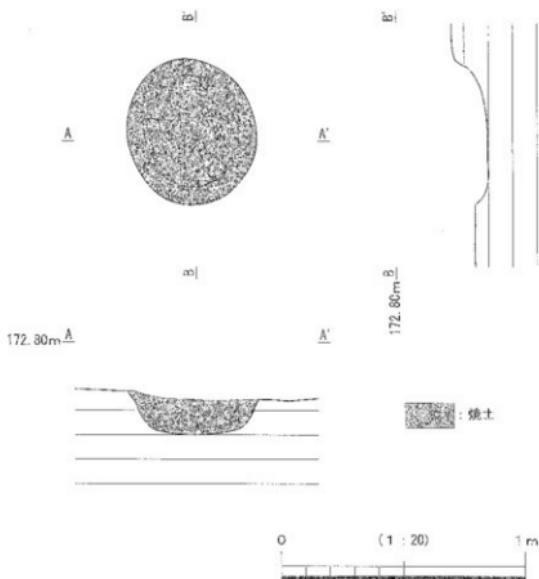
3～7は楕円文土器である。3は口縁部の破片で、口縁直下に楕円文を施文してあるが、楕円が不鮮明である。4は口縁部の破片で、口縁端部が外反する特徴がある。これも楕円が不鮮明である。5は小片だが、楕円文が切り合っている状況が見える。6と7は楕円の形が崩れており、配列も不規則になっているのがわかる。

8～11は条痕文土器で、11は野島式である。8～10は条痕調整の後、表面をなでてある。11は、条痕調整の後、沈線を引いている。

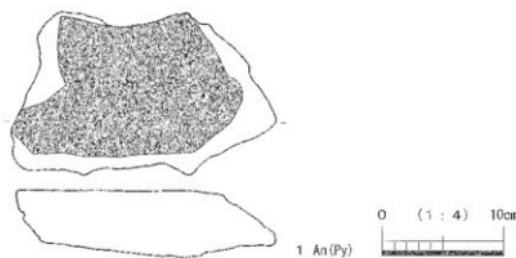
第19図-1～5は縄文を施文してある。1は、口縁端部を面取りしてあり、外面と内面の口縁直下にLRの縄文を施文してある。縄目の間隔が広い特徴があり、胎土は軽しきような胎土である。2はRLの縄文を施文しているが、これも縄目の間隔が開いており、軽しきような胎土を使っている。1、2ともにイラウネ段階に属する。3～5はRLの縄文を施文した後、表面をなでてあるため、縄目が消えかかっていたり、縄目の縁が丸みを帯びたりしている。これらもイラウネ段階である。

6～12は下吉井式である。6は条痕による調整が見られるだけだが、7～12と同じ胎土のため、下吉井式に含めた。7と8は、口縁端部に半円形の棒状工具を斜めに押し当てて施文している。胸部は条痕の後、浮線文を貼り付け、浮線文の両脇を棒状工具でなでて浮線文を固定している。そして最後に、浮線文の上に棒状工具を斜めに押圧している。9は、条痕調整の後浮線文を波状口縁の直下に口縁に沿って貼り付けている。そして、胸部にも横方向に浮線文を貼り、波状口縁から垂下させた浮線文を胸部横方向の浮線文に連結し、口縁直下の浮線文と胸部横方向の浮線文、波状口縁から垂下する浮線文、この3つの浮線文で文様帶を区画している。浮線文は、両脇をなでて固定してあり、浮線文の上には半円形工具の端部を押圧した刺突文がある。浮線文の両脇をなでて浮線文を固定。口縁端部にも半円形工具の端部を押圧。胸部横方向の浮線文の下には、条痕調整の後に貝殻腹縁文の施文が見られる。

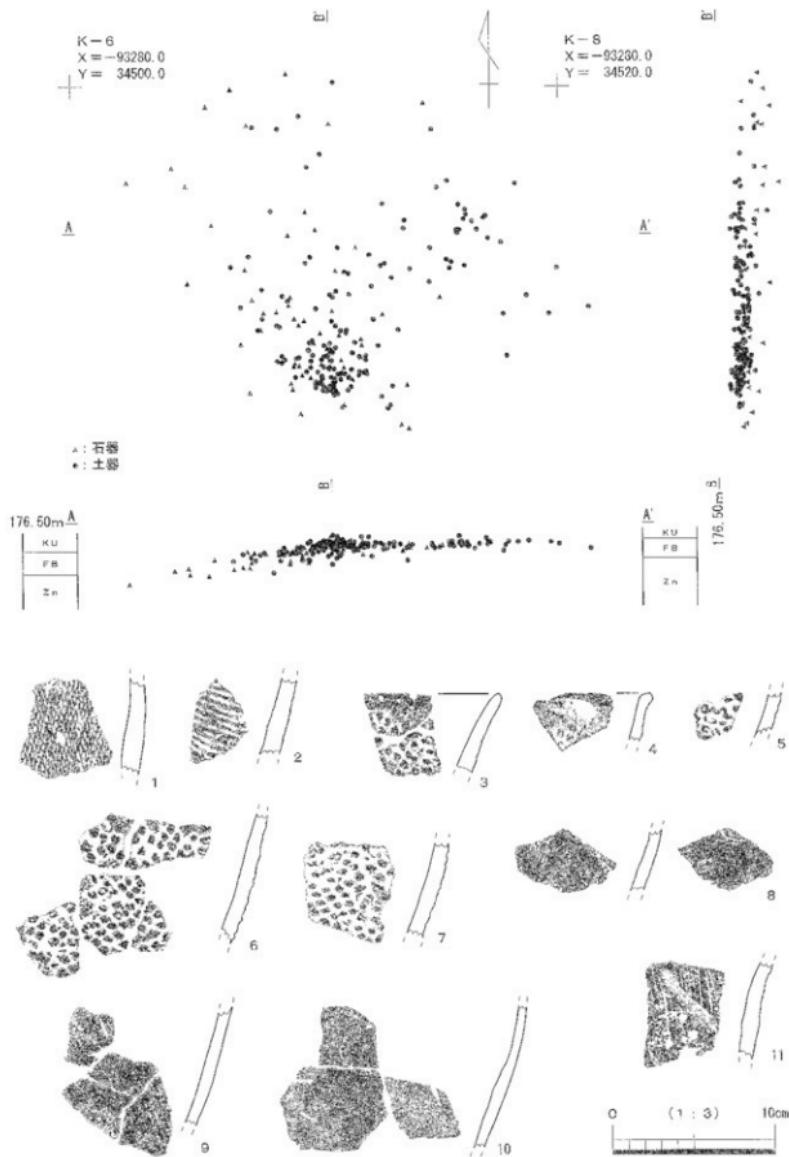
B = 9から +
 北へ 8m
 X = -93362.0
 Y = 34530.0



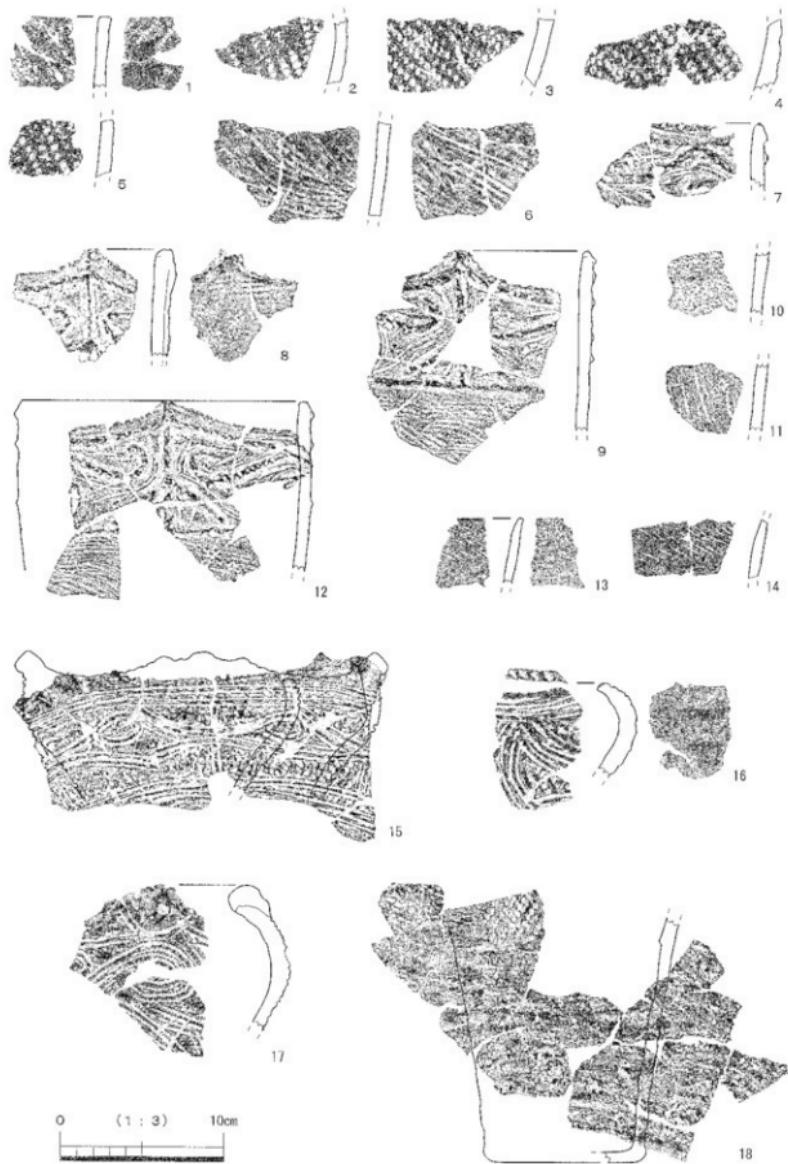
- 1層 富士黒土層混合土 よく練なっている。粘性がなく、およそ2~3mmの焼土粒が混じる。
 2層 富士黒土層混合土 よく練まっている。粘性がなく、およそ2~3mmの焼土粒が多く混じる。
 3層 休場層混合土 よく練まっている。粘性があまりなく、およそ2~3mmの焼土粒が少し混じる。



第17図 焼土土坑04平・断面図、出土遺物



第18図 J7グリッド周辺遺物分布図、出土遺物（1）



第19図 J7グリッド周辺出土遺物（2）

10は表面に貝殻腹縁文を施してある。11には条痕による調整が見られる。10、11とも9と同一個体と思われる。12は波状口縁で、口縁の端部に半円形の棒状工具を押圧してある。そして、波状口縁の突起から垂直に浮線文を降ろした後、口縁直下に、口縁と平行に浮線文を貼り、浮線文と口縁端部の間をなでて浮線文を固定している。浮線文の上には半円形の棒状工具の端部を押圧し、胴部には、横方向に浮線文を貼り、その浮線文と口縁の間に浮線文を藤手状に巡らせて文様を作っている。浮線文でモチーフを作った後は、モチーフの間を細い棒状工具でなでて浮線文を固定すると同時に器面を調整している。浮線文による文様帶の下には、条痕調整の後に貝殻腹縁文を施している。

13と14は清水ノ上皿式で、外面に棒状工具を使って斜めの連続した押圧がある。

15は諸磯b式で、口縁部は内湾している。口縁は波状口縁で、突出部外面につまみ状の突起が付いている。口縁端部には棒状工具による押圧があり、外面はLR繩文を施文した後、口縁直下に並行竹管文を引き、その下に並行する竹管文でレンズ状文を描いている。さらにその下にも横方向に並行竹管文による文様を描いている。16も諸磯b式で、口縁端部を面取りした後、口縁端部に棒状工具の端部を押圧している。口縁直下には横方向の並行竹管文があり、胴部には、RLと思われる繩文を施文した後、竹管文により曲線の文様を描いている。17は諸磯b式で、口縁部は内湾している。波状口縁で外部につまみ状の突起が付いている。その突起には棒状工具による刺突がある。燃りの方向は不明だが、繩文の後に竹管文で藤状の文様を描いている。18は諸磯b式の胸部～底部と思われ、RL繩文を施文した後、一部をなでて消している。

第24図-1～4はJ7グリッド付近の遺物集中域で出土した石器である。1は石鏃で、長さが短い割に基部の抉りが深いため、ブーメラン状になっている。2は剥片を使った周縁加工尖頭器で、周縁に45度程の角度の剥離を入れて加工している。主剥離面側には剥片の打瘤を除去したと思われる剥離が見られる。細長い木の葉形できれいな平面形である。3は細長い尖頭器で、4と同じ形態の有舌尖頭器と思われる。4は有舌尖頭器で、基部をわずかに欠損している。

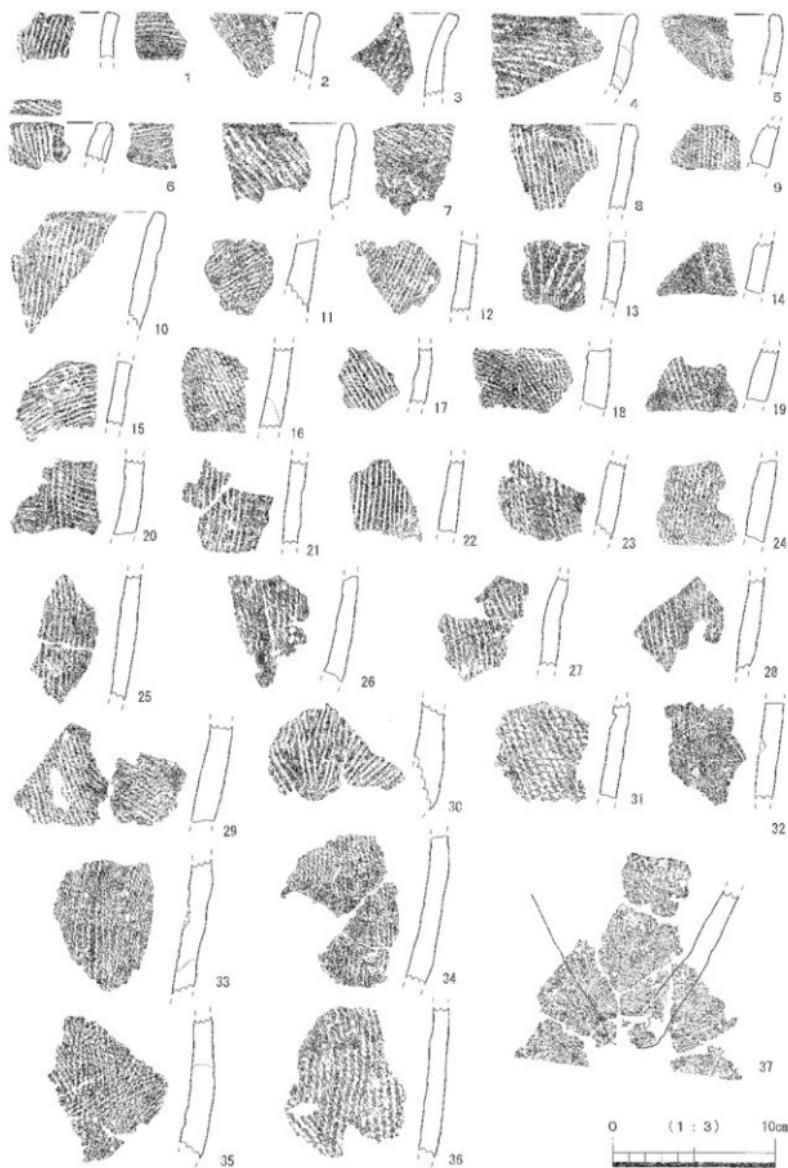
(13) 包含層出土遺物

撚糸文土器（第20図）

第20図に掲載した撚糸文土器は、特記しない限りすべてR撚りである。

1は口縁部の破片で、端部を面取りしてある。内面の口縁直下は横方向、外面は縦方向に施文している。2は外面に斜め方向に施文してある。3はL撚りの撚糸を斜め方向に施文してある。4は横方向に施文してある。5は縦方向に施文しているが、撚糸の間隔が開いている。6は口縁端部を面取りして、口縁内外面と口縁端部にも施文してある。内外面とともに撚糸の走向が乱れている。7は口縁部の両面に斜め方向に施文してある。8は外面の口縁直下から縦方向に施文してある。9は細い撚糸を縦方向に施文している。10は斜め方向に施文している。11は斜め方向に施文しているが、施文方向が異なる部分が見られる。12は斜め方向に施文して交差させているようだが、撚糸の間隔が開いている。13は撚糸の間隔がかなり開いており、まばらな印象を受ける。14は斜め方向に施文しているが、撚糸の間隔は広い。15は斜め方向に密接に施文している。施文後なでているため、一部で文様が消えかかっている部分がある。16は走向が乱れる特徴がある。17は斜め方向に施文している。

18はR撚りの撚糸を斜め方向に施文している。19は斜め方向に施文している。20は縦方向施文と横方向施文が混じる特徴がある。21は縦方向に規則正しく並行に施文している。22は縦方向に施文した後に表面をなでてある。23は斜め方向に密接した撚糸文が見られる。24は縦方向に施文しているが、一部で原体の当たりが弱く、文様がはつきりしない部分がある。25と26は走行が乱れて撚糸文が交差する特徴がある。27は縦方向に施文しているが、撚糸の間隔が不規則な部分が見える。28と29は走行が乱れる特徴がある。



第20図 純文時代包含層出土物（1）

0 (1 : 3) 10cm

30は斜め方向に交差した撚糸文が見られる。31は斜め方向に施文している。32は縦方向に施文しているが、一部で交差が見られる。33は細い撚糸を使っており、一部で交差が見られる。34は走行が混れて撚糸文が交差する典型的な例である。35も異なる走向の撚糸文が交差している。36は走行が乱れ、撚糸文が交差しており、さらに施文後に表面をなでているため、文様が不鮮明になっている。37は不鮮明ながら縦方向にまばらな撚糸文が見られる。器壁が厚い特徴がある。

以上の撚糸文土器は、すべて西洞段階～イラウネ段階に入る。

押型文土器（第21図-1～12）

1は山型文土器で、イラウネ段階に属する。この遺跡では山形文は少ない。2～4は楕円文土器である。いずれも胎土に織維を含んでおり、文様の楕円の形が崩れている。細久保式と高山寺式の間に位置づけられる。5～12は格子目文土器で、いずれもイラウネ段階に位置づけられる。

田戸下層式土器（第21図-13）

13は、横方向に並行する2本の沈線で文様帯を区画し、上の区画には、横方向に貝殻腹縁文を入れ、その下の区画には、横方向に並行する細い沈線を入れている。さらにその下の区画には細い沈線と貝殻腹縁文の両方が見られる。

茅山下層式並行の土器（第21図-14）

14は、口縁部に凸状の突起が付いている。皿状突起の外縁には、棒状突起の押圧が見られるが、外側の外縁には円形棒状工具の端部を押圧しているのに対して、内側の外縁には、棒状工具の側面を押圧している。胴部外面はLR縞文を施文した後、口縁直下に並行する2本の太い沈線を入れている。胴部には並行する2本の太い沈線を格子目状に施文している。文様構成は鶴ヶ島台式に似ているが、沈線の交差部分に刺突がない。

早期～前期初頭の土器（第21図-15～17）

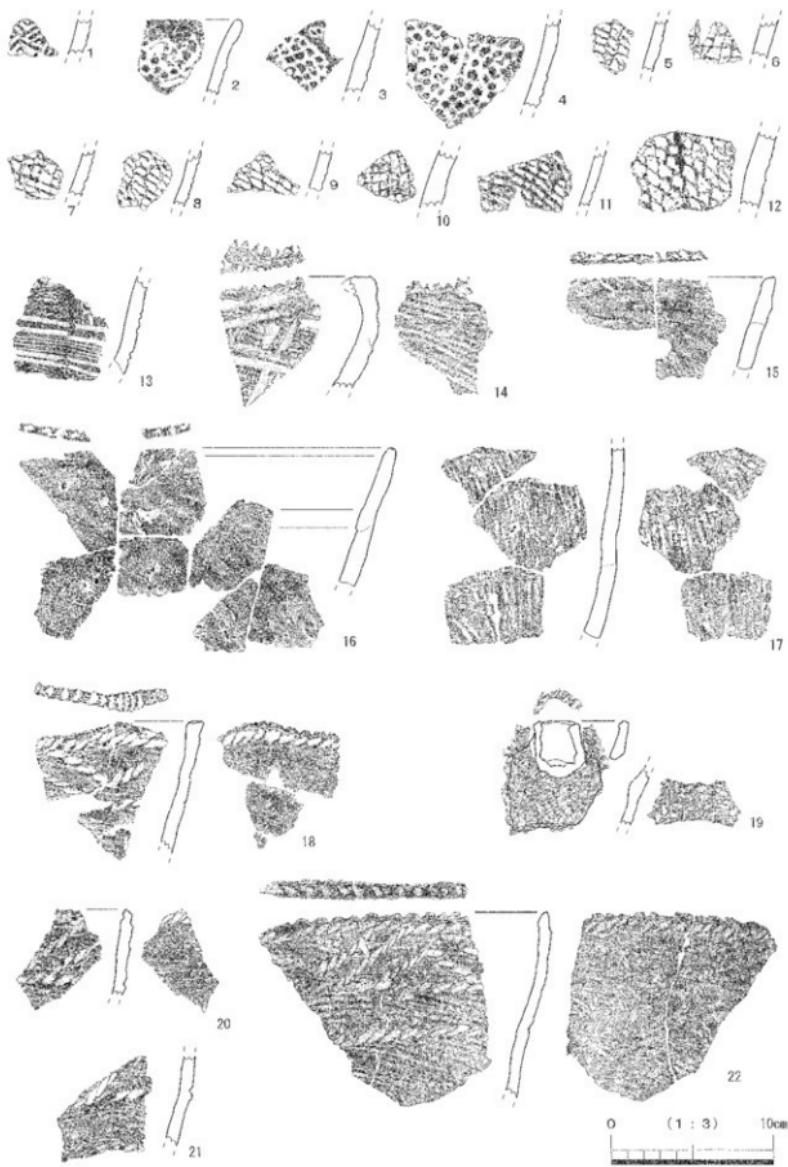
15は条痕文土器で、口縁端部に棒状工具の端部の押圧がある。16も条痕文土器と思われるが、胴部はなでて調整してある。15と同様に口縁端部に棒状工具による連続押圧がある。17は条痕文土器で、両面に条痕が見られる。

八ヶ崎I式土器（第21図-18～22）

18は波状口縁の端部に棒状工具による押圧がある。胴部は条痕調整の後、口縁に沿って連続爪形文を入れ、その下に並行する2列の爪形文をジグザグに入れている。また、口縁内側にも連続爪形文が見られる。19は、口縁に付けられた中空の突起部分である。突起の内面はなでている。突起の口縁上端と口縁胴部には爪形文が見られる。突起の胴部には縦方向の爪形文、突起の下端には横方向の爪形文が見られる。土器の胴部は条痕調整の後、爪形文を施文し、その後に爪形文の間をRL縞文で充填している。20と21は条痕調整の後、爪形文を入れている。20は口縁内側にも爪形文が見られる。22は、口縁端部に棒状工具の端部を押し当てる押圧文がある。胴部は条痕調整の後、口縁直下に1列の連続爪形文、その下に2列の並行する爪形文を入れ、上2列の連続爪形文の間にジグザグの爪形文を入れている。また、内面の口縁直下にも連続爪形文が見られる。

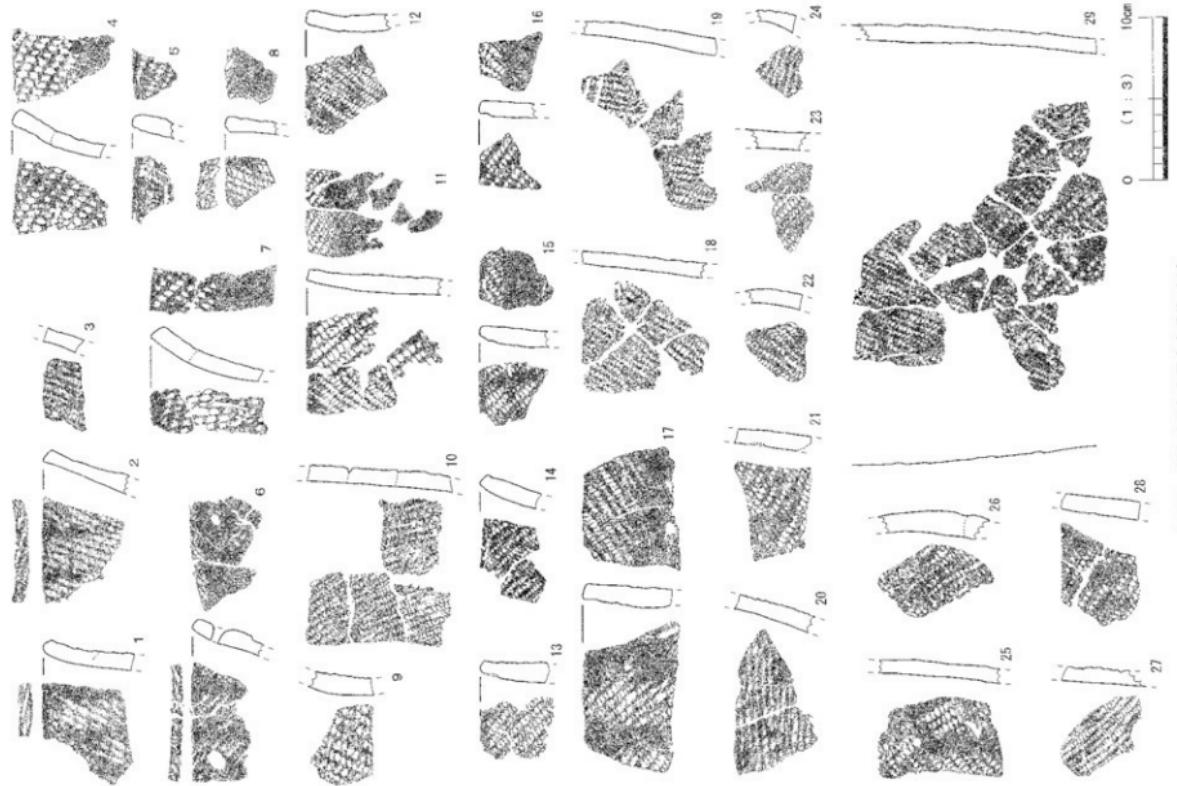
早期繩文土器（第22図）

1はRの無節縞文を断続的に施文しているため、施文単位間の間隔が開いている。また、口縁端部にも施文してある。2と3はLの無節縞文を施文しており、2は口縁端部にも見られる。4は口縁部を面取りしてあり、表裏にRLの縞文を施文している。縞文の間隔が広い特徴がある。6と7は口縁端部と口縁直下の表裏にRLの縞文を施文しているが、表面の方は施文間隔が開いている。8は口縁部と口縁直下の表裏面にRLの縞文を施文してある。9はLの縞文を施文してある。10は縞目の細かいRLの縞文を施文している。11は口縁部を面取りしてあり、口縁部内外面にLRの縞文を帶状に施文している。縞粒の大きさ



第21図 繩文時代包含層出土遺物（2）

第22圖 編文時代包含層出土遺物（3）



さが違う2種類の縄を使い、胎土は軽しようである。12は、口縁部を面取りして、外面にRLの縄文を施文している。13は口縁部外面を面取りした後、内面側も面取りしているため、口縁端部が尖っている。口縁直下からRLの縄文を施文している。軽しような胎土である。14はRLの縄文を施文しているが、縄文の間隔が広い特徴がある。15～17は口縁部を面取りした後、口縁部の外外面にLRの縄文を施文している。軽しような胎土である。18はLRの縄文を施文した軽しような胎土の土器である。19はLRの縄文を施文した後に沈線を引いているのが見える。20にはLの無節縄文が見られる。

21～24、26、27はLRの縄文を施文しており、胎土は軽しようである。25はLRの縄文を帶状に施文している。28はLRの縄文を施文してあるが、縄目の間隔が広く開いており、回転して施文したのか疑問である。29はRLの縄文を帶状に施文している。以上の縄文土器はすべて西洞ヘイラウネ段階に属する。

諸縄b式土器（第23図）

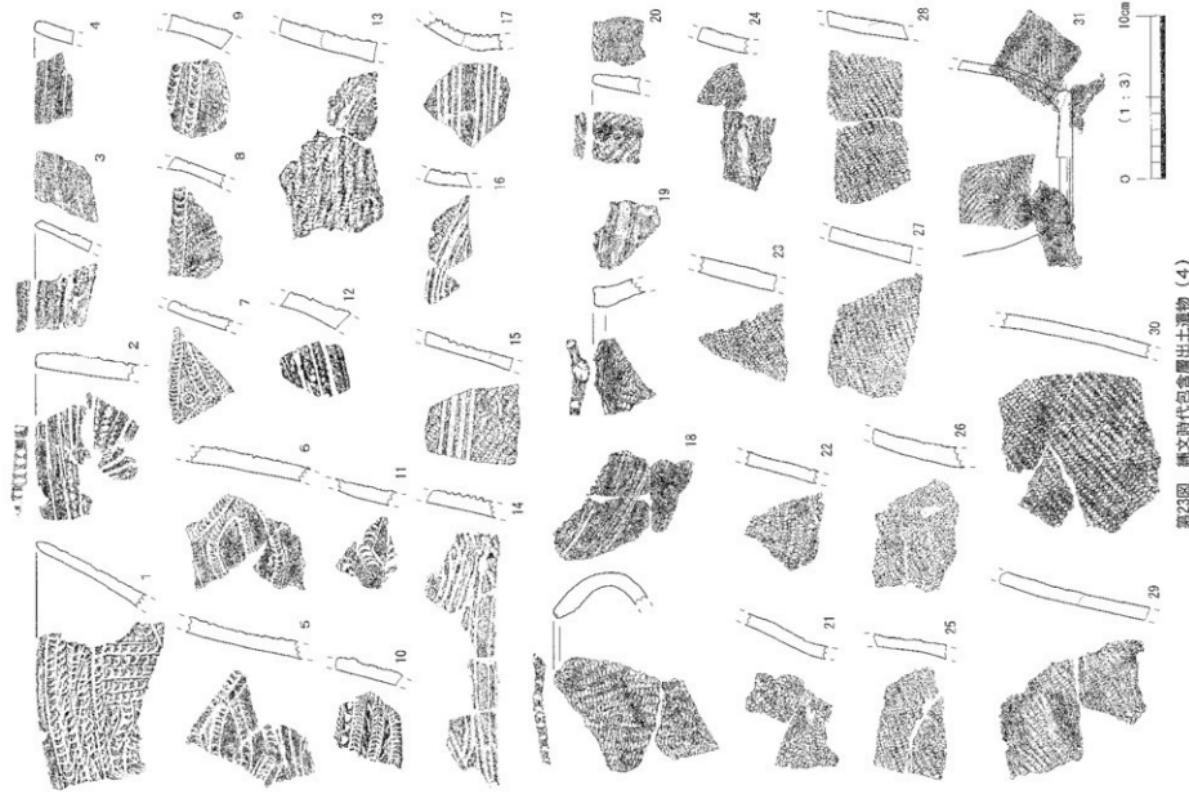
1は口縁部の破片で、口縁部直下には横方向に並行沈線を入れその間に連続爪形文を入れている。竹管でも同様の文様を作れるが、爪形文が沈線の上に重なる部分があることから、沈線と爪形文は別に付けられたとわかる。胴部には縦方向の沈線文の間に爪形文を入れた部分と蛇行する並行沈線文の間に爪形文を入れた部分がある。2は口縁端部面取りの後、棒状工具による押圧がある。胴部にはRLの縄文を施文した後で並行沈線文を入れ、一部には並行沈線文の中に棒状工具の端部による押圧が見られる。

3は口縁部を面取りした後、口縁直下に浮線文を3本貼り、その上にRLの縄文を施文している。4は内外面とも丁寧になでた後に外面に浅く細い沈線を入れている。5と6は、表面を丁寧になでた後に並行沈線でレンズ状の文様を描き、並行沈線の中に爪形文を入れている。ともに並行沈線と爪形文が合っていない部分がある。7は、並行沈線の間にほぼ等間隔で爪形文を入れているが、沈線がなく、爪形文だけの部分もある。また、円形スタンプ文も見られる。8はRLの縄文を施文した後、並行沈線を引き、その間に爪形文を入れている。9は表面を丁寧になでた後、並行沈線文を引き、その間に爪形文を入れている。10は横方向に並行する3列の連続爪形文を入れた後、上から1列目と3列目に、爪形文の後に並行沈線を入れている。そして、並行沈線と爪形文を組み合わせた文様の間には、棒状工具による押圧が見られる。その押圧も、上から1列目は棒状工具端部を斜めに押圧しており、2列目と3列目は棒状工具の側面を斜めに押圧している。11は並行沈線を入れた後、並行沈線の間に爪形文を入れている。

12はRLの縄文を施文した後、表面をなでて縄文を消してから並行沈線を入れている。なでが浅い部分では、消えきらない縄文がわずかに見える。13は表面を丁寧になでた後、蛇行する浮線文を貼り、その上からRLの縄文を施文している。14は地文がなく、並行沈線でレンズ状の文様を描いている。15はRLの縄文を施文した後、横方向に4本の並行する沈線を引いている。16はRLの縄文を施文した後に竹管文を入れている。竹管文が深いため、竹管内面が当たっている。17は丁寧になでた後、横方向に4本一組の並行沈線文を入れている。18は波状口縁で、口縁端部に棒状工具による押圧がある。外面にはLRの縄文を施文し、胴部の張り出した部分は縄文を施文した後、なでて縄文の一部を消している。内面は張り出し部より上は横なで、下はみがき状の丁寧ななでが入っている。19は弱い波状口縁で、波状の突出部に円形の刺突文が見られる。また、口縁端部には棒状工具による押圧もある。20は口縁端部と口縁部両面にLRの縄文を施文してある。

21～30は諸縄b式と思われる縄文の入った胴部の破片である。21は縄文が入り乱れている。22はRLの縄文、23、25～28、30はLRの縄文が入っている。24は条痕調整の後、LRの縄文を施文し、さらに一部をなでているため、縄文が消えかかっている部分がある。29と30もLRの縄文を施文した後、なでているため、一部の縄文が消えかかっている。

31は底部を含む破片で、RLの縄文を施文しているが、施文単位の間隔が聞く特徴がある。



第23图 新石器时代包含陶出土遗物 (4)

石鎚（第24図－5～22）

5～22は石鎚である。5は有茎の石鎚で茎部を欠損している。6～13は基部の抉りが深いものである。6は良質な黒曜石を使っており、加工も細かい。7は先端の加工が細かく、基部の方は大きな剥離が残っている。8は脚部だけが残っている。相当脚部の長い石鎚だったと思われる。9は加工が粗い印象を受けるが、縁辺が鋸歯状に仕上がっていいるため、これで完成品なのであろう。上下方向からの深い剥離が目立つ。10は平面形がやや崩れているが、加工は進んでいる。11は細かい剥離は入っていないが、平面形は整っており、薄くなっていることから、完成品と思われる。12は良質な黒曜石を使っており、加工も細かい。13は片方の脚部を欠損しているが、残った脚部から見て、脚部の長い石鎚だったと思われる。14～20は基部の抉りが浅いものである。14は細長い剥離が並行しているため、整った印象を与える。15は特に小型である。16は一部に石の目に似た平坦面を残している。加工が進み、相当薄くなっている。17は、加工は粗いが、完成品であろう。18は実測図左面の方が、加工が細かく、実測図右面の方が加工が粗い。19は細かい剥離は入っていないが、完成品である。20は両側縁から細長い剥離が並行して入れており、側縁は鋸歯状に仕上がっていいる。21と22は平基に近いものである。21は正三角形に近い形で、3辺から平坦剥離を入れている。22は裏面の基部付近に剥片の素材面が残っている。23は先端部の破片で、細長い石鎚か尖頭器のどちらかであろう。

尖頭器（第24図－24～第26図－1）

第24図－24～第26図－1は尖頭器である。24は良質な黒曜石を使っている。第24図－25は横長の剥片を使っており、実測図右面に打瘤を除去した平坦剥離が見られる。実測図左面に平坦剥離が入っているが、まだ厚みが残っている。26は、実測図左面の左側縁から大きな平坦剥離が入っており、これによつて全体が薄くなっている。また、実測図右面にも大きな平坦剥離が見られ、これによって、全体を薄く仕上げている。27は平面形が歪んでいるが、右側縁の屈曲した部分は加工時の欠損で、この部分で大きな階段状剥離を起こしているので、これ以上の加工は無理と思われる。

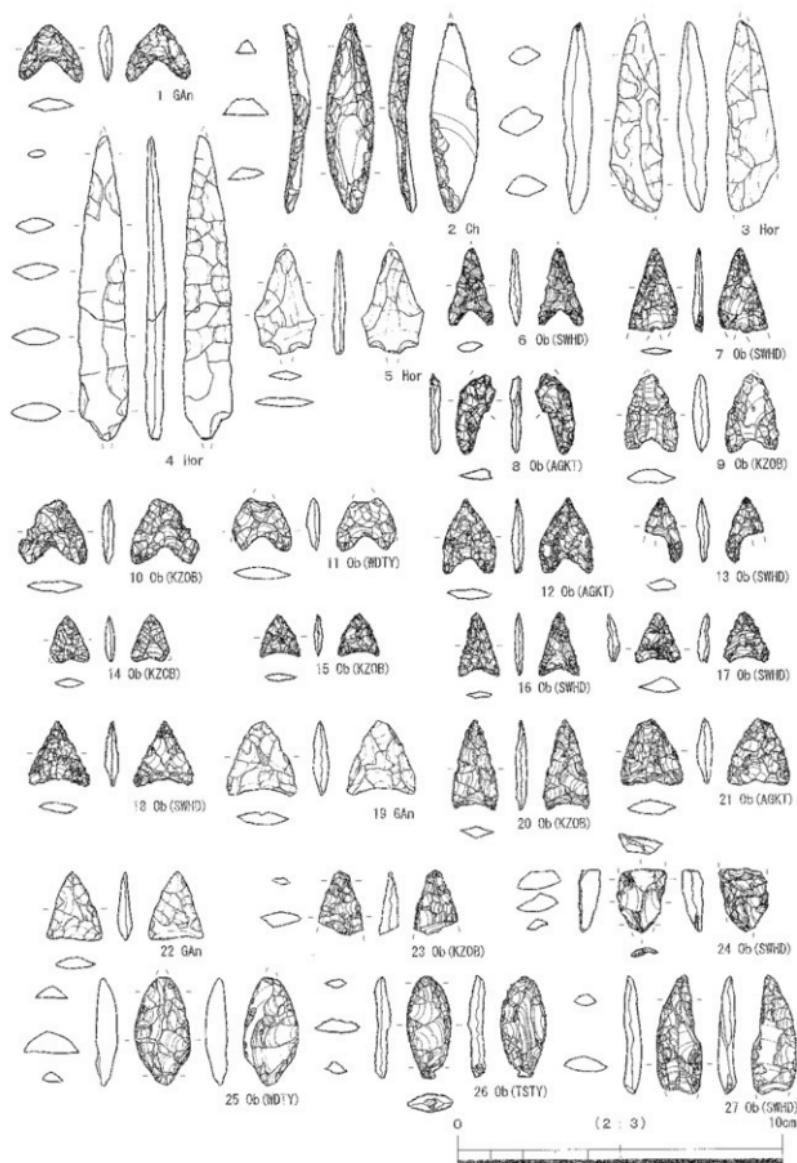
第25図－1は、実測図右面に大きく素材面を残しており、この面では、先端だけ加工してある。2は側面見通し図に表れているように、瘤のように飛び出した部分がある。3は優美な木の葉形である。加工は進んでいるが、體中央付近に達する平坦剥離は少ない。元々薄い剥片を素材にしているのであろう。4は基部が丸くなる形態である。5は継長の剥片を使っており、実測図右面に剥片の主剥離面が残っている。6は横長剥片を使っており、両面に剥片の素材面が残っている。加工は粗いが、これ以上加工すると、相当小さくなってしまうため、これで完成品なのであろう。7は、細粒の安山岩製の両面加工で、基部を丸く仕上げる特徴がある。8はチャート製で、尖頭器としては大型である。平面形がやや歪んでいるが、加工はかなり細かく丁寧で、素材面と思われる剥離面は残っていない。完成品と思われる。第26図－1は両側縁から平坦剥離が入っているため、尖頭器の破片と考えた。

石匙（第26図－2～6）

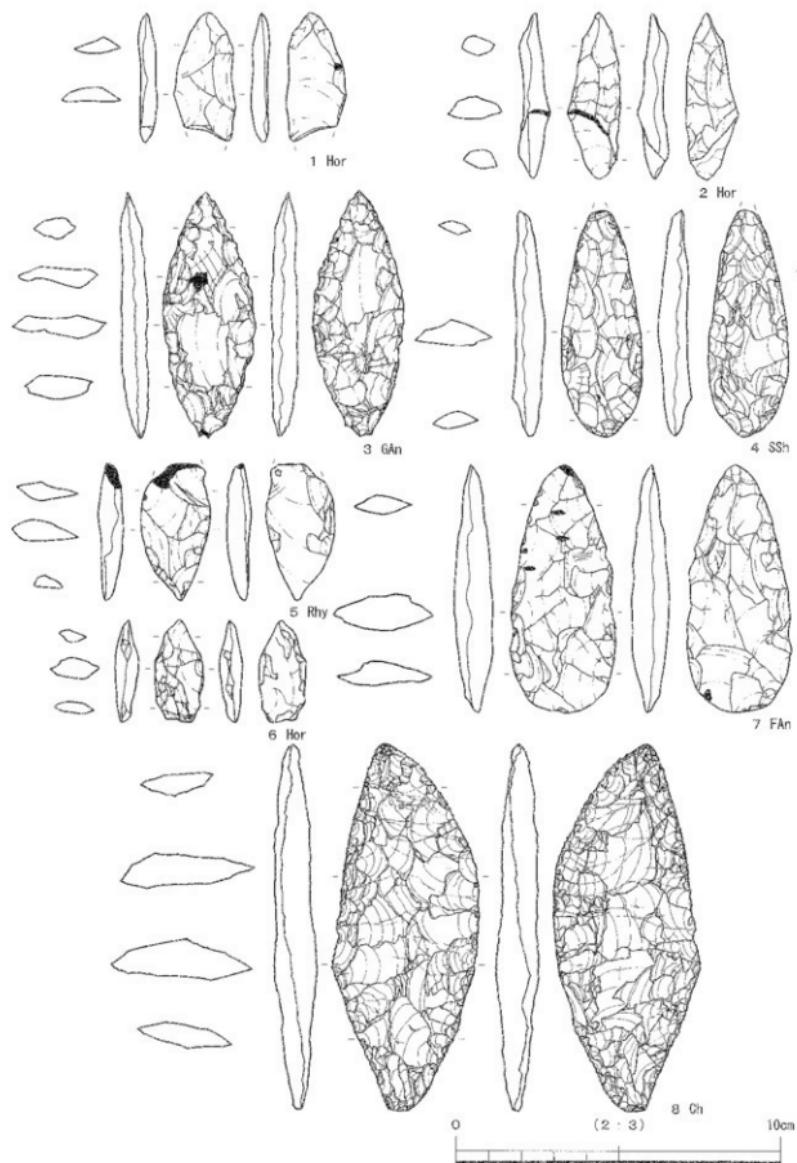
2は石鎚の再利用品である。欠損した片方の脚部をつまみに作り替えている。石鎚の製作途中で脚部を欠損したため、石匙に作り替えたと思われる。3は幅の広い剥片を使い、剥片の打面側につまみを作っている。刃部は剥片末端の薄くなっている部分を利用しているため、刃部を作る剥離は少ない。

4は継長の剥片を使っており、基部に打面を残し、剥片の末端側につまみを作っている。右側縁に主剥離面から剥離を入れて刃部を作っている。左側縁の加工は粗い。

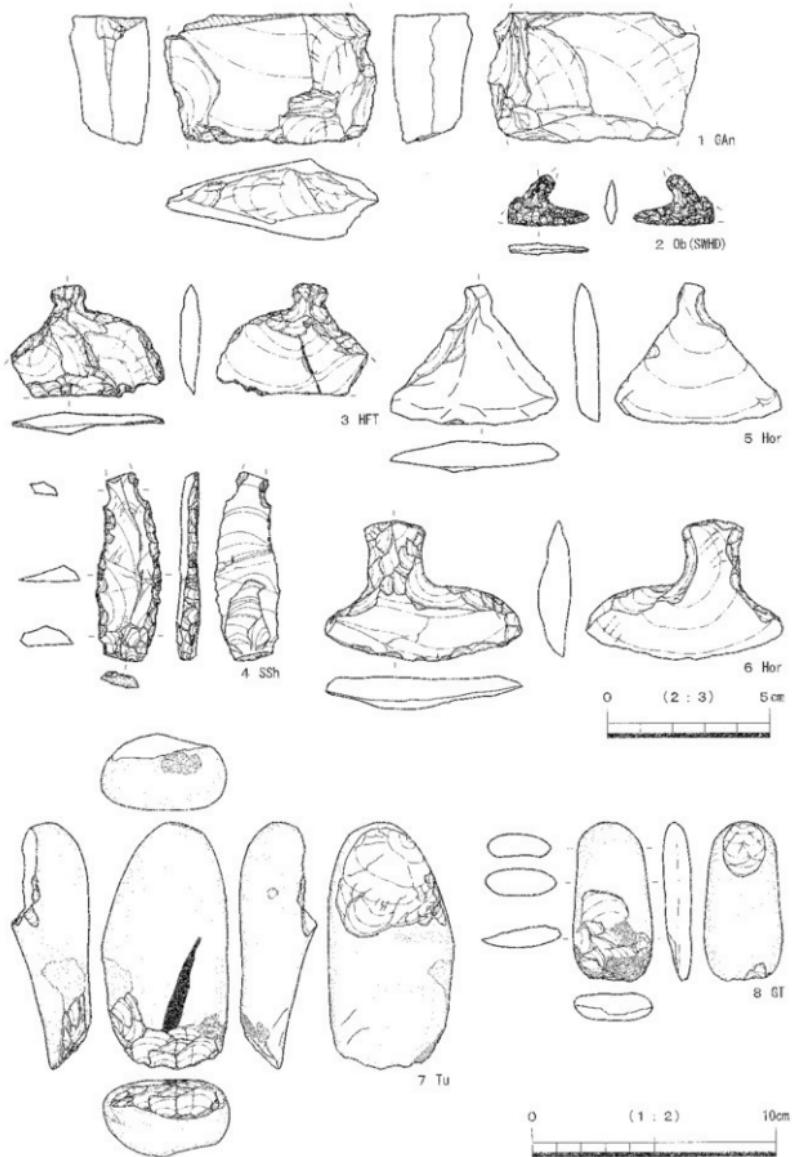
5は風化が進んでいるが、幅の広い剥片を使い、打面側につまみを作っている。刃部の加工は風化のため、観察できないが、剥片末端の薄い部分を刃部にしているため、あまり刃部作出の加工はしていないと思われる。6も幅の広い剥片を使い、打面を除去しながらつまみを作っている。刃部は、剥片末端の薄い部分を刃部にしているため、刃部の加工は少ない。



第24図 J7グリッド周辺、縄文時代包含層出土遺物



第25図 繩文時代包含層出土遺物（5）



第26図 織文時代包含層出土遺物（6）（1～6：2/3、7・8：1/2）

石斧（第26図－7～第30図－2）

第26図－7と8は長楕円形の円礫を使い、一端に刃部を作り出し、刃部の一部を磨いている。作りは大雑把な印象だが、刃部が作られていることから、これで完成品なのであろう。

第27図－1はほぼ全面を磨いている。寸胴だが、欠損しているのではない。2は刃部と側面だけを磨いている。3は円礫を使っており、粗い剥離で刃部を作った後、刃部を磨いている。4は両面に平坦な剥離を入れて全体の形を作った後、側面を敲打して形を整えている。刃部には、図にトーンを入れて示したように、広い範囲に渡って磨滅が見られる。

第28図－1は大きさの割に薄い剥片を使い、縁辺に平坦剥離を入れて形を整えてから、刃部の一部を磨いている。加工の剥離は小さな剥離で、剥片の形を活かしていると思われる。2は片面に大きく自然面を残していることから、粗削りした躰を使っていると思われる。そして、両面に剥離を入れて全体の形を作っている。自然面が残っている側は、中央から基部付近を入念に加工しているのに対して、刃部付近はあまり加工していないため、基部側が細くなり、刃部が広がる形態に仕上がっている。刃部は、縁辺に小さな剥離を入れるだけで仕上げている。

3は両面に自然面が残っていることから扁平な円礫を使っていることがわかる。そして側面から両面に平坦剥離を入れて形を作っているが、器体中央に達するような大きな剥離は見られない。側面には敲打痕があり、基部付近を集中して敲打しているため、基部の方が細くなる形態になっている。刃部には両面から剥離を入れて作っている。

第29図－1は片面に自然面を大きく残す剥片を使い、中央付近に抉りを入れるように加工する特徴がある。刃部は、片面だけ剥離を入れて作っている。2は両面に自然面が残ることから、扁平な円礫を使っていると思われる。そして、中央付近に抉りを入れるように加工している。刃部は片面に自然面を残し、その反対側に剥離を入れてある。3は、両面に平坦な剥離面が残る剥片を使っている。そして、剥片の縁辺に小さな剥離を入れただけで、剥片の形をあまり変えずに作っている。刃部にはわずかに剥離を入れただけで、剥片縁辺の薄さを活かしていると思われる。

第30図－1は片面に自然面が残る剥片を使い、周縁から両面に平坦剥離を入れている。刃部はあまり加工しておらず、全体を細長くするような意図もうかがえない。また、薄く剥がれる性質の石材のためか、階段状剥離を起こしている剥離面が多い。2は剥片素材で片面を磨いている。

石核（第30図－3）

円礫の側面を打点が周回しながら不定形剥片を剥離している。

礫器（第31図－1）

扁平な円礫の一端に剥離を入れて刃部を作っている。

石棒（第31図－2）

一端を欠損しているが、大きさから考えて石棒の一部であろう。

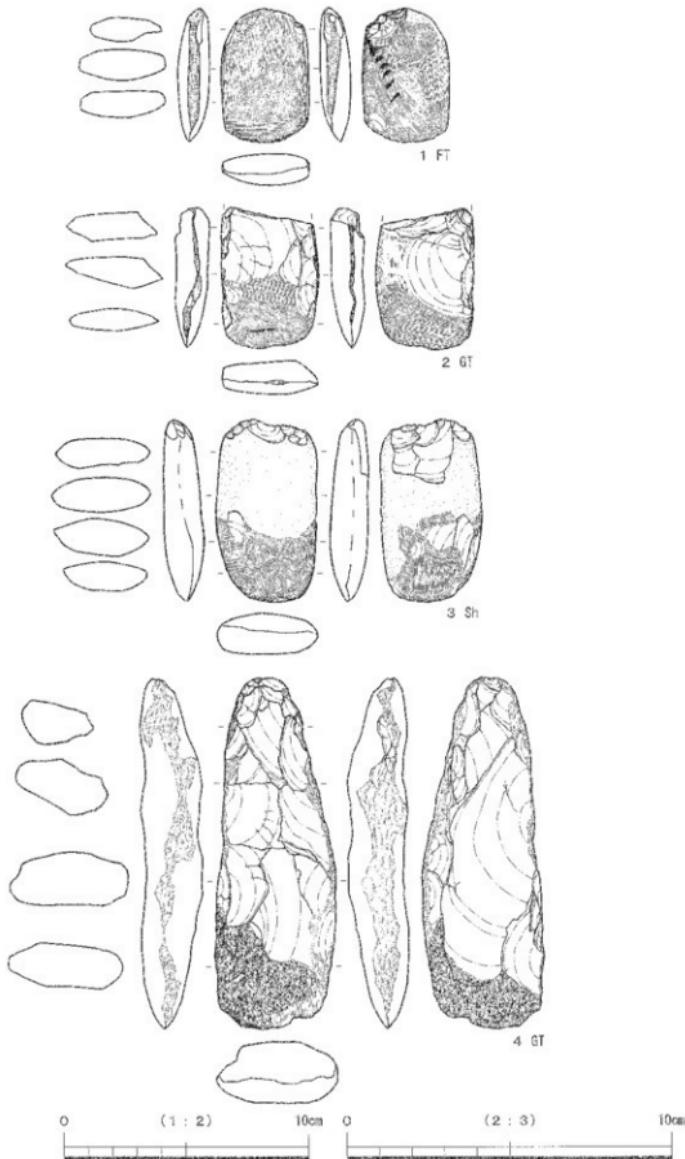
敲打痕・磨滅痕のある礫（第32図、第33図）

第32図－1、2は円礫の両面に磨滅した面がある。3は円礫の両面と側面に敲打痕がある。4は円礫の両面と側面に磨滅した面がある。

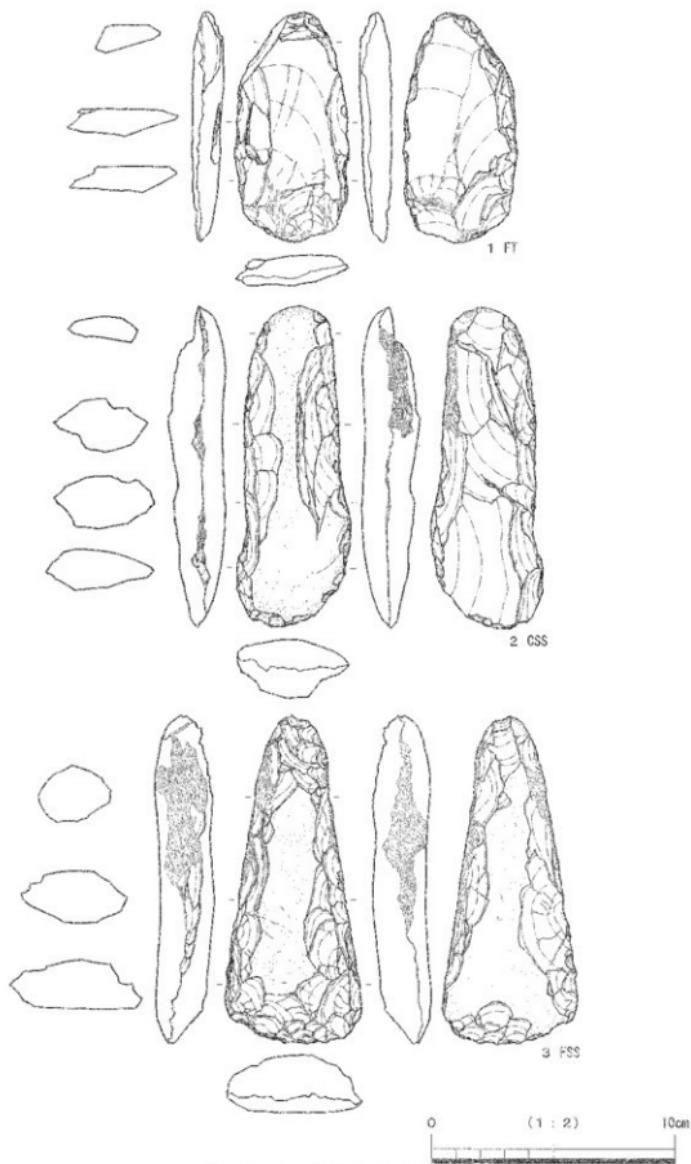
第33図－1～6、8～10は円礫に磨滅した面が見られる。7は円礫の両面に敲打痕がある。

石皿・台石（第34図）

1と2は磨滅して窪んだ面がある。3～5は磨滅して平らになった面がある。6は台石で、円礫の表面が磨滅してわずかに窪んでいる。

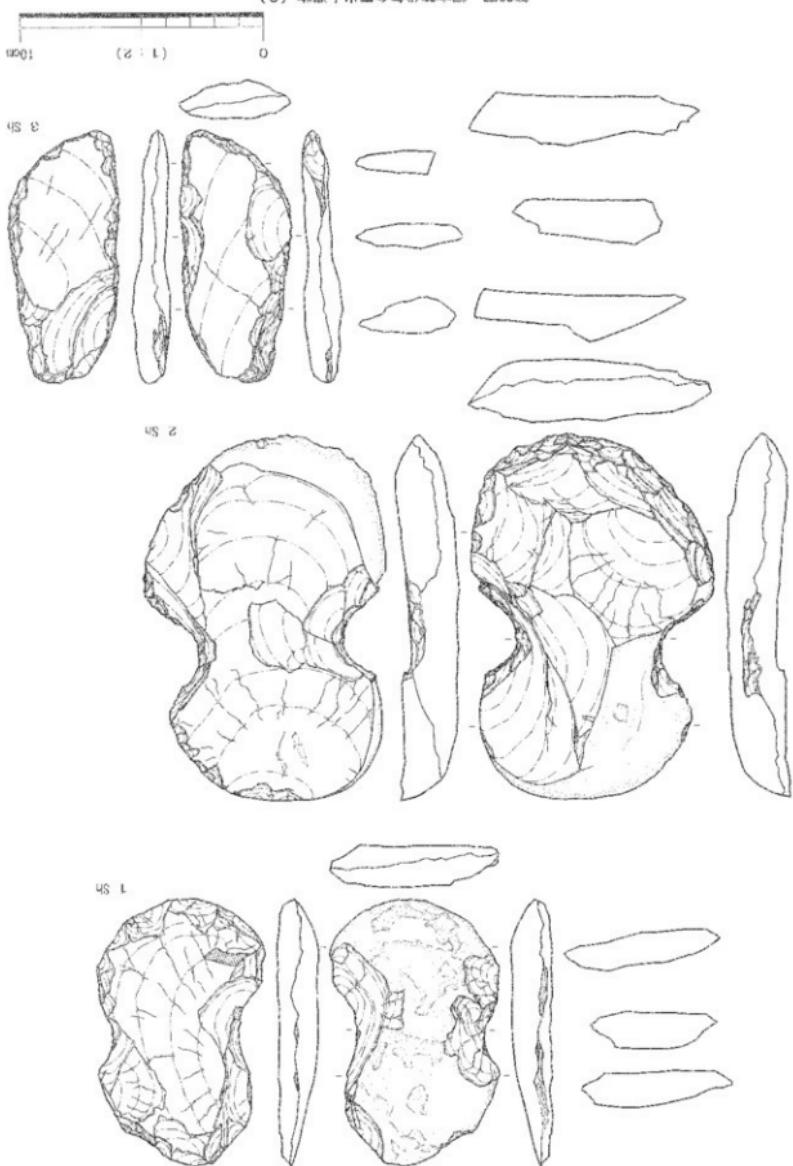


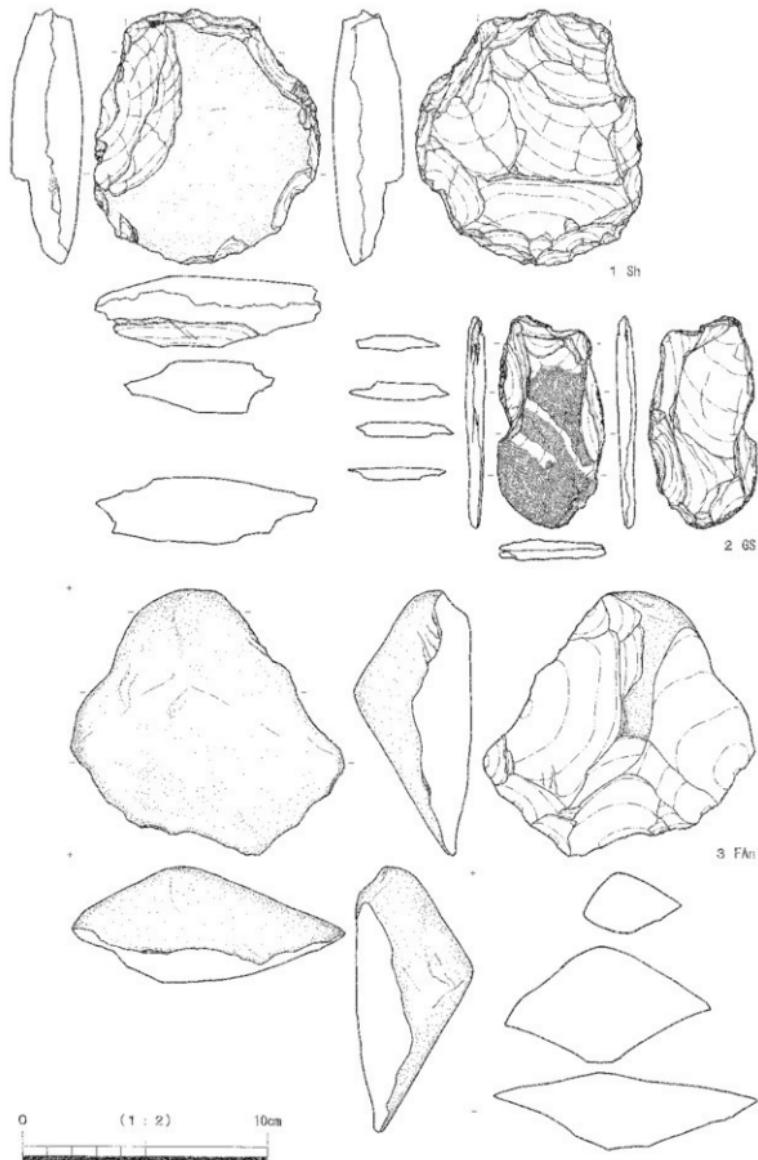
第27図 繩文時代包含層出土遺物 (7) (1・2 : 2/3、3・4 : 1/2)



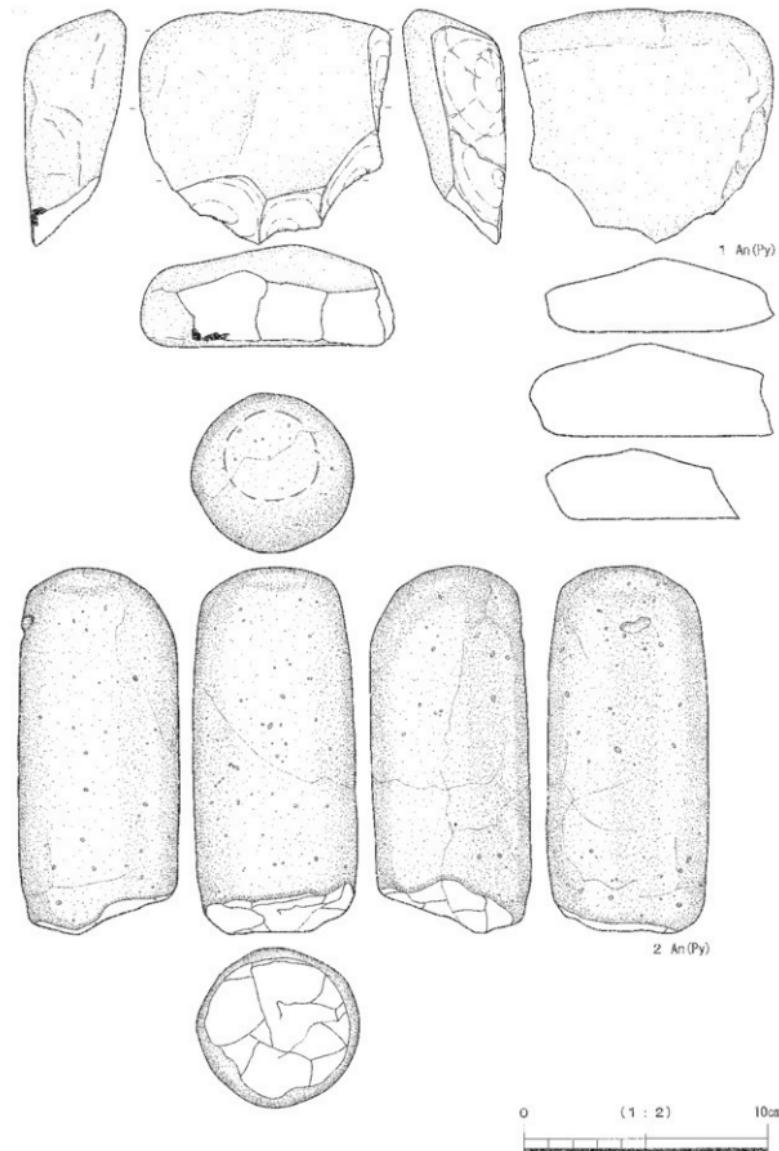
第28図 縄文時代包含層出土遺物（8）

圖29圖 魏文侯代邑出土器物 (9)

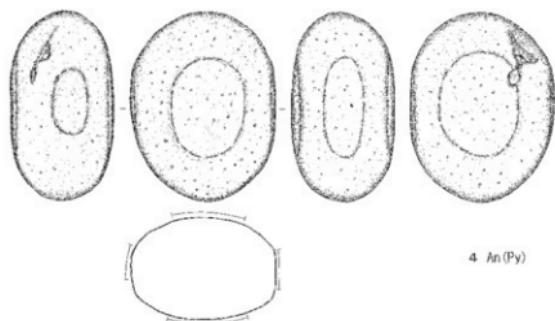
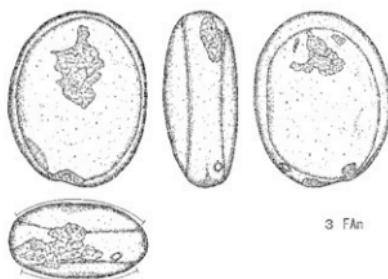
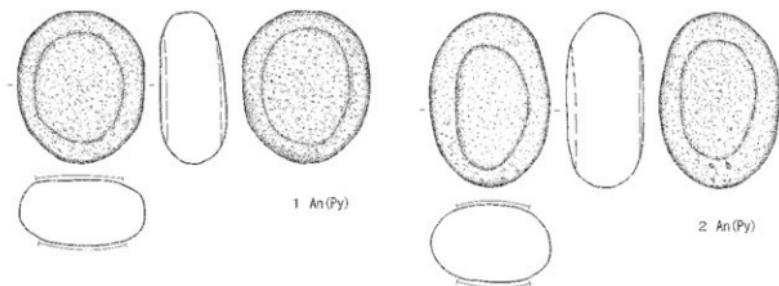




第30図 調文時代包含層出土遺物 (10)

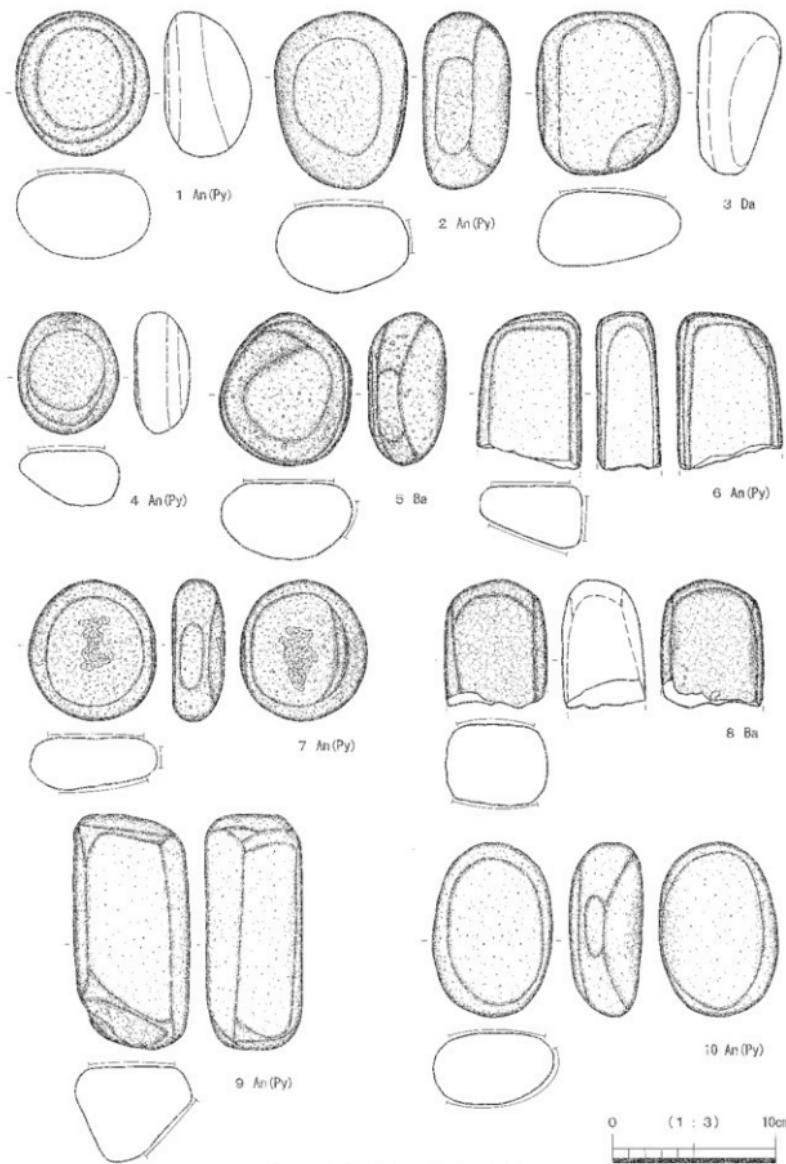


第31図 繪文時代包含層出土遺物 (1)

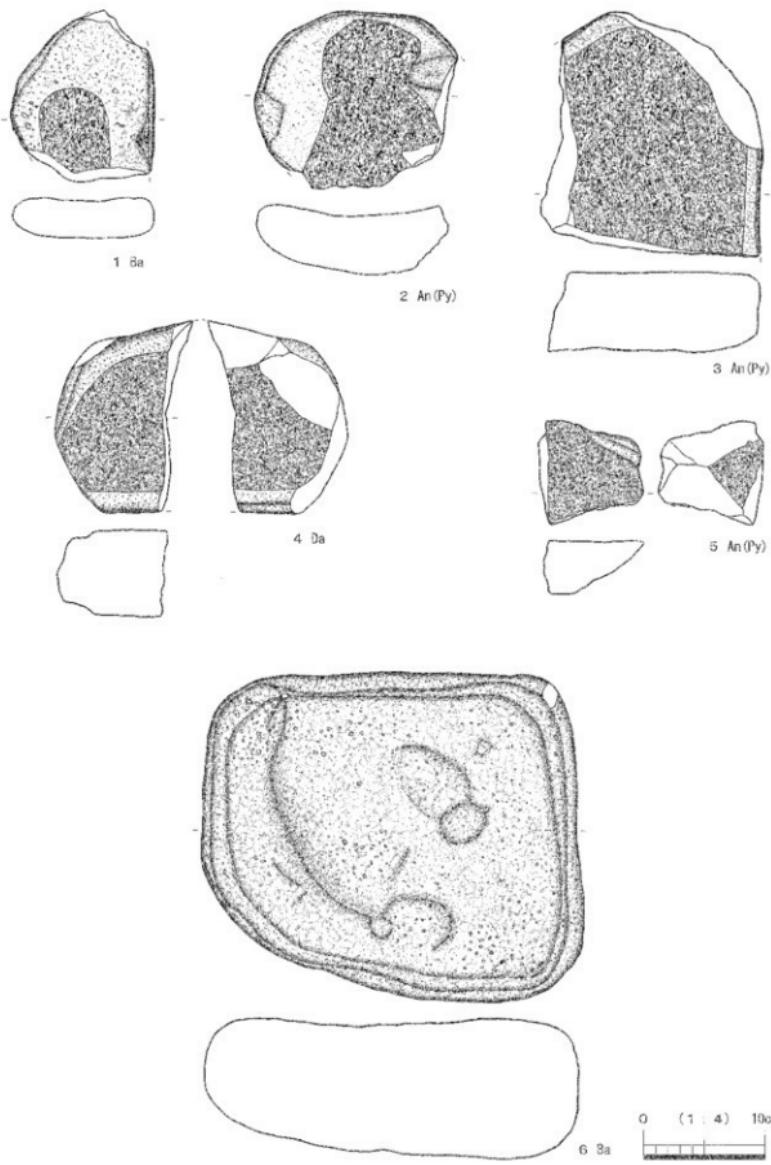


0 (1 : 3) 10cm

第32図 繪文時代包含層出土遺物 (12)



第33図 繩文時代包含層出土遺物 (13)



第34図 繪文時代包含層出土遺物 (14)

第5章 旧石器時代の調査

旧石器時代の文化層は、休場層と第Ⅲ黒色帯に認められた。休場層中にいくつの文化層があるのかは、慎重に検討したが、下記の所見のため、出土層や出土レベルで分けることができなかつた。

- ・休場層上層～下層に途切れることなく遺物が出土している。
- ・礫群の出土レベルは、休場層上層～下層で連続しており、特定のレベルに集中することはない。
- ・休場層上層と中層、休場層中層と下層で、層を超えて接合する礫、石器が複数ある。

以上から、休場層内に複数の文化層があることは想定できるが、文化層分離は不可能と判断した。

第1節 休場層出土の遺構と遺物

休場層から出土した遺構と遺物の分布を第35図に示す。休場層内の文化層分離はできなかつたが、図中には各遺構の中心分布層を明記した。接合状況を第36図に示す。接合作業も時間をかけて入念に行つたが、この跡では接合例は少なく、近距離接合が多かつた。ただ、後に報告するが、1点だけ接合距離が100mを超える例がある。

礫群01（第37図上段）

休場層中層で検出したもので、9点の礫が散在する小規模な礫群で、全点が赤化している。

礫群02（第37図下段）

休場層上層で検出したもので、13点の礫が散在する小規模な礫群である。全点が赤化している。

礫群03（第38図）

休場層中層で検出した60点の礫からなるもので、平面図を見ると複数の礫群に分けられるかもしれない。全点が赤化している。

礫群04（第43図）

ブロック03と重なつて出土した礫群で、休場層中層の中部付近にある。6点の礫が散在しており、全点が赤化している。

礫群05（第51図）

ブロック07と重なつて出土した礫群で、休場層中層の中部付近に中心がある。17点の礫からなり、全点が赤化している。隣接する礫群06との間に1点の接合例がある。

礫群06（第51図）

ブロック07と重なつて出土した礫群で、休場層中層の中部付近に中心がある。9点の礫からなり、全点が赤化している。隣接する礫群05との間に1点の接合例がある。

礫群07（第52図）

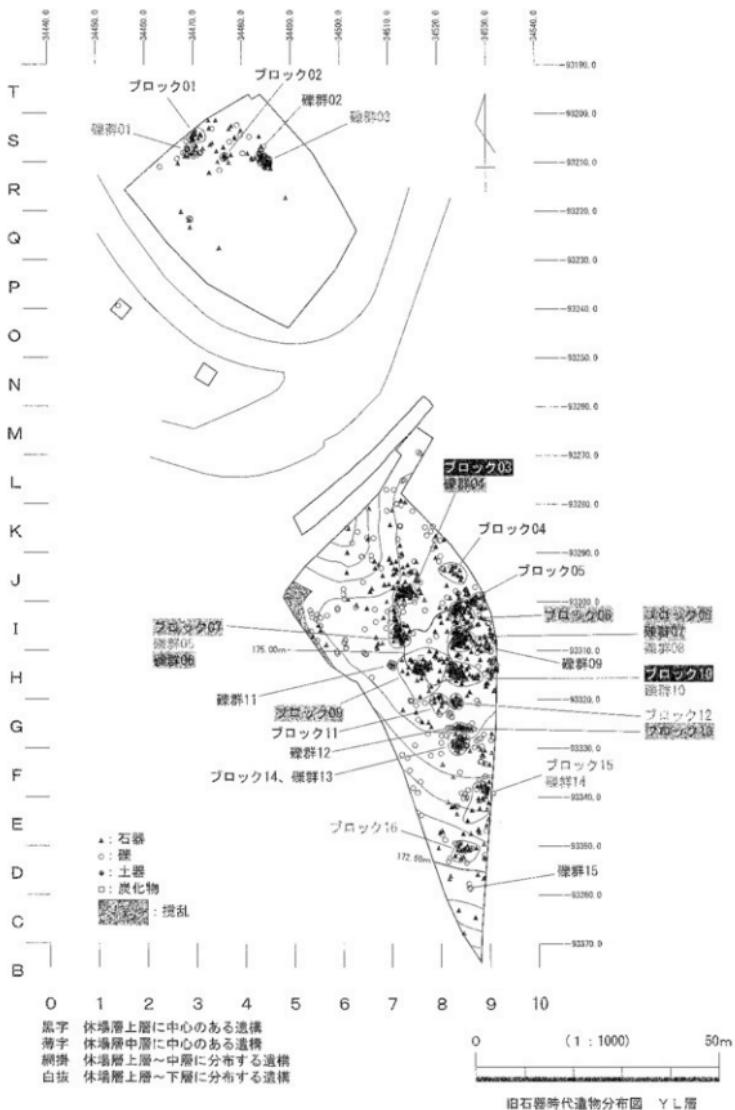
ブロック08と重なつて出土した礫群で、休場層上層の下部に中心がある。8点の礫からなる。隣接して礫群08があり、平面分布上は1つの礫群にしても良さそうだが、礫群07は休場層上層下部、もしくは休場層中層上面に中心があるのに対して、礫群08は休場層中層に中心がある。このことから両礫群には出土レベルの差があるとして別の礫群にした。

礫群08（第52図）

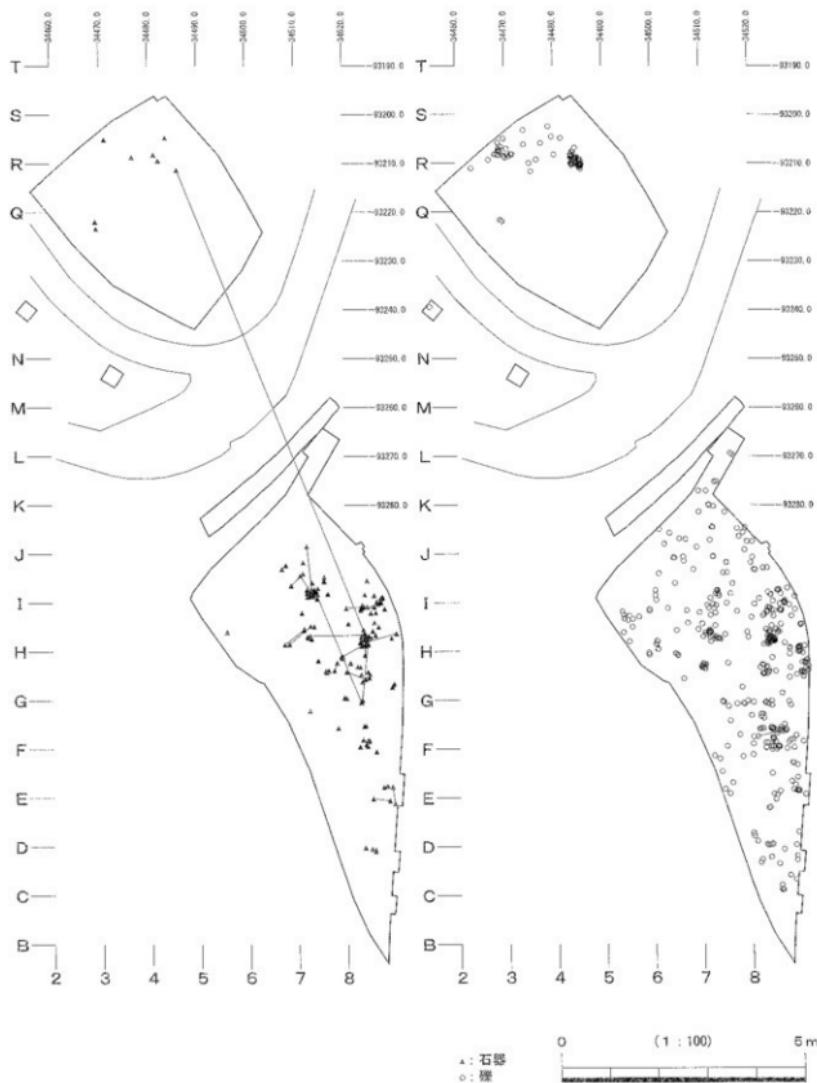
ブロック08と重なつて出土した礫群で、休場層中層の中部に中心がある。18点の礫があり、全点が赤化している。隣接して礫群07があるが、出土レベルに差があるため、別の礫群とした。

礫群09（第39図上段）

休場層上層で出土した17点の礫からなる礫群で、2点だけ赤化していない礫がある。



第35図 休場層出土遺構、遺物分布図



第36図 休場層遺物接合状況

R-2から
北へ3m
東へ9m
 $X = -93207.0$
 $Y = 34469.0$

礫群 01



A

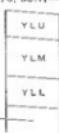


A'



A'

176. 60m A



R-4から
北へ2m
東へ3m
 $X = -93208.0$
 $Y = 34483.0$

礫群 02

⑤



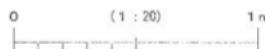
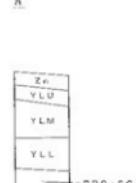
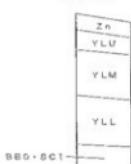
A



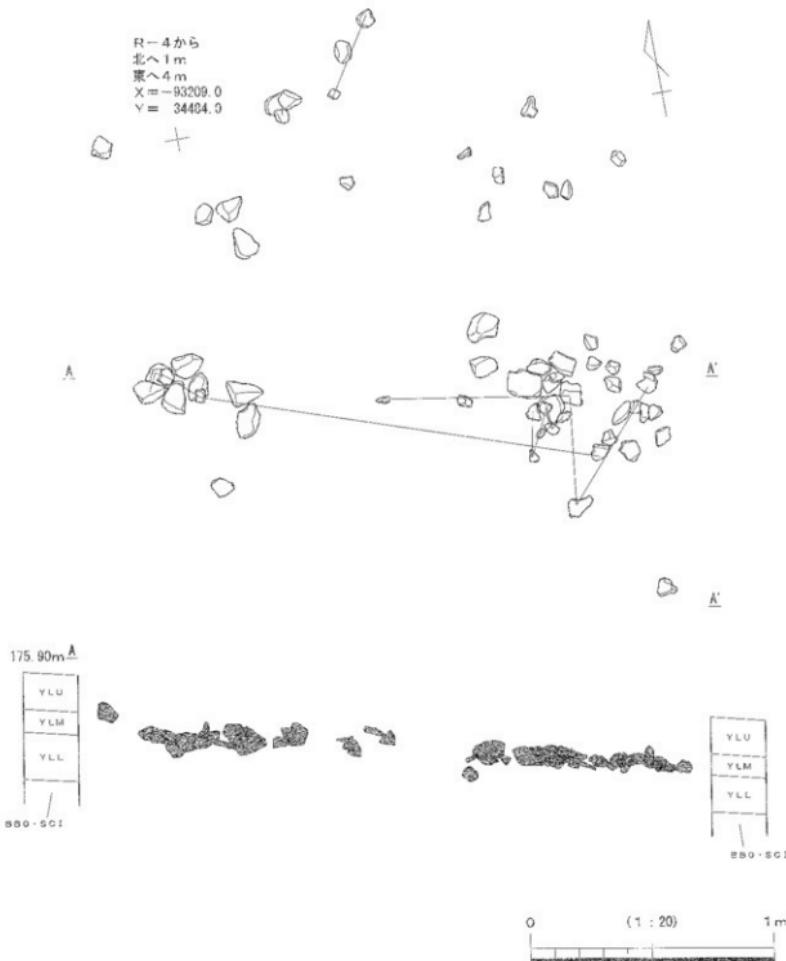
A'



176. 10m A



第37図 細群01、02平・断面図



第38図 碎群03平・断面図

礫群10（第56図）

休場層中層の下部で検出した礫群で、ブロック10と重なっている。15点の礫からなり、1点だけ赤化していない礫がある。

礫群11（第39図下段）

休場層上層の上面付近で出土した礫群で、12点の礫からなり、全点が赤化している。

礫群12（第40図上段）

休場層上層で出土した礫群で、10点からなる礫群で全点が赤化している。

礫群13（第61図）

ブロック14と重なって出土した礫群で、休場層上層下部～中層上部に中心がある。14点の礫からなり、1点だけ赤化していない。

礫群14（第62図）

ブロック15と重なって出土した礫群で、休場層中層に中心がある。14点の礫からなり、全点が赤化している。

礫群15（第40図下段）

休場層上層で出土したもので、3点の礫しかないとみ、礫群から除外してもよいが、周囲に遺物がない所で、この3点の礫だけが近接して出土したため、念のため礫群とした。3点とも赤化している。

ブロック01（第41図）

休場層上層下部で出土した。剥片を主体としており、黒曜石製の細長剥片が1点だけ出土している。図示したのはガラス質黒色安山岩製の縦長剥片である。自然面打面で、かなり細長い。先行剥離面にも縦長剥片を剥離した痕跡があることから、縦長剥片を連続剥離する過程で剥離されたことがわかる。

ブロック02（第42図上段）

休場層上層～中層で出土したブロックで、石核と剥片からなる。石材はすべてホルンフェルスである。

ブロック03（第43図）

この文化層最大のブロックで、478点の石器が出土した。出土層は休場層中層を中心に、上層～下層に広がる。石材は黒曜石が最も多いため、東北地方や北陸地方で目にするような良質な硬質頁岩が集中しているのもこのブロックの特徴である。石器点数が多いが、石核が出土していない。剥片剥離作業をしたことは間違いないが、石核は激出したのである。ブロック12との間に接合関係がある。また、縄文時代の竪穴住居跡05に流れ込んだ石器が1点、このブロックの石器と接合している。

出土遺物を第44図、第45図に示す。第44図-1は良質な硬質頁岩の縦長剥片を加工したナイフ形石器で、刃部に抉るような加工が見られる。刃部の主剥離面側にも細かい剥離が並んでいる部分があり、これらも加工痕かもしれない。良質な硬質頁岩の集中と、このブロックのもう1つの特徴は、2～5に示した黒曜石製のナイフ形石器の破片と6～22に示した刃溝し加工をした際の碎片、プランティングチップと思われる碎片の出土である。ブロック内でナイフ形石器を集中的に作ったことがうかがえる。

23は、24～26の3点の石器が接合している。24と25は直接接合しないが、両方の石器が26に接合したこと、24と25が同一ナイフ形石器で、刃溝し加工の際に折れた可能性が高いことがわかる。したがって、24と25は同一ナイフ形石器だったことがわかる位置関係で図示してある。26は黒曜石の幅の広い剥片の縁辺を加工したスクレイパーである。

第45図-1は、厚みがあり、幅の広い剥片の末端を加工してある。2は、ブロック03出土のスクレイパーとブロック12の縦長剥片が接合したものである。3は縦長剥片を加工したスクレイパー、4は5と6の縦長剥片が接合している。7は剥片の一端を分断するように加工したナイフ形石器、8は縁辺に微細な剥離が見られる。

H-8から
北へ1m
東へ9m
X = -93309.0
Y = 34529.0

礫群09



A

A'

Q

○



175.50m A



X G-6から
北へ7m
東へ9m
X = -93313.0
Y = 34509.0

礫群11

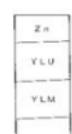


A

A'

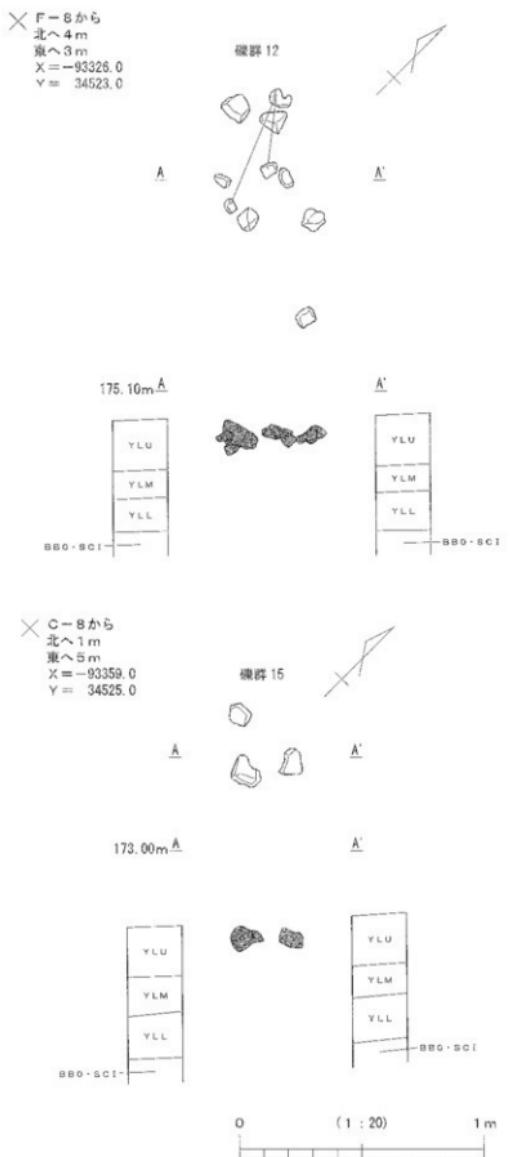


175.60m A

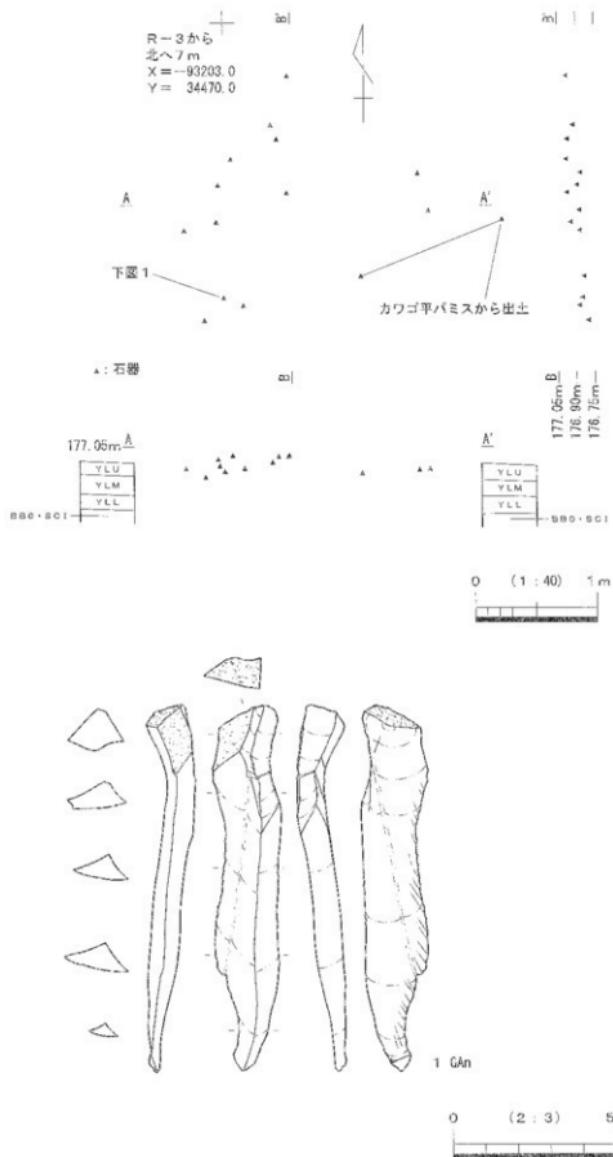


0 (1 : 20) 1 m

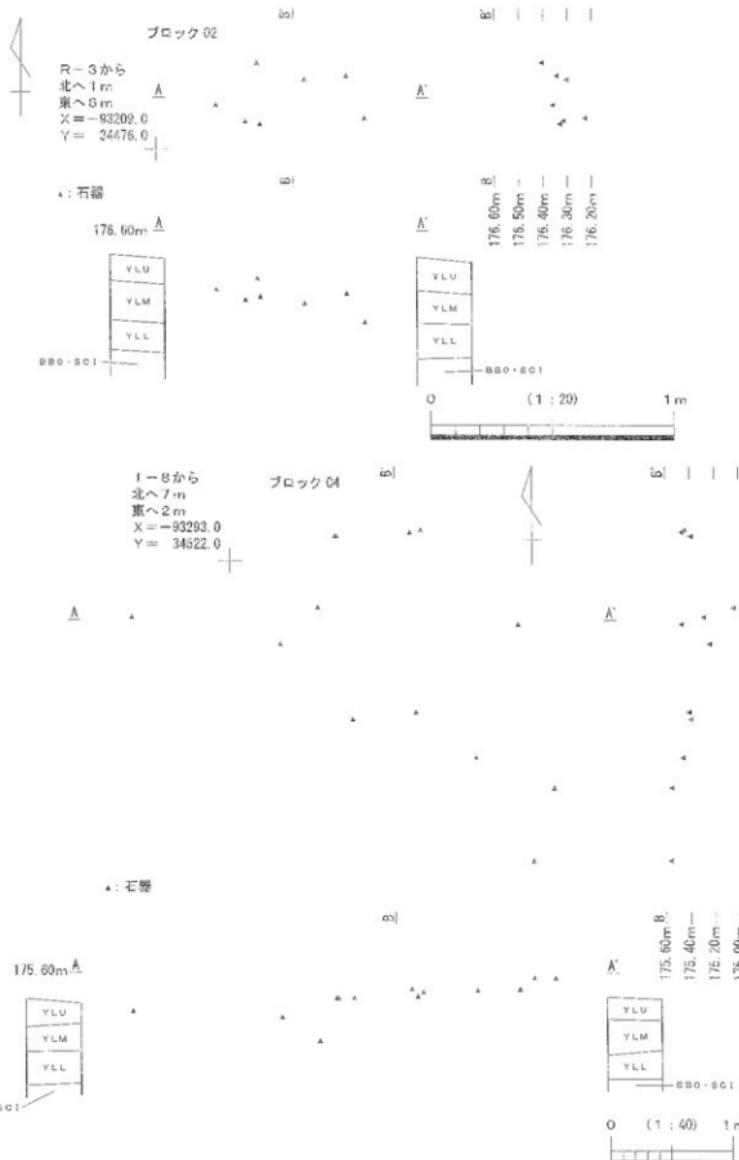
第39図 級群09、11平・断面図



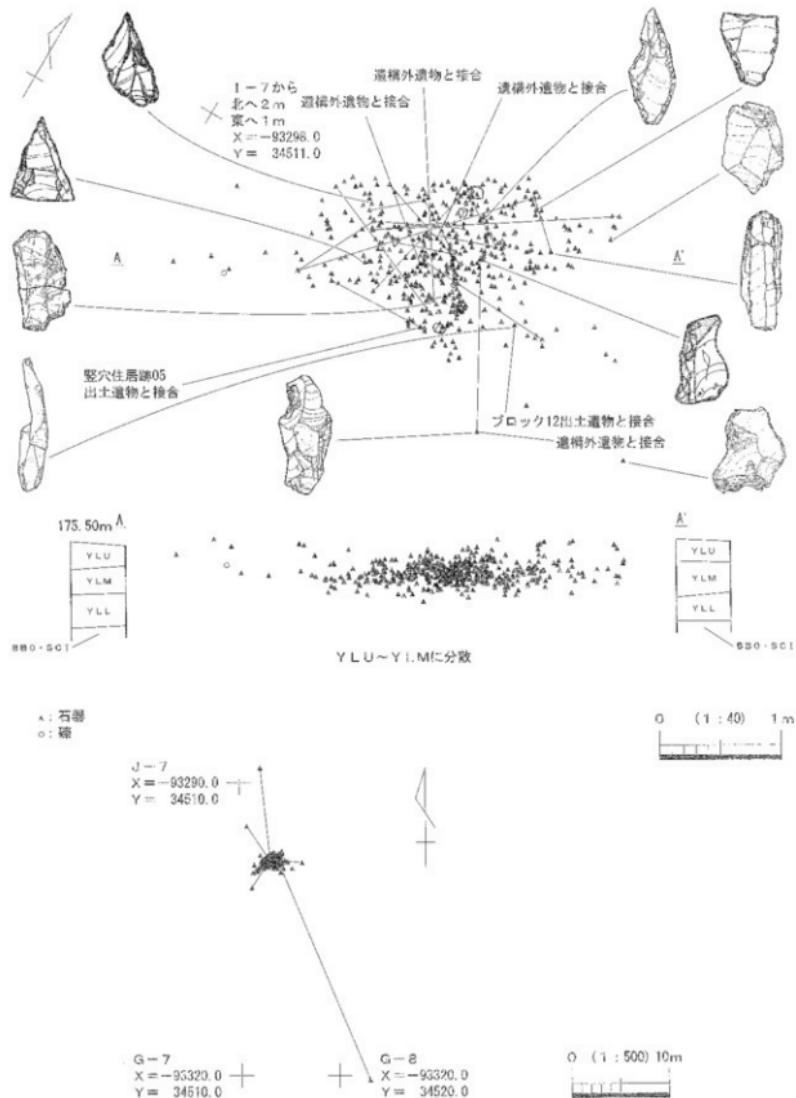
第40図 細群12、15平・断面図



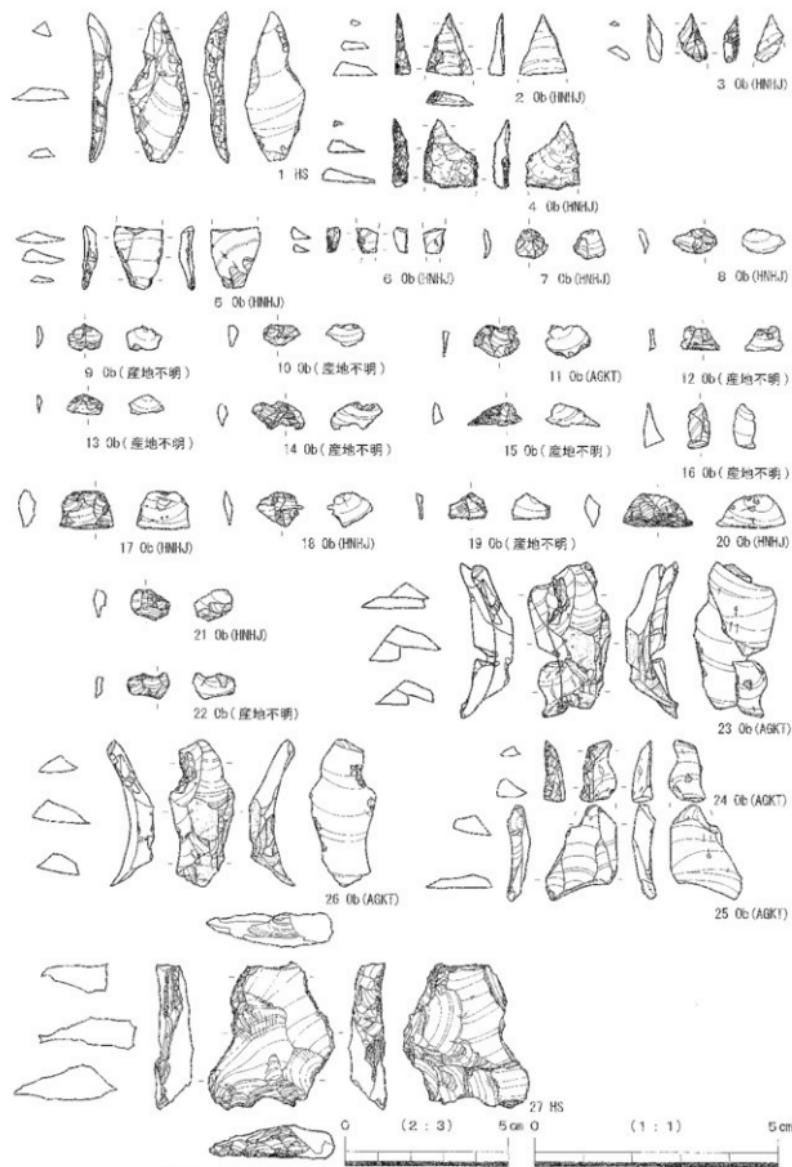
第41図 ブロック01遺物分布図、出土遺物



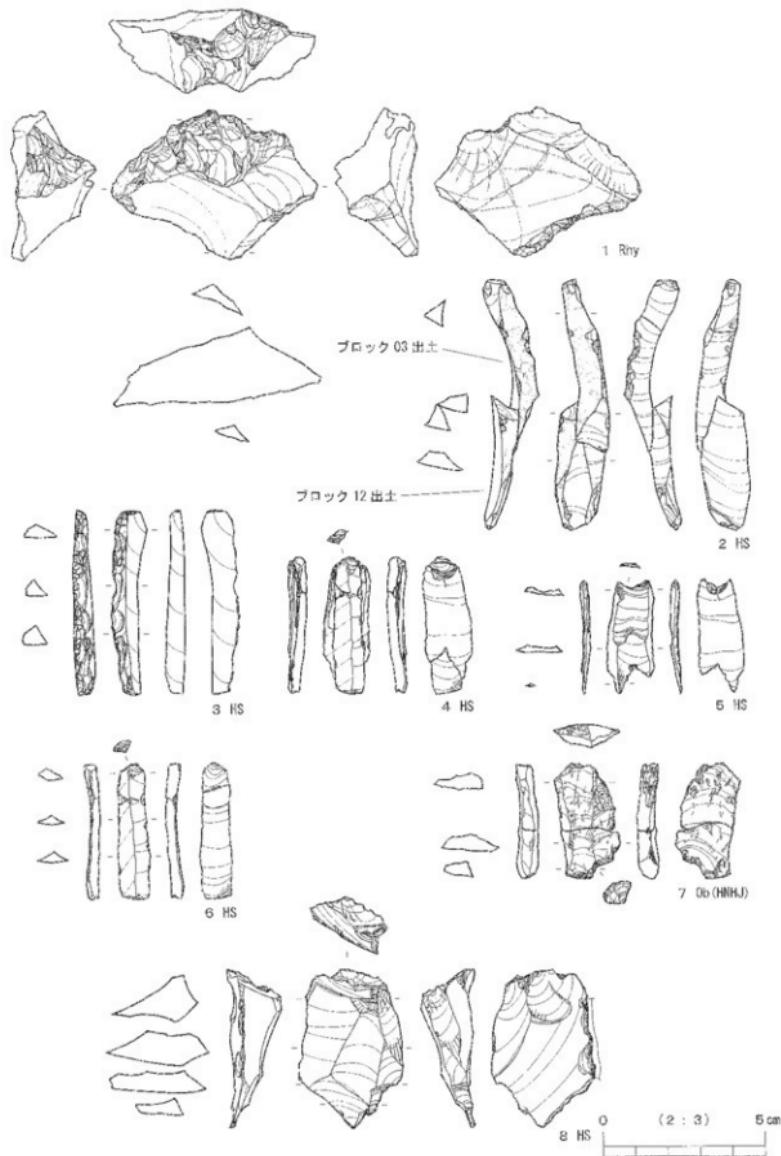
第42図 ブロック02、04遺物分布図



広域接合図
第43回 ブロック03、謙群04遺物分布図



第44図 休場層出土遺物(1) (1~5・23~27:2/3、6~22:1/1)



第45図 休場層出土遺物 (2)

ブロック04（第42図下段）

休場層上層で出土した14点の剥片が散在する小規模なブロックである。接合する資料もなく、剥片を撒入しただけのようである。

ブロック05（第46図）

休場層上層～中層上面にかけて出土したブロックである。ブロック06との間で接合する資料があり、縄文時代の焼土上坑03の周辺で出土した遺物のうち1点が、このブロックの資料と接合したこと、休場層中の文化層所属となった。石材のほとんどがホルンフェルスである。

第47図-1は、ホルンフェルスの円礫を使った石核で、円礫の側面を打面が周回しながら不定形な剥片を剥離している。2も同様の石核で、ホルンフェルスの扁平な円礫を使っていると思われ、円礫の側面を打面が周回しながら、円礫の両面で不定形剥片を剥離している。そのため、両面調整体のような形態になっている。

第48図-1は、ホルンフェルスの扁平な円礫を使い、側面で打点と作業面を入れ替えながら不定形剥片を剥離している。そのため、礫器のような形態になっている。

ブロック06（第49図）

休場層上層～中層で出土したブロックで、ホルンフェルスが主体で、黒曜石がこれに次ぐ。尖頭器が2点出土している程度で、石器の種類は少ない。

第50図-1は、ガラス質黒色安山岩を使った尖頭器の未完成品である。実測図右面の方が、加工が進んでいる。平坦剥離がうまく進行しており、全体が薄くなっているが、長さに比べて幅が縮まっている。2はホルンフェルスの扁平な円礫を使った石核で、礫の側面を打点が周回しながら、礫の両面で不定形剥片を剥離している。

ブロック07（第51図）

休場層上層～中層で出土したブロックで、礫群05、06と重なっている。主要石材はホルンフェルスで、黒曜石がこれに次ぐ。完成した石器はスクレイバーがあるくらいで器種の種類は少ない。ブロック08と接合する資料がある。

第53図-1は黒曜石製のスクレイバーで、縁辺にナイフ形石器の刃漬し加工に似た加工が見られる。2は微細な剥離のある剥片で、黒曜石の剥片の縁辺に不規則な剥離が見られる。3はホルンフェルス製の継長剥片で、厚みがあり、下面には石核の底面が残っている。4はこのブロックで出土した剥片とブロック08で出土した剥片が接合した状態で、両剥片を剥離する間に90度の打面転移があったことを示している。

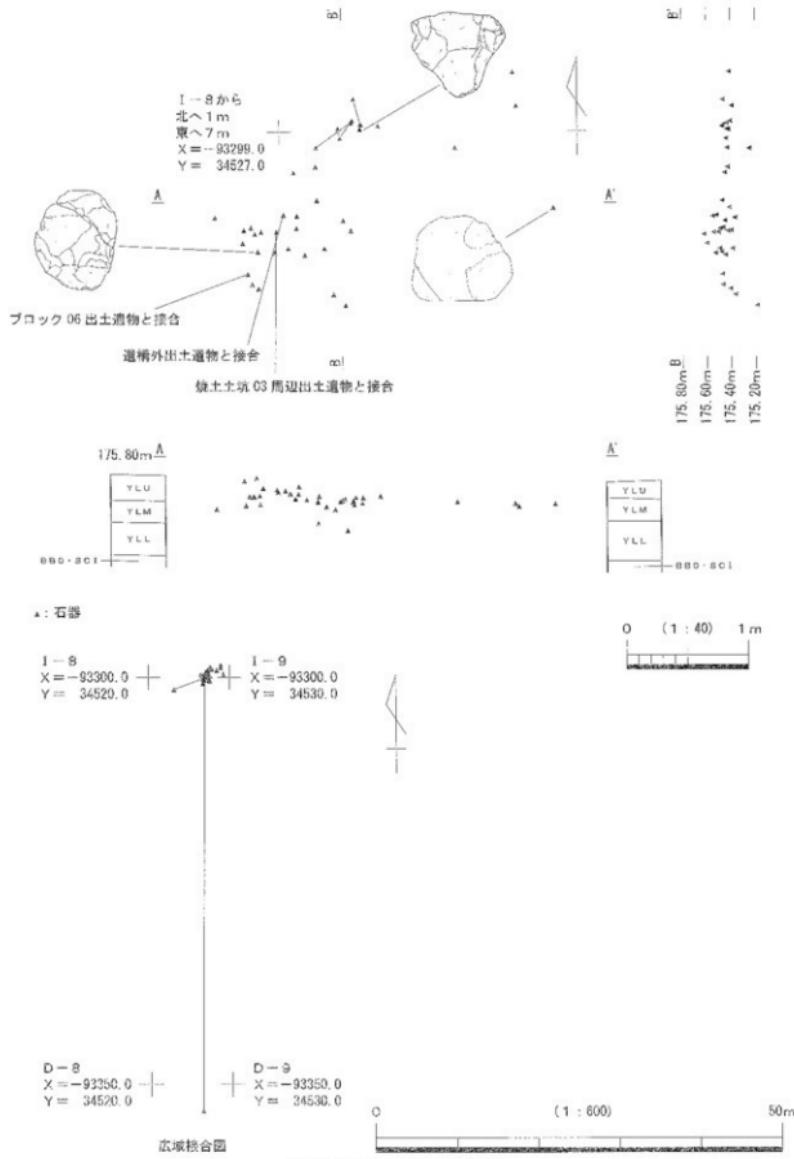
ブロック08（第52図）

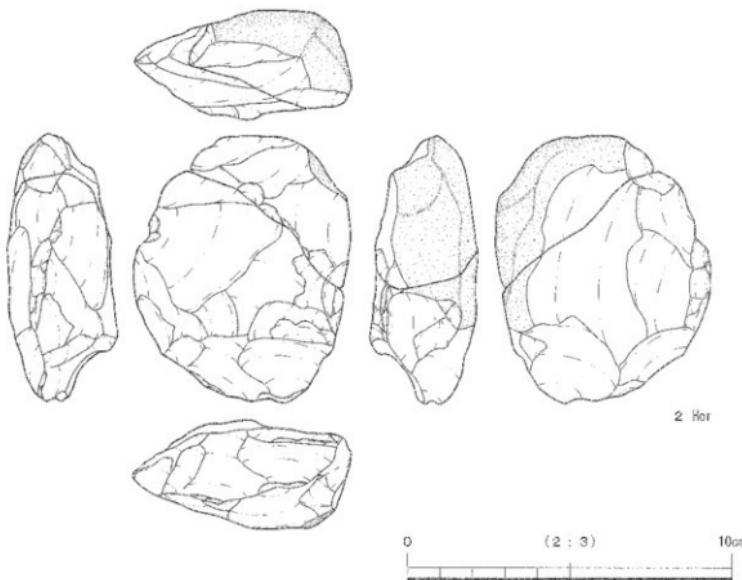
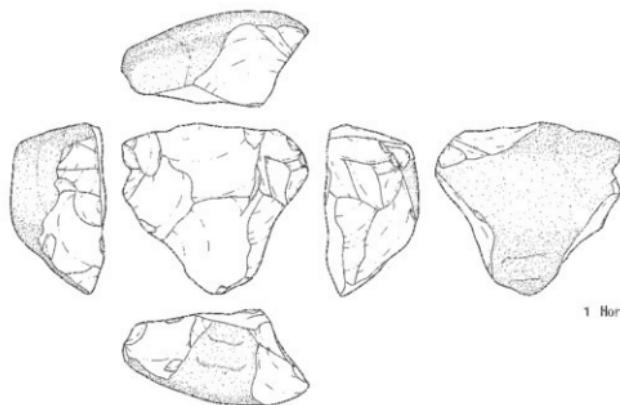
休場層上層～中層で出土したホルンフェルスを主体とするブロックで、礫群07、08と重なっている。礫群07と08は20～30cmのレベル差があるが、ブロック08の資料は両方のレベルにまたがっているため、礫群07と08に時期差があるとしても、ブロック08がどちらの時期になるのかわからない。

第52図-1は敲打痕のある礫で、元の円礫には戻っていないものの、4点の礫片が接合しており、そのうち1点は100m以上離れた場所で出土している。接合距離としては長距離になるであろう。

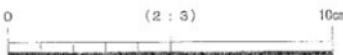
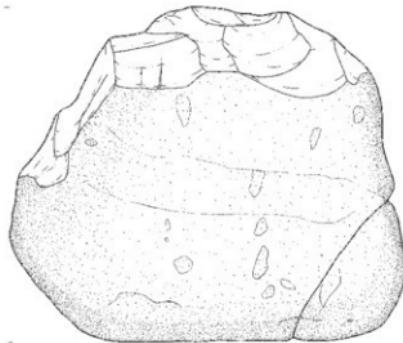
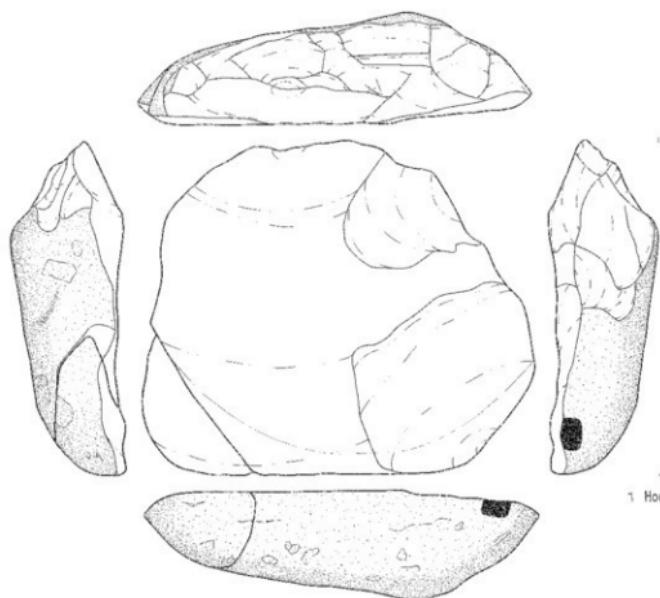
第53図-5はナイフ形石器に見えるが、加工が刃漬し加工ではないため、ここでは微細な剥離のある剥片に分類している。6と7は二側縁加工のナイフ形石器である。8は刃漬し加工の際に剥離される碎片と思われる。9と10は継長剥片の微細な剥離が入っている。

第54図-1はホルンフェルス製の石核で、石核の周囲で打面と作業面を入れ替えながら、不定形の剥片を剥離している。2は敲打痕のある礫で、2つに割れたものが接合している。3と4は石皿と思われる石器で、磨滅した一面がある。

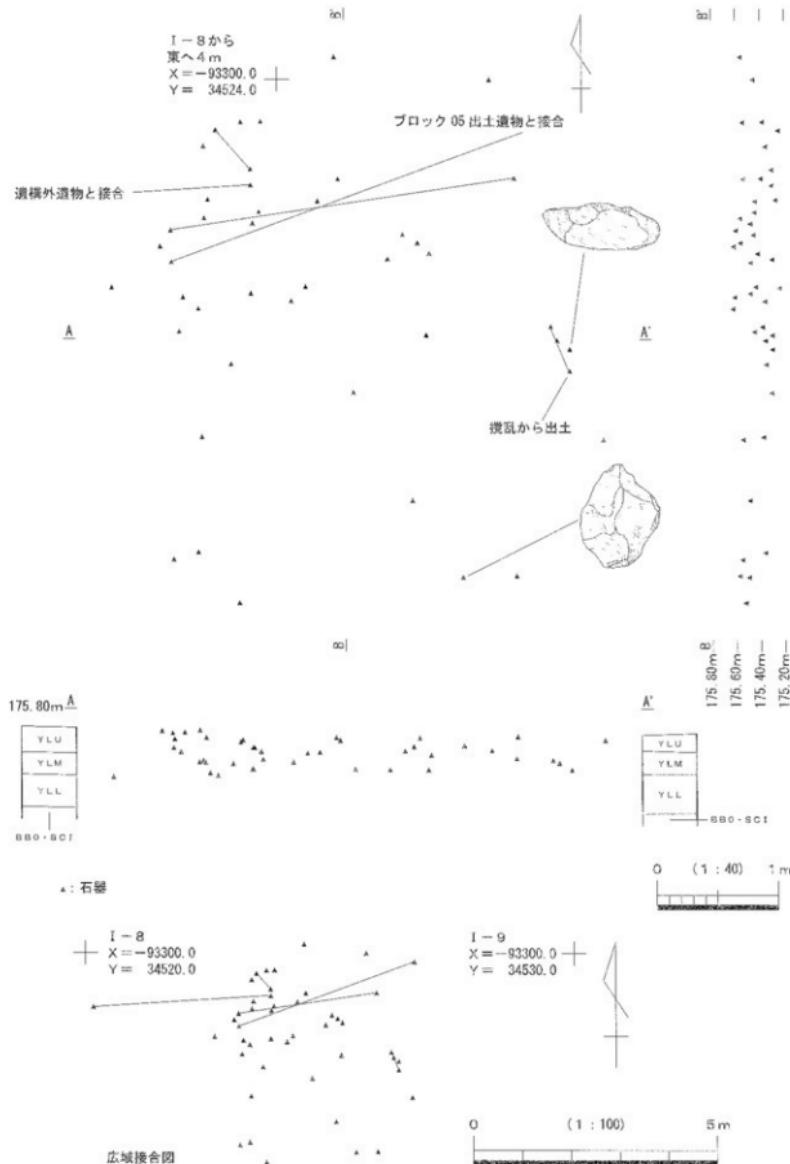




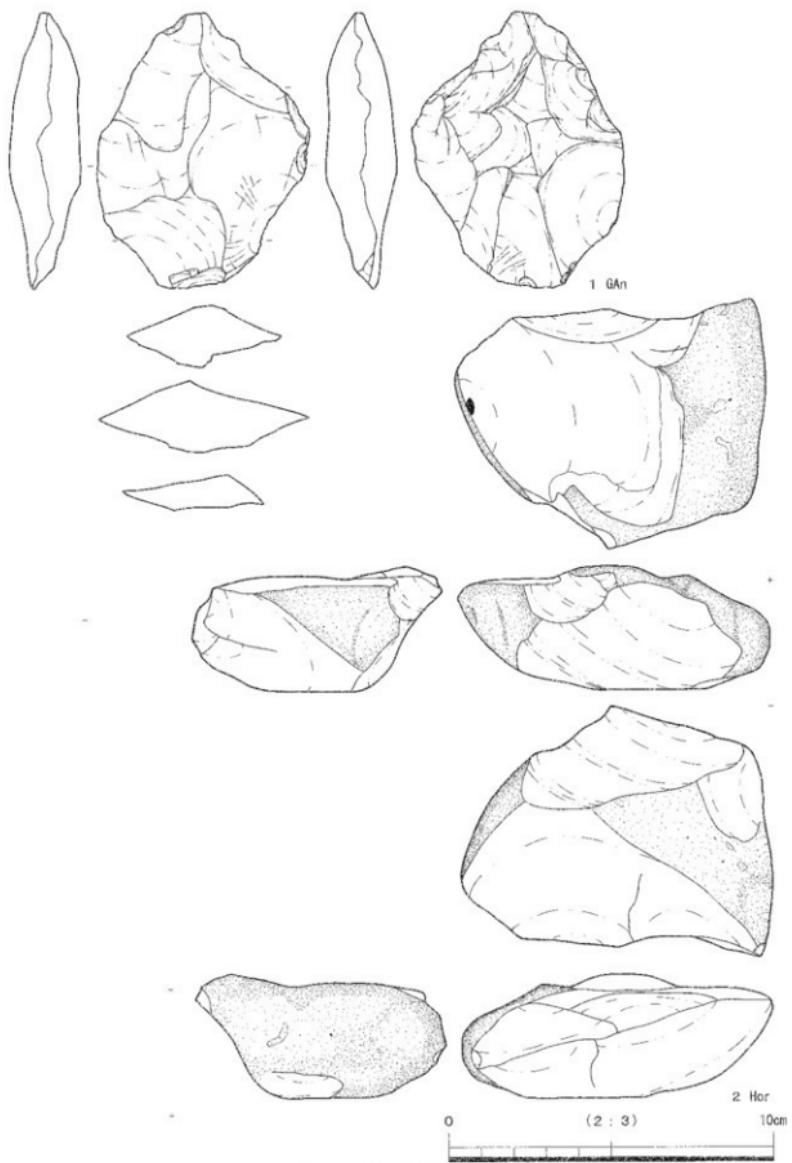
第47図 ブロック05出土遺物（1）



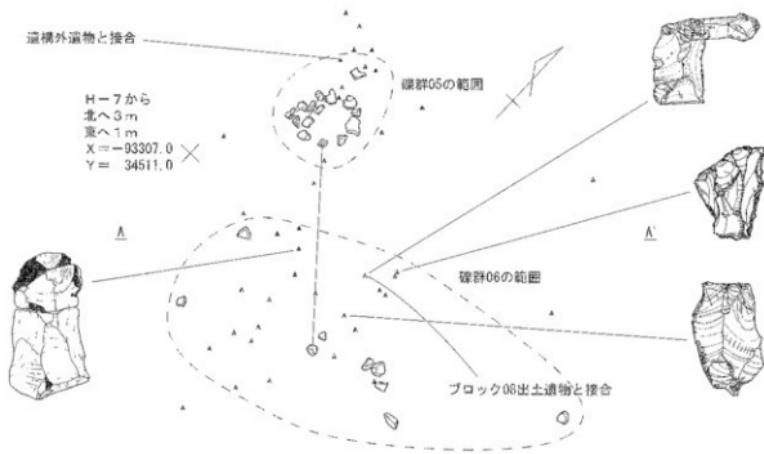
第48図 ブロック05出土遺物（2）



第49図 ブロック06遺物分布図



第50図 ブロック06出土遺物



I-6
 $X = -93300.0$
 $Y = 34500.0$

I-8
 $X = -93300.0$
 $Y = 34520.0$

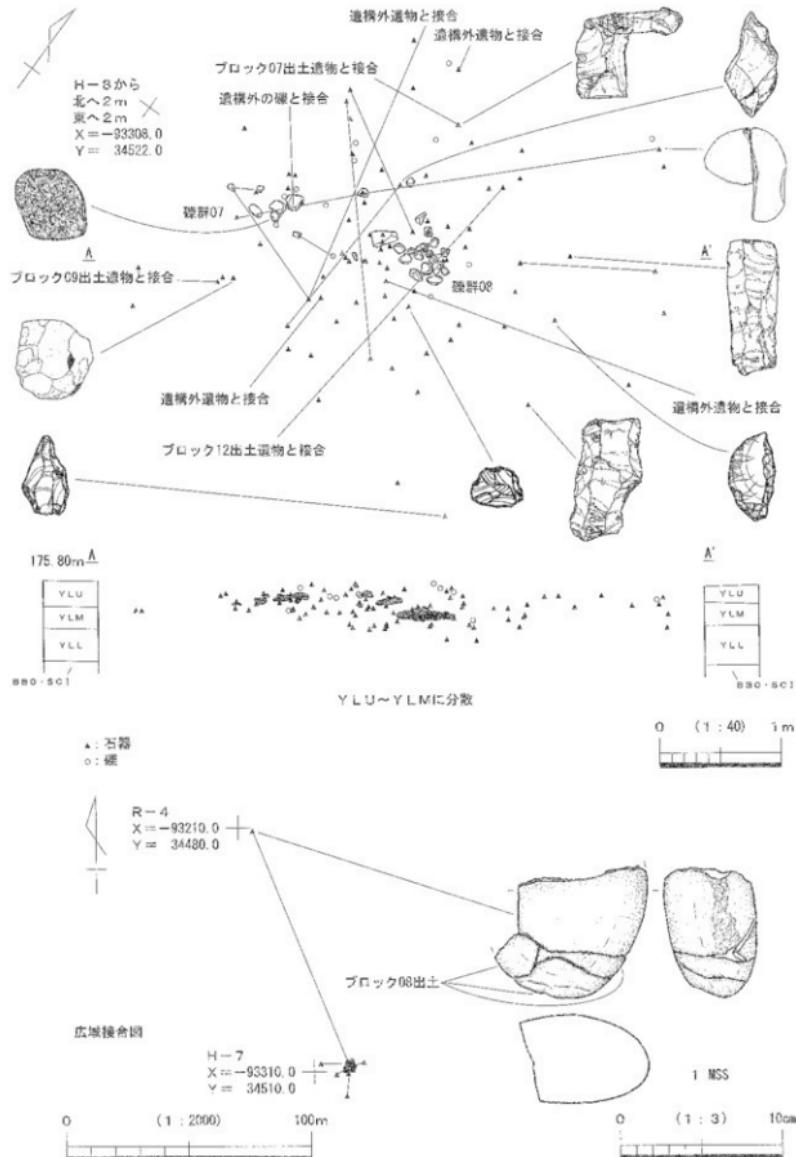
H-6
 $X = -93310.0$
 $Y = 34500.0$

H-8
 $X = -93310.0$
 $Y = 34520.0$

広域接合図

0 (1:300) 10m

第51図 ブロック07、標群05、06遺物分布図



第52図 ブロック08、標群07、08遺物分布図、出土遺物

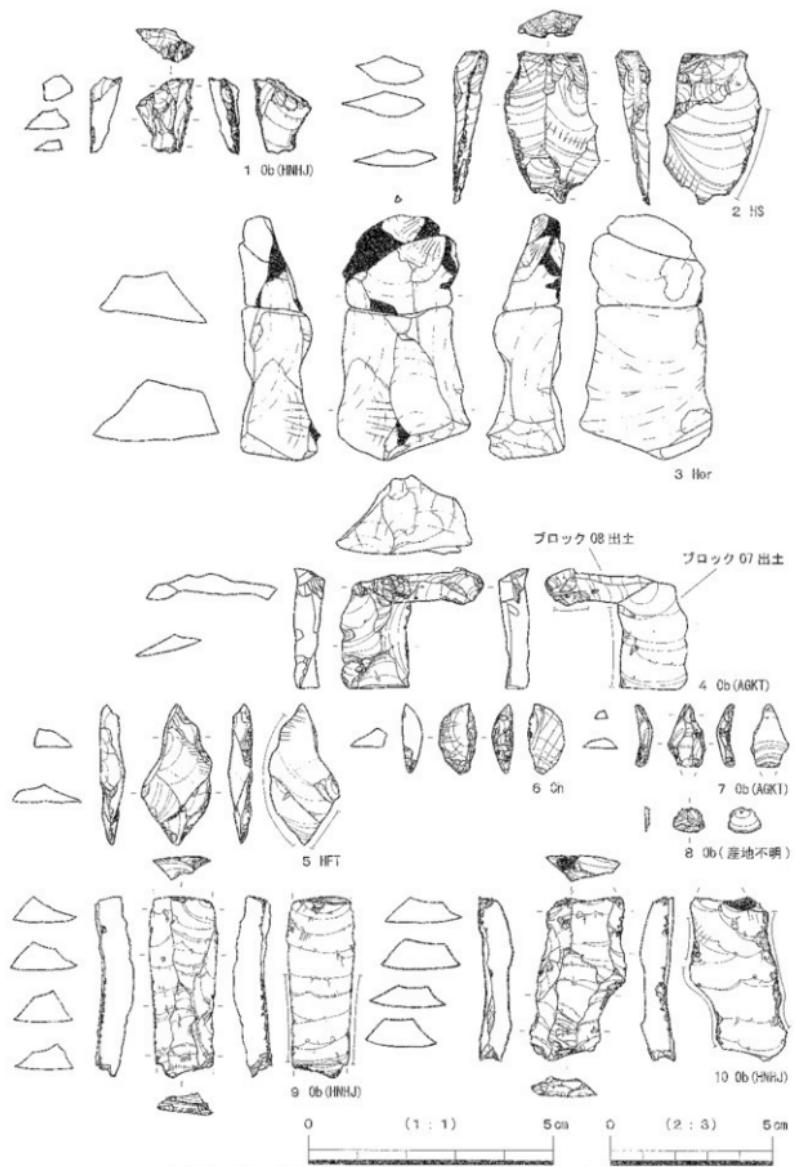
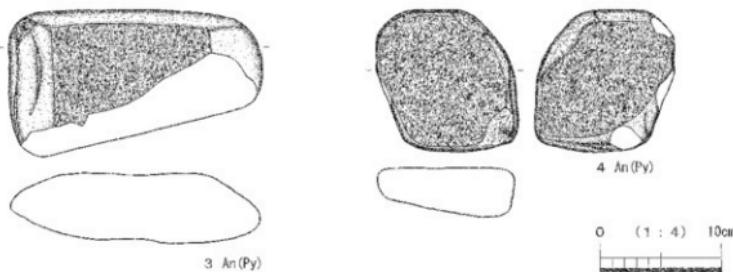
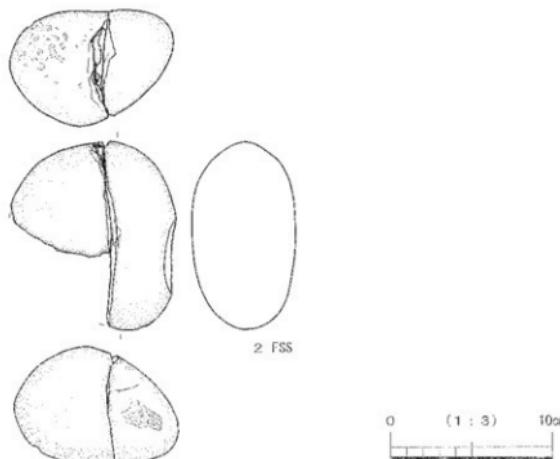
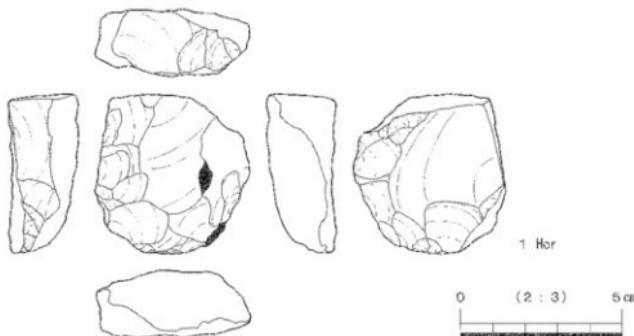


図53 図 ブロック07、08出土遺物 (1~7・9・10:2/3、8:1/1)



第54図 ブロック08出土遺物 (1 : 2/3、2 : 1/3、3・4 : 1/4)

ブロック09（第55図）

休場層上層を中心にして出土したブロックで、一部資料は上層の漸移層や下の休場層中層からも出土している。この遺跡では、漸移層出土の遺物で旧石器時代の遺物と判断できないものは縄文時代の遺物にしているが、ブロック09の場合は、漸移層下部から休場層上層にかけて黒曜石が連続して出土し、分布の中心が休場層上層にあつたため、機械的に層で分けずに漸移層下部から出土した遺物もブロック09に含めた。このブロックは黒曜石を主体としており、ブロック08、10と接合するものがある。

第57図-1は黒曜石製の尖頭器で、幅に比べて長さが短いため、寸胴な印象を受ける。また、基部付近の加工が縁辺を内湾させるようになっているため、基部を作り出しているように見える。2~6はナイフ形石器である。2は、右側縁下部に剥片の打面がわずかに残っている。また、左側縁の加工は、上半に比べて下半は剥離角度が低くなっている。3は大きさの割に厚みのある不定形剥片を使っており、打面は加工で除去されている。末端には剥片の縁辺が加工されずに残っている。4は大きさの割に厚みのある剥片を使っている。左側縁上半は両面から加工している。下半は基部から側縁に、彫器の彫刃方面を作るよう剥離を入れており、ナイフ形石器の縁辺加工としては、極めて珍しい方向からの加工である。右側縁上半は主剥離面から加工しているが、下半は、剥片の打面を折り取った折れ面が残っていて、加工していない。5は二側縁加工ナイフ形石器の基部である。6の左側縁は主剥離面から加工しているのに対して、右側縁は先行剥離面から加工している。そのため、両側縁の加工が錯行剥離になっている。7はホルンフェルス製の縱長剥片で、風化が進んでいる。先行剥離面の剥離方向も上下方向からの剥離と思われ、縦長剥片を連続剥離した石核から剥離されたと思われる。

ブロック10（第56図）

このブロックの遺物は休場層上層～下層に広く分布するブロックで、礫群10と分布が重なっているため、礫群10のある休場層中層が本来の中心なのであろう。休場層上層よりも上の富士黒土層から出土した遺物1点が、このブロックの資料と接合している。このブロックの特徴は、神奈川県箱根産黒曜石が主体になっていることと、全体的に大きな剥片が目立つことである。黒曜石の質は良質とは言えず、直徑2~3mmの不純物を多く含み、中には5mmを超えるような不純物も入っている。そのため、小さな湖片は剥離しにくかったのか、剥片としては大型のものが目立つ。

第57図-8は両面加工尖頭器で完成品が欠損している。9~11は非常に小型のナイフ形石器である。12はブランディングチップと思われる碎片である。13は良質な硬質頁岩の縦長剥片を使ったスクレイパーである。14は黒曜石の剥片の縁辺に細かい剥離が連続するスクレイパーである。

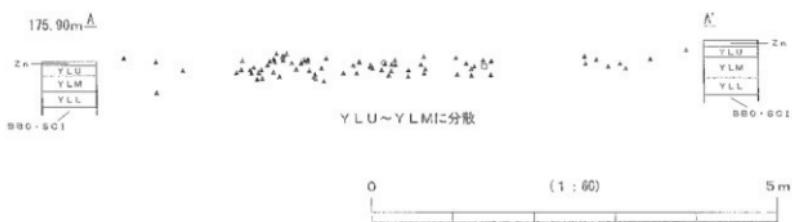
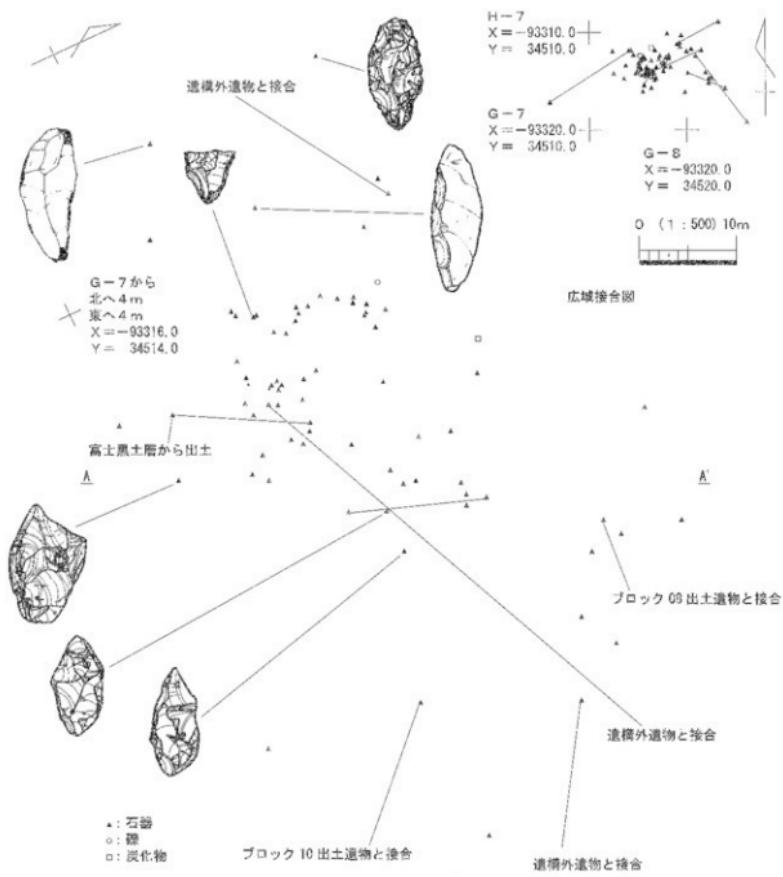
第58図-1は分厚い剥片の縁辺に微細な剥離が入っている。2は分厚い剥片の側縁と末端を加工したスクレイパーである。3は縦長剥片で、末端には石核の下面が残っている。

ブロック11（第59図）

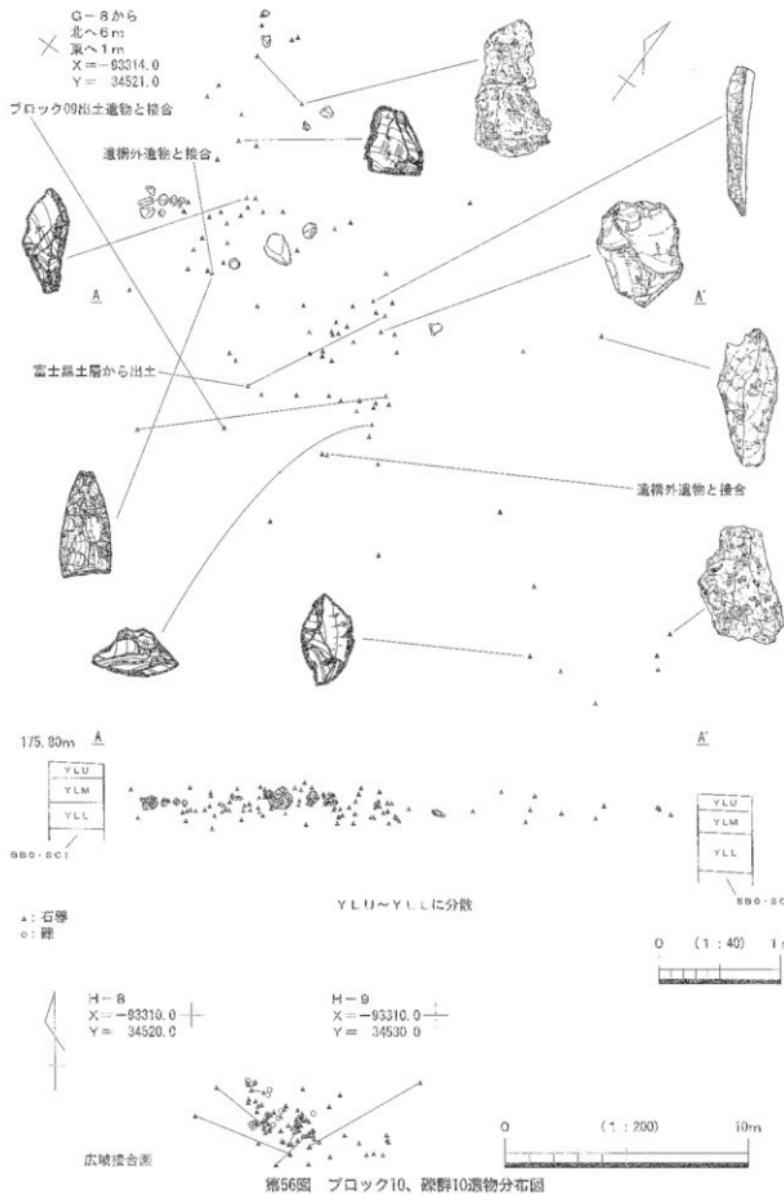
休場層中層～下層で検出したブロックで、ナイフ形石器と剥片、碎片から構成されている。ブロック12と隣接しているが、間に空間があるため、別のブロックにした。石材はホルンフェルスが主体である。第59図-2はホルンフェルス製のナイフ形石器で、かなり風化が進んでいるが、かろうじて二側縁加工と思われる剥離が確認できる。

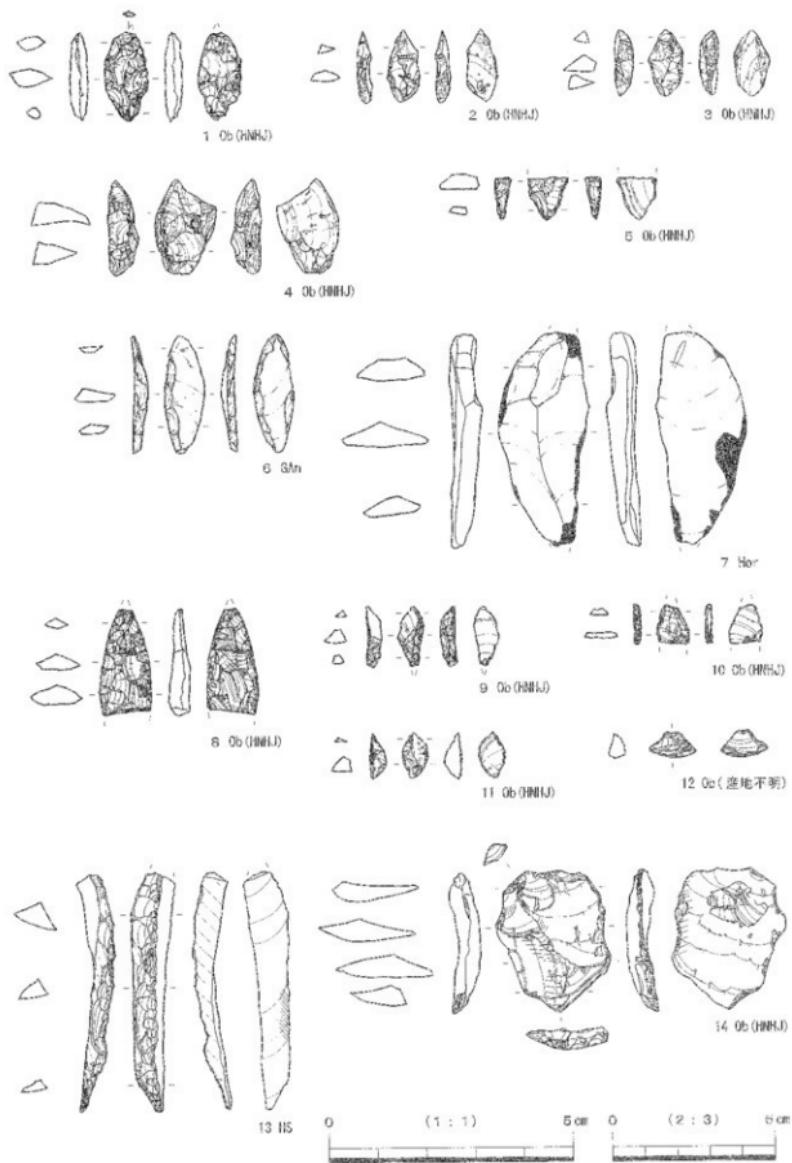
ブロック12（第59図）

休場層中層で検出したブロックで、16点の石器からなる。ブロック11と隣接しているが、間に空間があるため、別のブロックにした。第59図-1は良質な硬質頁岩を使った二側縁加工のナイフ形石器で、刃部の傾きが小さいため、切り出し形をしている。3も良質な硬質頁岩を使ったスクレイパーで、両側縁に一部に抉りを入れるように加工している。4は良質な硬質頁岩を使った石核で、細石刃に近い小型の縦長剥片を剥離している。下設打面からの剥離が細かい階段状剥離を起こしている。

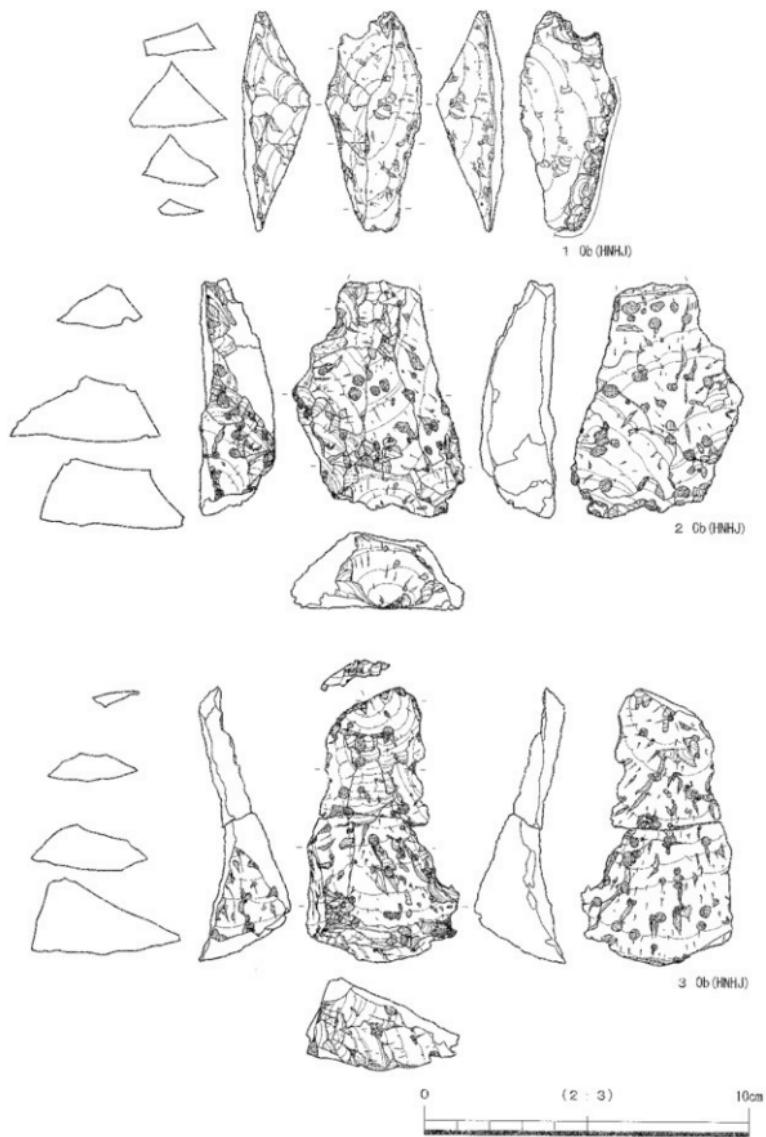


第55図 ブロック09遺物分布図

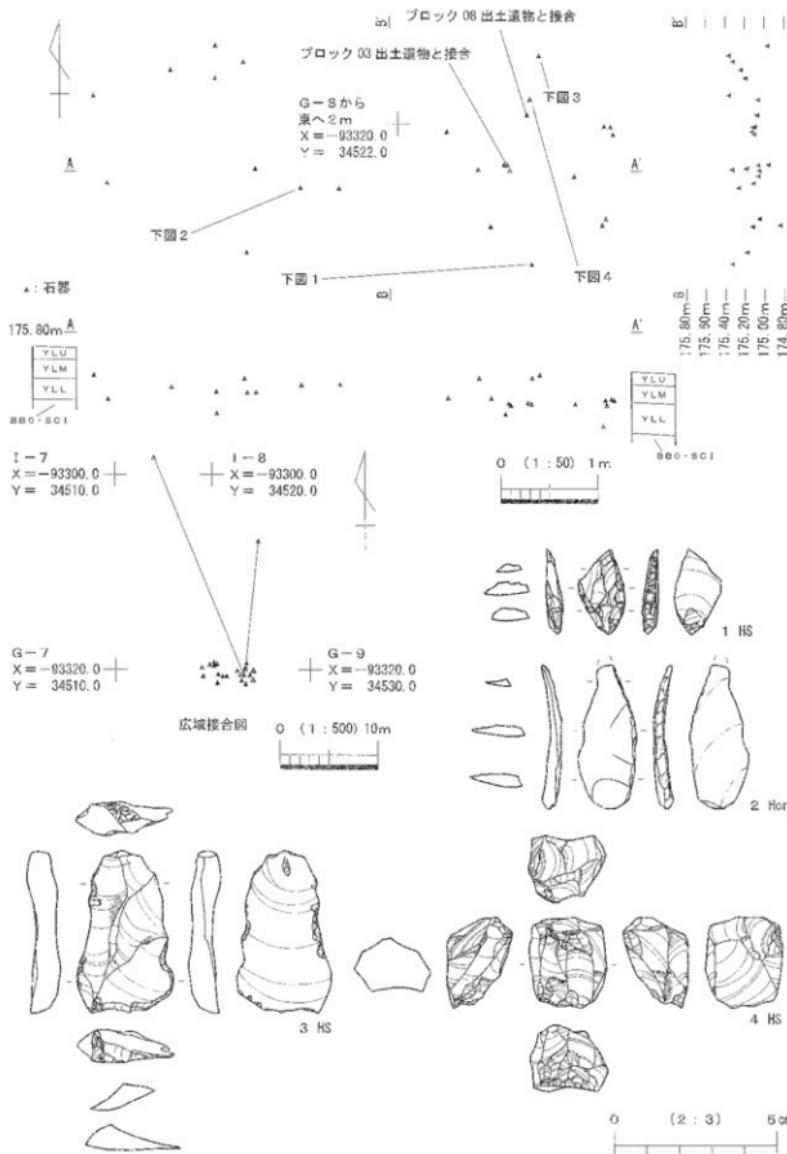




第57図 ブロック10出土遺物 (1) (1~11・13・14:2/3, 12:1/1)



第58図 ブロック10出土遺物（2）



第59図 ブロック11、12遺物分布図、出土遺物

ブロック13（第60図）

休場層上層～中層で出土した11点の石器からなる小規模なブロックである。休場層上層よりも上にある富士黒土層から出土した遺物がこのブロック内の石器と接合したこと、このブロックの所属ではないが、休場層内の文化層所属となった。

第60図-1は良質な硬質頁岩の縦長剥片を使ったナイフ形石器で、二側縁を加工している。主剝離面側には平坦剝離が見られる。2は黒曜石の大型剥片を使ったスクレイパーで、両側縁を加工している。

ブロック14（第61図）

休場層上層を中心とするブロックで、疊群13と重なっている。疊群13が、休場層上層下部にあることから、このブロックの中心も本来は休場層上層下部にあったと思われる。ホルンフェルス製の剥片と碎片だけで構成されており、接合もしないことから、剥片だけを搬入したようである。

第61図-1は縦長剥片で、先行剝離面には複数方向から剝離が入っていることから、必ずしも縦長剥片石核から剝離されたものではないようである。2は縦長剥片で、平坦打面が残っているようである。

ブロック15（第62図）

休場層中層で検出した、黒曜石を主体とするブロックである。出土遺物を第63図に示す。1は良質な硬質頁岩製のナイフ形石器で、ナイフ形石器としては大型である。左側縁の上半の加工は、刃漬しと言うよりも、スクレイパーの刃部加工に近い。左側縁下半の加工は角度の高い刃漬し加工である。右側縁は、先端付近を刃漬し加工しており、基部に近い部分は、刃漬し加工の途中で縁辺を欠損しているため、これによって、基部が尖ったような形状になっている。2は黒曜石の不定形剥片の縁辺の一部を加工したスクレイパーである。3は黒曜石の複数き縦長剥片の縁辺に微細な溝離が見られる。4は黒曜石の縦長剥片の末端を加工したスクレイパーである。5は黒曜石の石核で、実測図正面は上下から剥片を剥離しており、実測図裏面は左右から剥片を剥離している。6も黒曜石の石核で、上端の打面から不定形剥片を剥離している。

第64図-1は、平坦打面を持つ大きな不定形剥片の末端を加工したスクレイパーである。

ブロック16（第65図）

休場層下層で出土したホルンフェルスを主体とするブロックである。スクレイパーが1点ある以外は剥片と碎片から構成されている。第65図-2は良質な硬質頁岩の剥片を加工したスクレイパーである。1と3はホルンフェルスの縦長剥片で、風化が進んでいる。

包含層出土石器

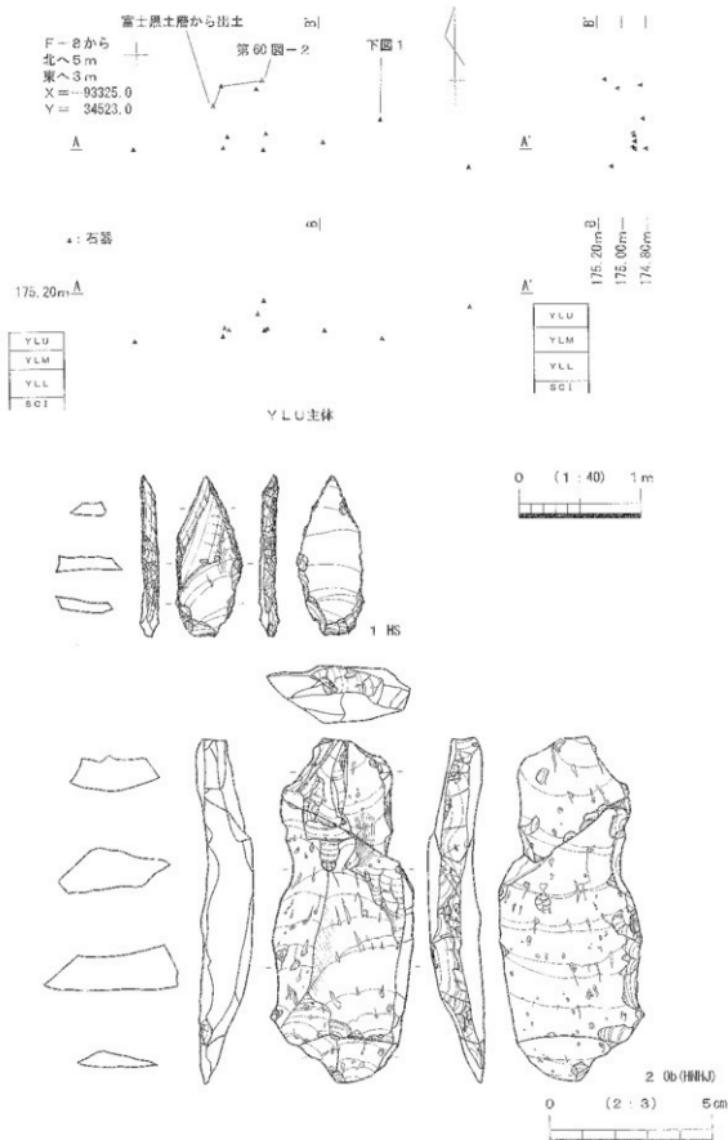
尖頭器

第66図-1は黒曜石の縦長剥片を加工した周縁加工尖頭器である。左側縁は裏面から加工しているのに対して、右側縁は表面から加工しているため、錯行剝離になっている。2はチャート製の両面加工尖頭器である。3と4はホルンフェルス製の両面加工尖頭器で、風化が進んでいる。5は黒曜石の縦長剥片を使った周縁加工で、先端だけ加工している。6は流紋岩性の両面加工尖頭器で、中央の厚みを取るために両側縁から半平坦剝離を入れているが、階段状剝離を起こしている箇所が多く、厚みを除去できていない。7はガラス質黒色安山岩製の両面加工尖頭器で、加工が進んでいるように見えるが、階段状剝離を起こすことなく全体が薄くなっていることから、完成に近いと思われる。

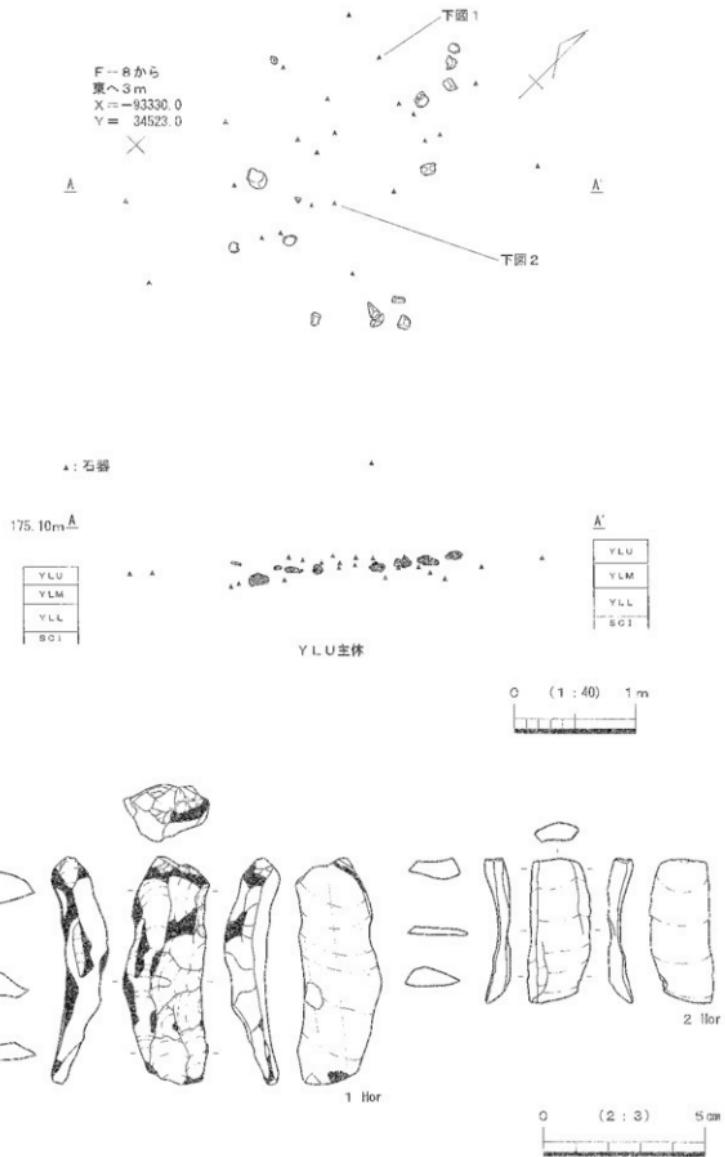
第67図-1はガラス質黒色安山岩を使った両面加工尖頭器の未完成品である。両面に自然面が残っている。2も両面加工尖頭器の未完成品で、先端部の破片だが、かなりの大型である。

ナイフ形石器

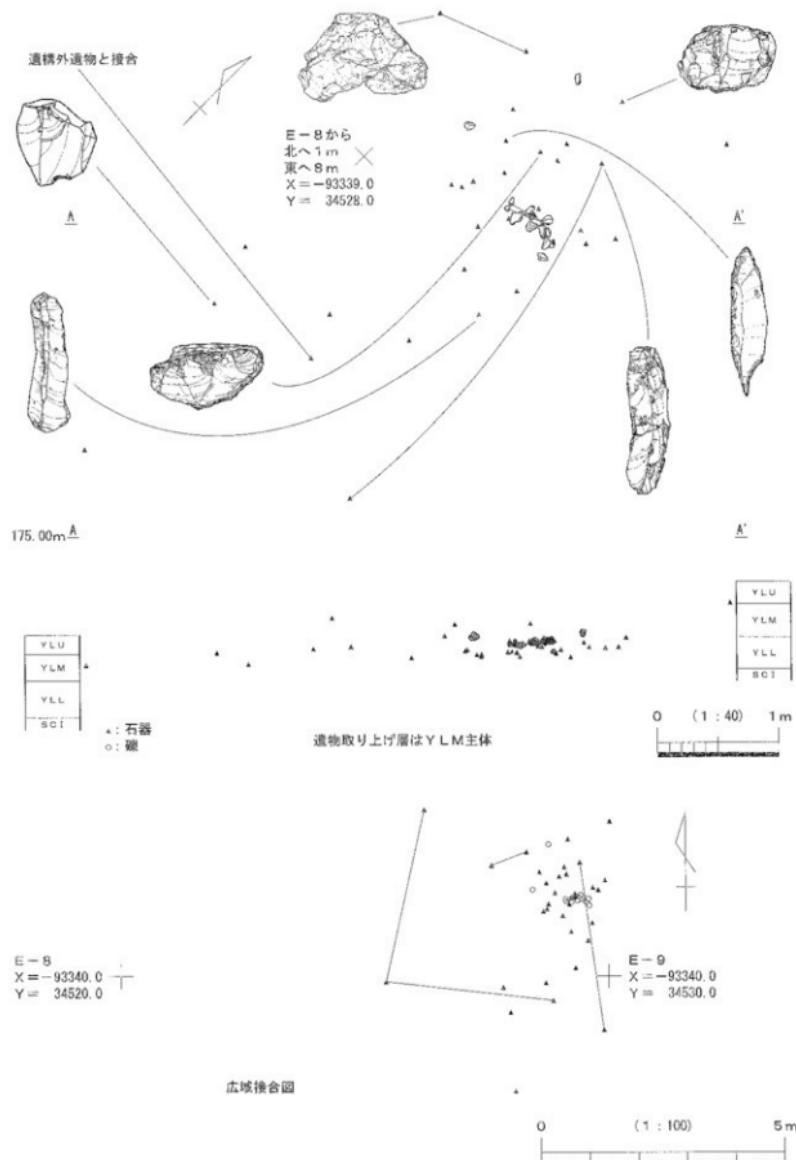
第67図-3は黒曜石製の二側縁加工で、裏面に打痕を除去したと思われる平坦剝離がある。4は黒曜石製に一側縁加工で、大きさの割に厚みがある。また、裏面に厚みを取ったと思われる平坦剝離がある。

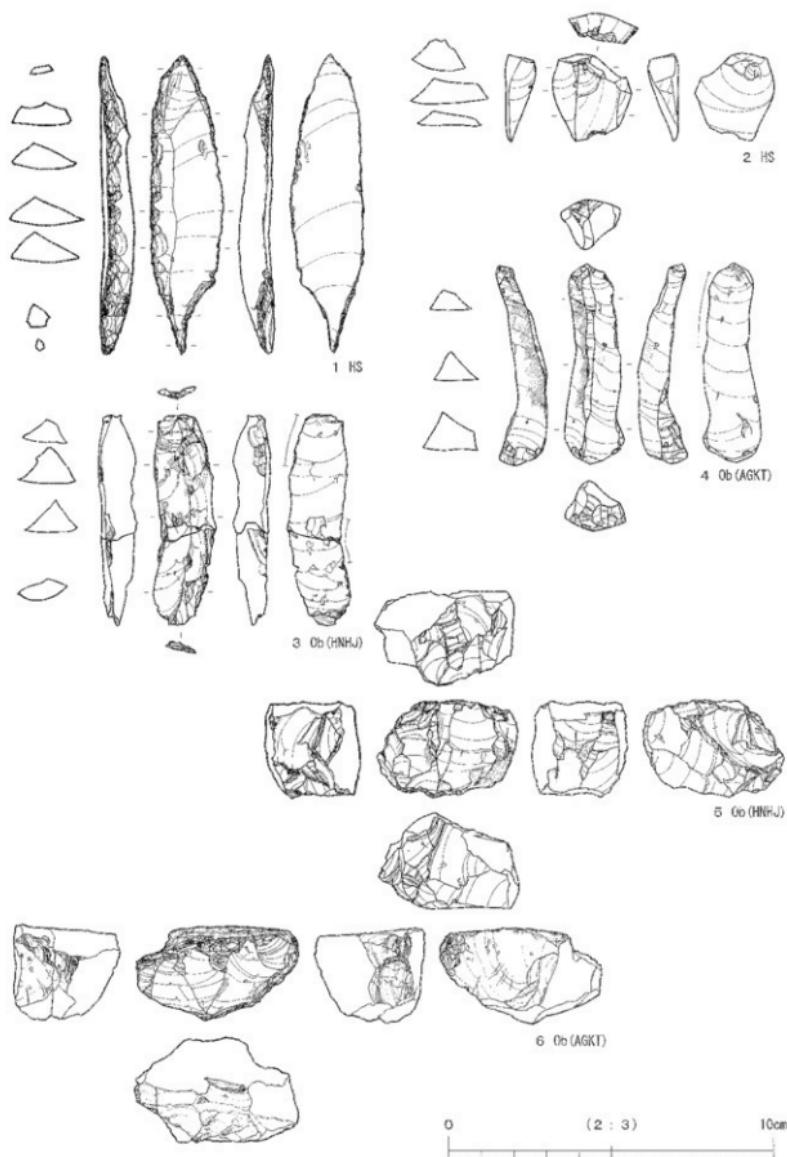


第60圖 ブロック13遺物分布図、出土遺物

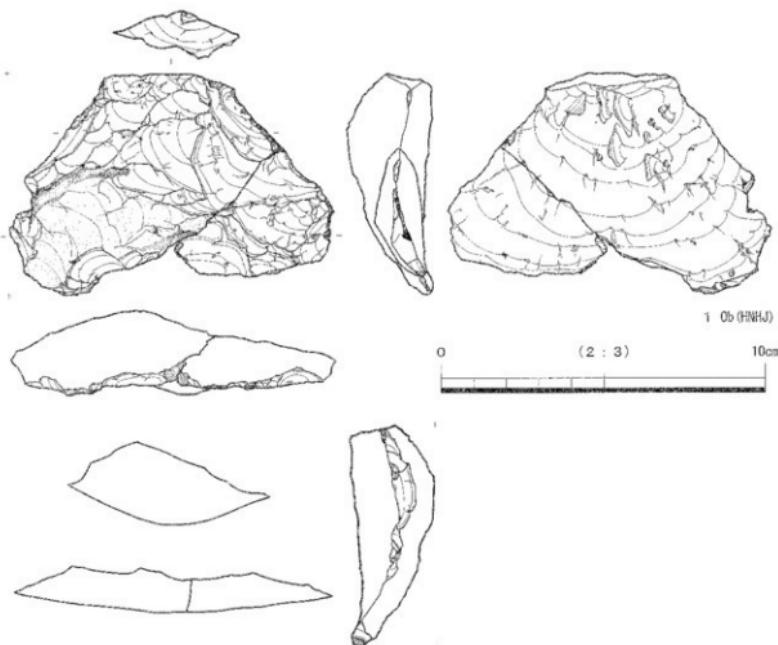


第61図 ブロック14、礫群13遺物分布図、出土遺物





第63図 ブロック15出土遺物（1）



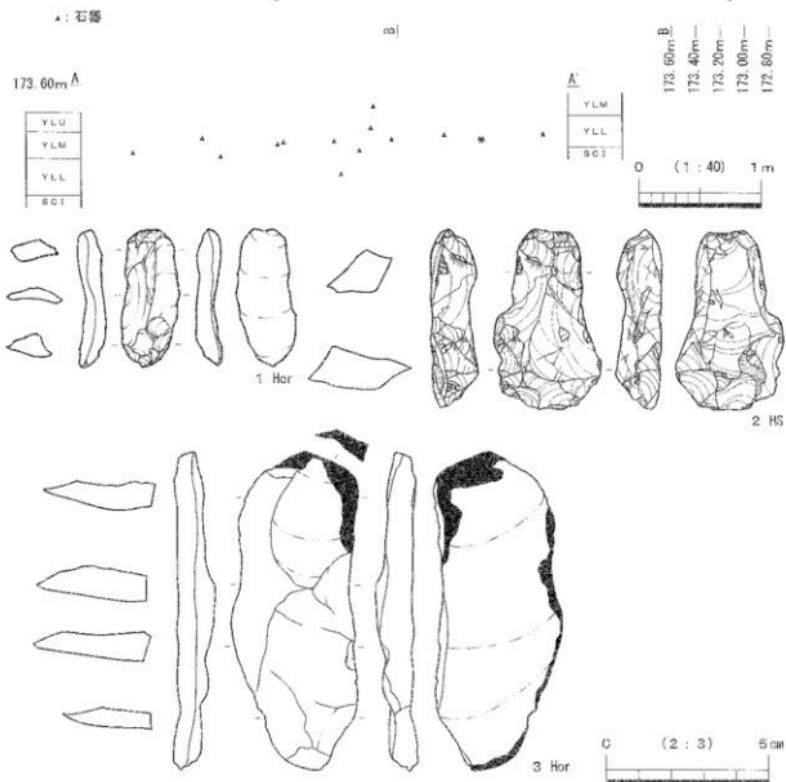
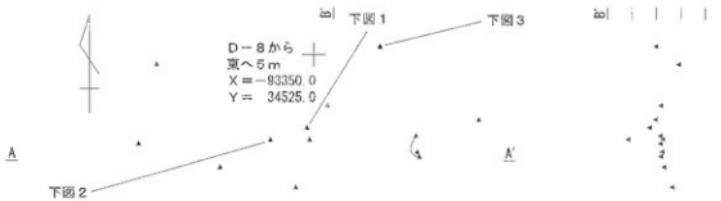
第64図 ブロック15出土遺物（2）

5はガラス質黒色安山岩の縦長剥片を使ったナイフ形石器で、右側縁上半に刃潰しをしたような剥離があるが、風化もあってはっきりしない。上下逆の可能性もある。6は黒曜石製の二側縁加工である。右側縁の刃潰し加工は、上半が細かく、下半が粗い加工になっている。

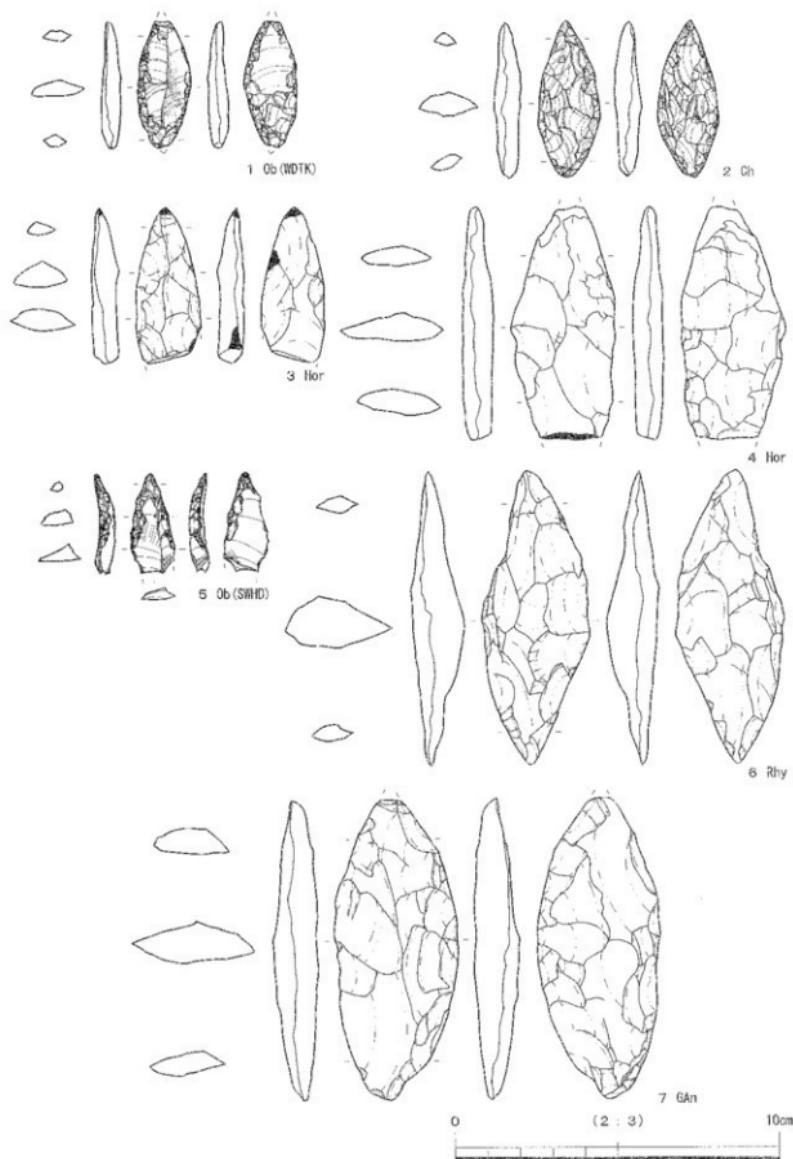
第68図-1は黒曜石製の二側縁加工で、右側縁下部は微細な剥離を入れて加工している。2と3は、ナイフ形石器だとすると上下が逆で、切り出し形のナイフ形石器になる。図示した通りだとすると角錐状石器に似た石器になる。石材は2がガラス質黒色安山岩、3が黒曜石である。

4は黒曜石製で、刃潰しを確認できるのは右側縁だけだが、左側縁下半の欠損は刃潰し加工の途中で欠損したと思われることから、二側縁加工に分類している。5は黒曜石の幅の広い剥片を使った二側縁加工である。右側縁は、上半に比べて下半の加工が細かい。基部に剥片の打面が残っている。6はホルンフェルス製の二側縁加工で、基部に剥片の打面が残っている。7は黒曜石製の二側縁加工で、基部に剥片の打面が残っている。8は黒曜石の丸みのある剥片を使った二側縁加工である。刃部から先端まで加工してある。削突具として機能したかどうか疑わしく、ナイフ形石器に分類して良いか躊躇される。

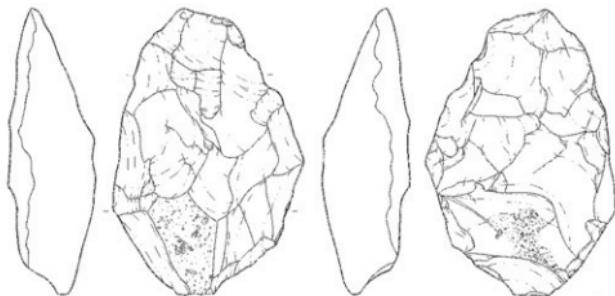
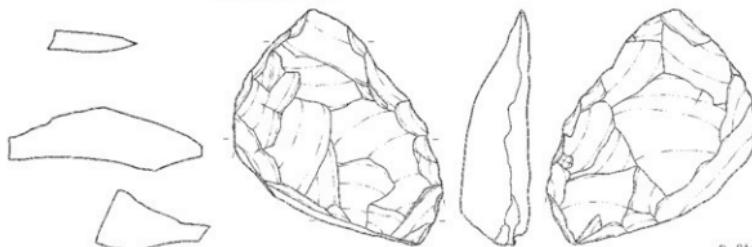
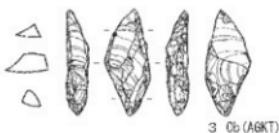
9は黒曜石製で、縦長の厚みのある剥片を使っている。基部に剥片の打面が残っている。10は良質な硬質頁岩製の二側縁加工で、左側縁の加工が剥片の打面を除去している。11も良質な硬質頁岩製の二側縁加工で、右側縁に自然面が残っている。12は黒曜石製で、右側縁上半の加工が剥片の打面を除去している。左側縁の加工は器面に沿って薄く剥がすような加工で、刃潰し加工とは異なり、スクレイパーの刃部を作るような加工になっている。裏面基部には厚みをとったと思われる平坦剥離が見られる。



第65図 ブロック16遺物分布図、出土遺物



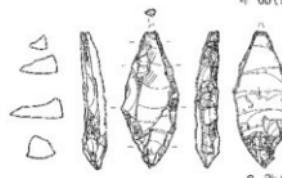
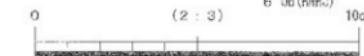
第66図 休場層出土遺物（1）

1. GA_n2. SA_r

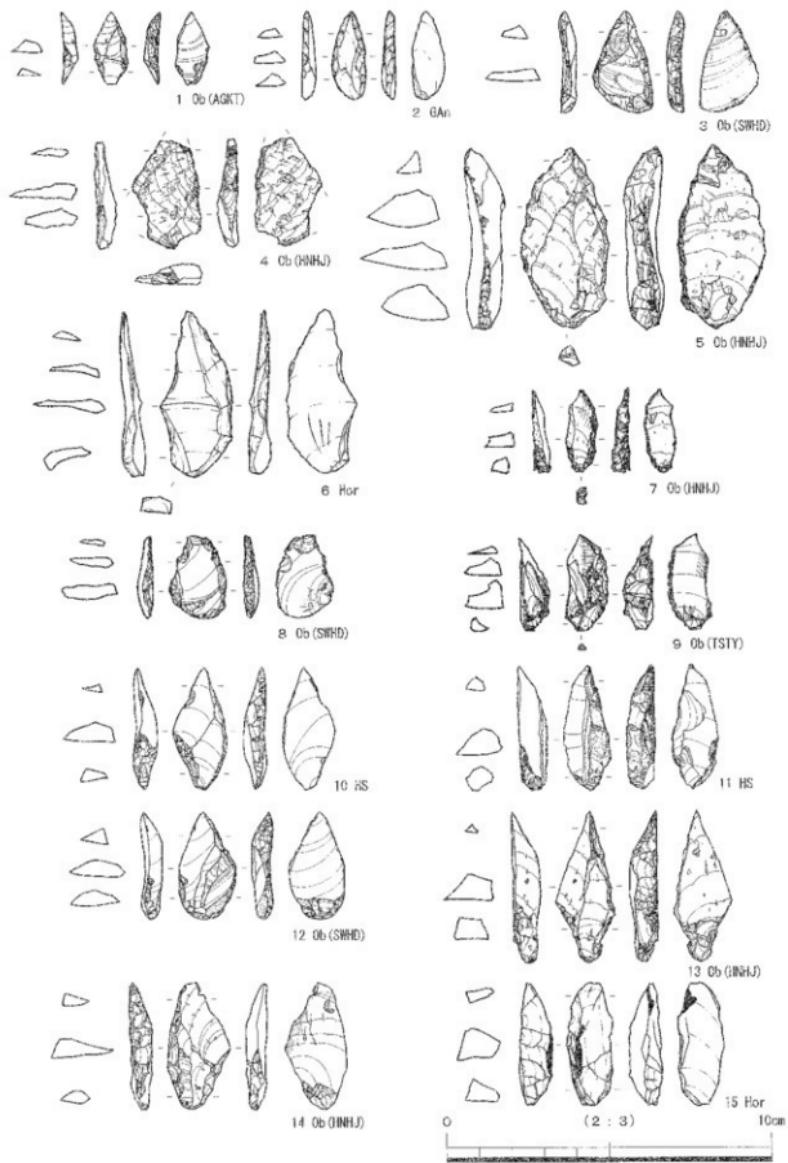
3. Ob (AGKT)

6. GA_n

4. Ob (TSTY)

6. Ob (HMH_o)

第67図 休場層出土遺物 (2)



第68図 休場層出土遺物（3）

13は黒曜石製の二側縁加工で、裏面基部に打崩を除去したと思われる平坦剥離がある。基部を細長く作り出しているように見える。14は黒曜石の幅の広い剥片を使った二側縁加工で、基部も加工して丸く仕上げている。15はホルンフェルス製の縦長剥片を使った二側縁加工で、大きさの割に厚みがある。

第69図-1はホルンフェルスの縦長剥片を使った一側縁加工である。2はナイフ形石器基部の破片である。3は珪化した流紋岩製の二側縁加工である。4は黒曜石の厚みのある剥片を使った二側縁加工で、下半を欠損している。5は珪化した流紋岩を使った一側縁加工で、縦長剥片の先端に近い部分を加工している。6~10は剥片の一端を切断するように加工したナイフ形石器である。6は左側縁の基部も加工しているため、上下逆の二側縁加工になるかもしれない。9は加工した部分が齧歛状になっている。

彫器

第69図-11は良質な硬質頁岩を使った彫器で、折れた面から彫刃面を作っている。

スクレイバー

第69図-12~14はスクレイバーで、12は黒曜石の打面に近い縁辺を加工している。13は黒曜石製剥片のほぼ全周を加工している。14は良質な硬質頁岩の剥片を使っており、縁辺を加工している。

第70図-1は黒曜石の不定形剥片を使っており、表面から左側縁に剥離を入れて加工している。

微細な剥離のある剥片

第70図-2は黒曜石の縦長剥片の縁辺に微細な剥離がある。3は良質な硬質頁岩製縦長剥片で、縁辺に微細な剥離が見られる。4は黒曜石製縦長剥片の縁辺に微細な剥離が見られる。

稜付き剥片

第70図-5は良質な硬質頁岩製の縦長剥片で、稜線を作った剥離が見られる。

剥片

第70図-6、7はガラス質黒色安山岩の剥片である。6は縦長剥片で、7は先行剥離面側に自然面を残した幅広の剥片である。

打面再生剥片

第71図-1は良質な硬質頁岩製の石核から剥離された打面再生剥片である。

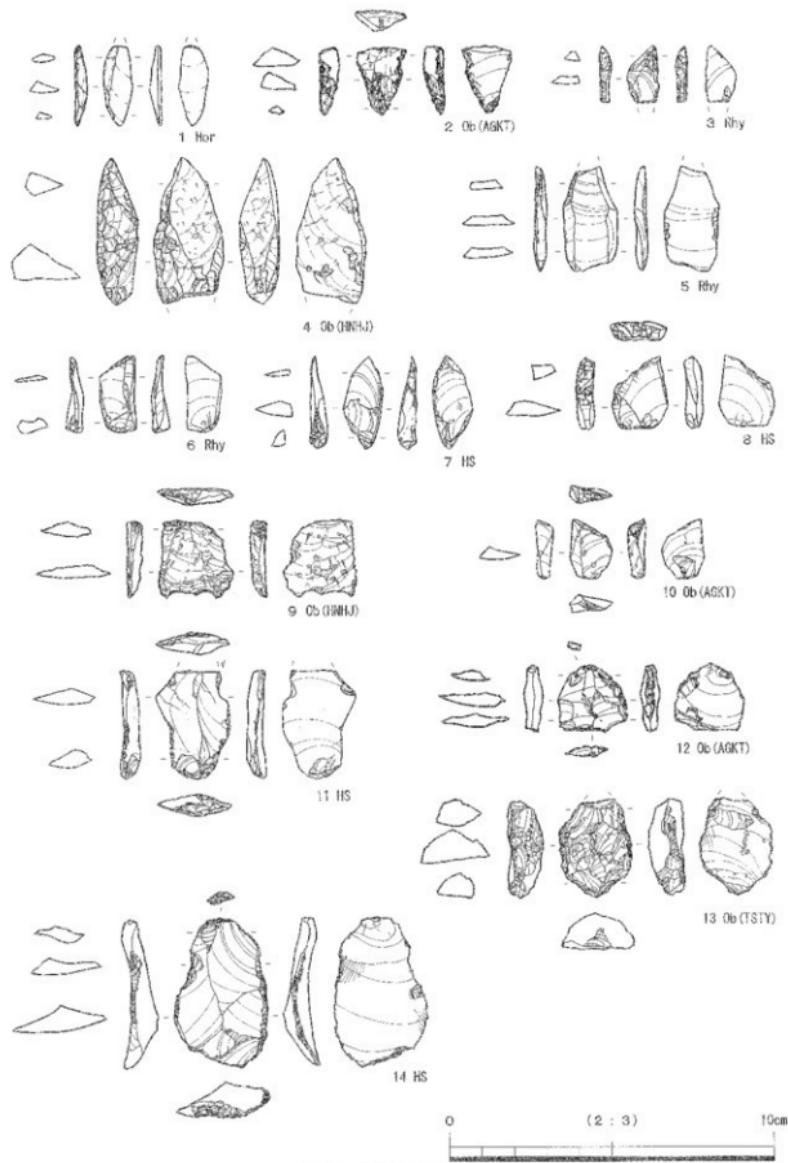
石核

第71図-2、3はホルンフェルス製の石核で、2は石核の側面を打点が周回しながら不定形剥片を剥離している。3は、上端の打面から実測団正面にある作業面で不定形剥片を剥離している。

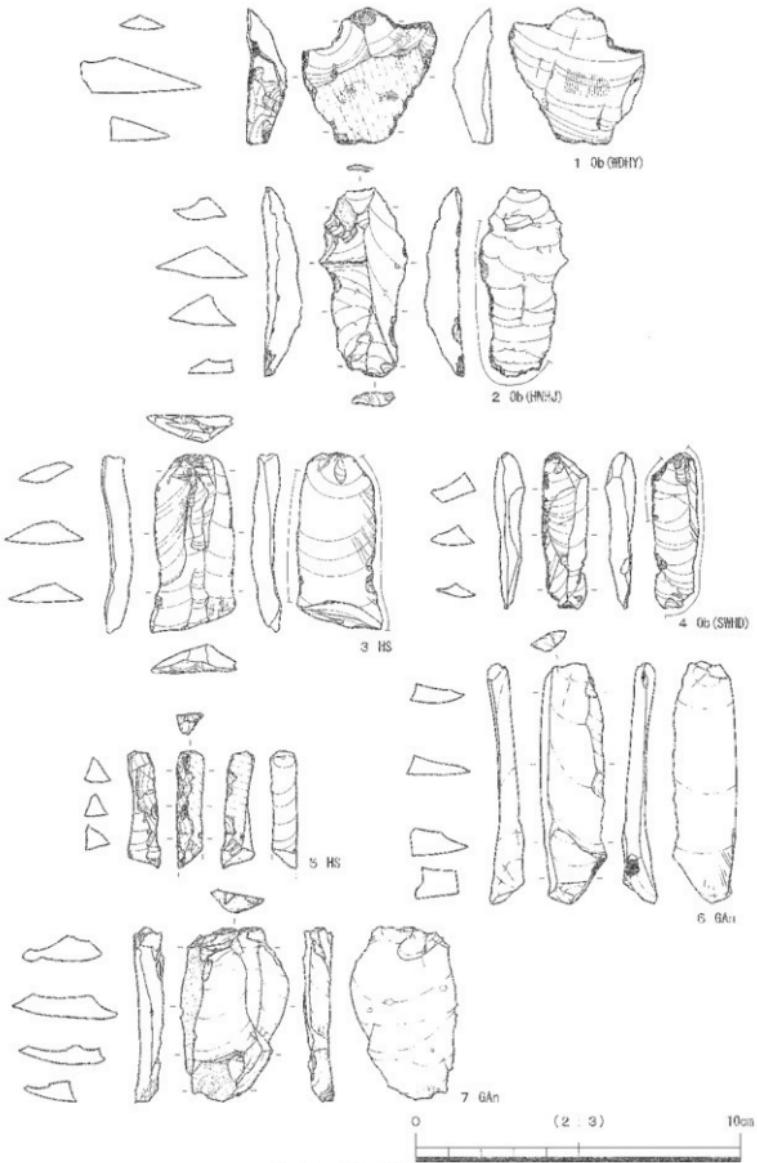
第72図-1は黒曜石製の石核で、上端の打面から縦長剥片を剥離している。これ以上は剥片を剥離できないほど小さくなっている。2は黒曜石製で、実測団正面の作業面で不定形剥片を剥離している。3はホルンフェルス製の石核で、打面と作業面を入れ替えながら不定形剥片を剥離しているため、尖頭器のような形になっている。4はホルンフェルスの円礫を使った石核で、上端の打面から幅の広い剥片を剥離している。第73図-1はホルンフェルスの円礫を使った石核で、上端の打面から実測団正面にある作業面で剥片を剥離しようとしているが、大きな階段状剥離を起こして剥離を失敗している。2はホルンフェルスの扁平な円礫を使った石核で、片面から不定形剥片を剥離しているため、砾器のような形態になっている。第74図-1はガラス質黒色安山岩の石核で、ほぼ全面を使って不定形剥片を剥離している。実測団正面の作業面が最終作業面で、ここに見られる上端からの剥離が大きく階段状剥離を起こして終わっている。2はホルンフェルスの円礫を使っており、上端の打面から、実測団正面にある作業面で不定形剥片を剥離しているが、階段状剥離を起こした剥離が多い。3はホルンフェルスの円礫を使った石核で、実測団右側見通し面を打面として、実測団正面にある作業面で不定形剥片を剥離している。

磨滅痕のある礫

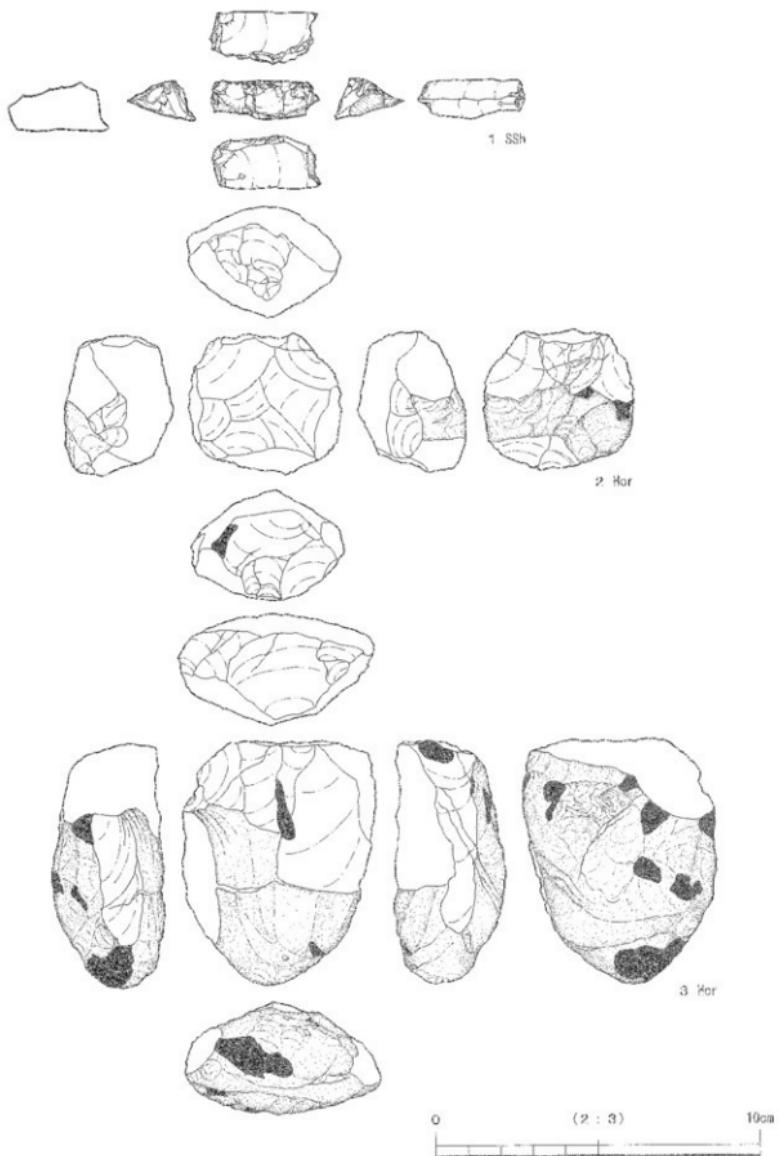
第74図-4は粗粒の安山岩の円礫で、磨滅して平坦になった部分がある。



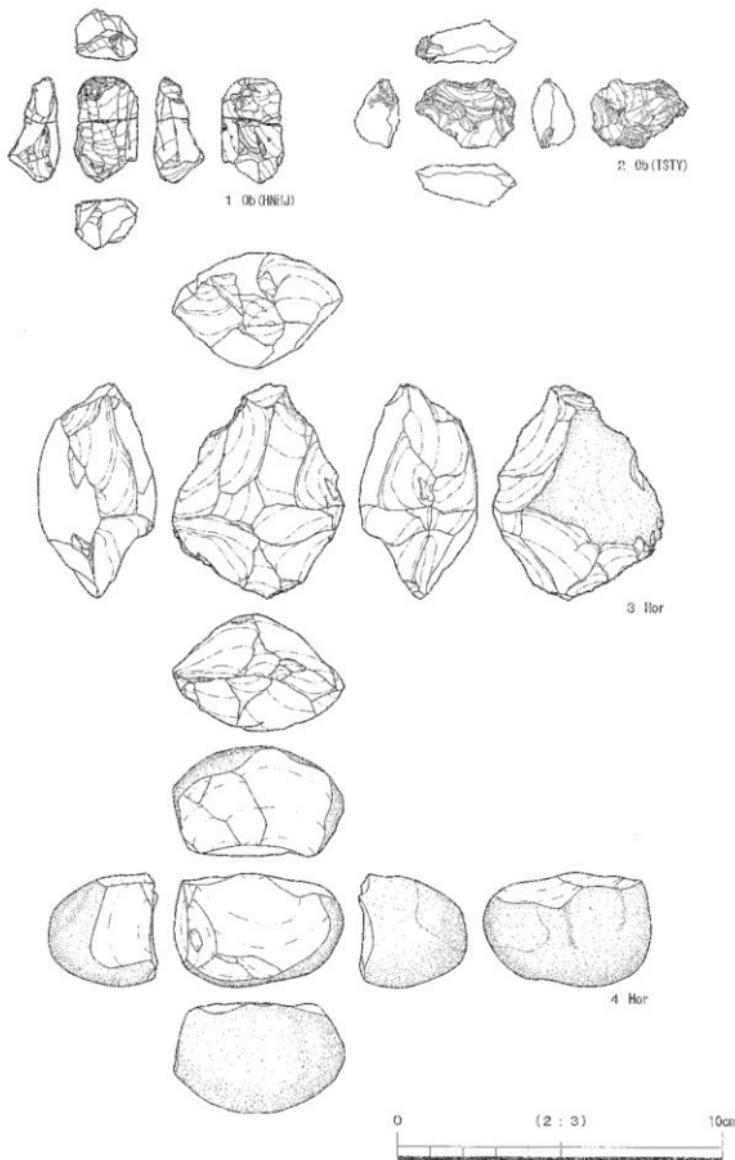
第69圖 休場層出土遺物（4）



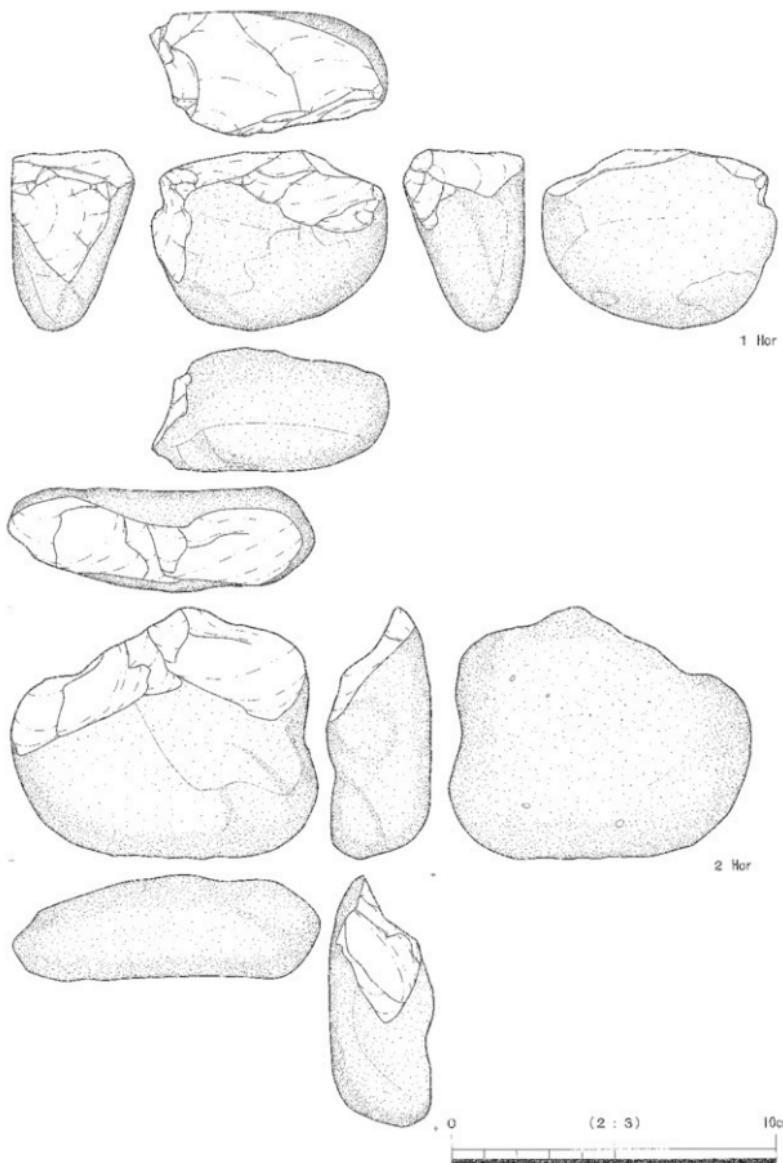
第70図 休場層出土遺物（5）



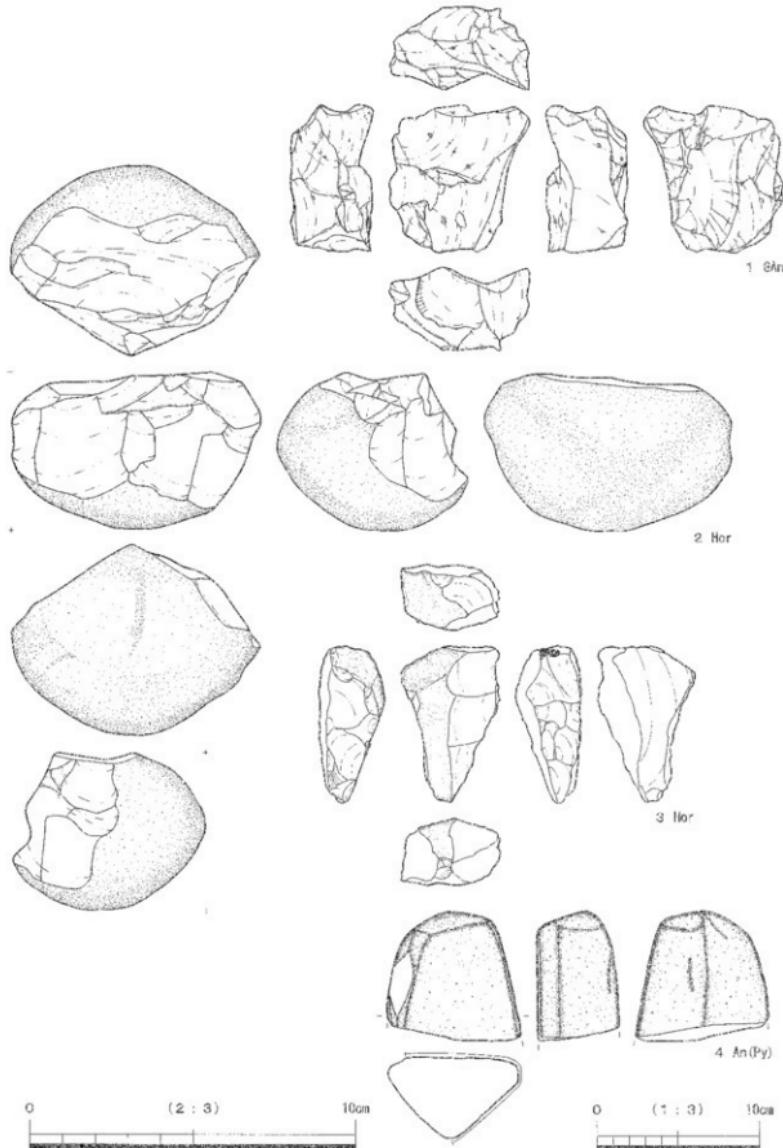
第71図 休場層出土遺物(6)



第72図 休場層出土遺物 (7)



第73圖 休場層出土遺物（8）



第74図 休場層出土遺物 (9) (1~3 : 2/3, 4 : 1/3)

第2節 第Ⅲスコリア帯～第Ⅲ黒色帯出土の遺構と遺物

この層で出土した遺物は少ない。第75図上段に示したように、ブロックが1基出土している程度であり、ほとんどの遺物は第Ⅲ黒色帯から出土している。また、第Ⅲ黒色帯でしばしば発見される土坑も、この遺跡では検出されなかった。

ブロック17（第75図下段）

第Ⅲ黒色帯を中心に出土した、13点の石器からなる小規模なブロックで、石材はホルンフェルス、細粒の安山岩、黒曜石、珪質岩からなる。

第76図-1は黒曜石の弱片を使った一側縁加工のナイフ形石器で、欠損が大きく、図示した部分が先端か基部か不明である。素材になった剥片は、幅の広い剥片だったと思われる。2は白っぽい珪質の石材を使った一側縁加工のナイフ形石器で、左側縁の加工が先端まで加工しているため、先端が尖っていない。また先行剥離面に、この剥片を剥離した石核に残っていた打点が残っている。したがって、このナイフ形石器に使った剥片は両面がポジティブ面の剥片である。

3と4は厚みのある不定形剥片で、5の石核に接合する。5は細粒の安山岩の円礫を使った石核で、実測図正面の大きな作業面に3と4の剥片が接合する。第77図-1が接合した状態で、3と4の剥片は剥離と同時に擦削されたことがわかる。

第77図-2は、実測図正面が最終剥離面で、山形になった打面の頂点に打撃を加えて横長剥片を剥離している。横長剥片を剥離する前に、上面見通しにある面で打面を転移しながら不定形剥片を剥離している。したがって、不定形剥片を剥離していた石核が、剥離の最終段階で、横長剥片石核に移行したものである。

第6章 まとめ

平安時代の調査では発達して4軒の竪穴住居跡を発見した。搅乱が激しく、床面付近が残っていたにすぎなかつたが、そのうち1軒からは床面付近に残された土壌器が出土した。竪穴住居跡を居住地とする時期としては終末期に当たると思われるが、日当たりの良い乾燥した愛鷹山麓が居住地として選ばれた背景には、水田農耕とは別の生業を想定する必要があるだろう。

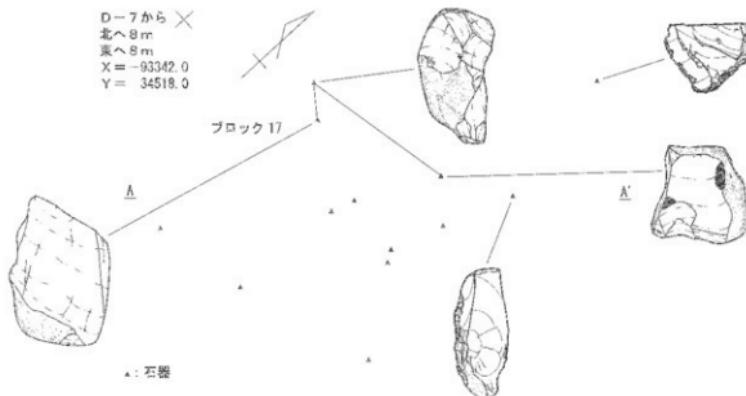
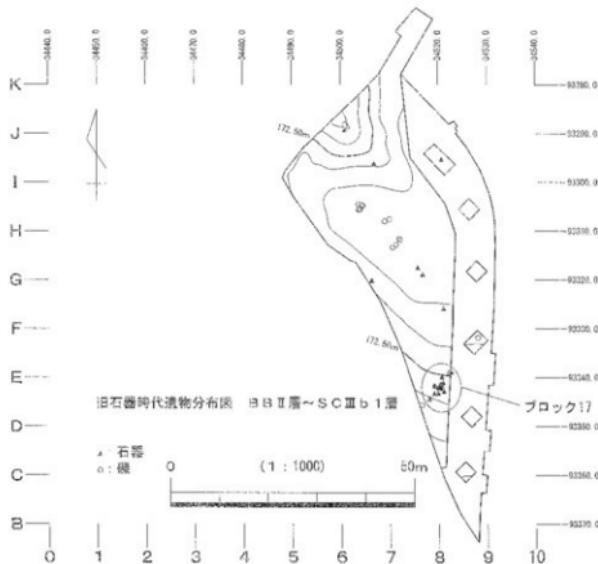
縄文時代の調査では、竪穴住居跡1軒の他に集落と廃土坑を検出した。遺構の構成から、居住地ではなく、火を使う作業場所として利用されたと考えられる。

出土した縄文土器は、早期の土器が主体で、燃系文土器と押型文土器、縄文土器の組み合わせからなる。燃系文土器は、燃糸を斜め方向に施文するものが多く、斜めに交差させるものも目立つ。また、全体的に細い燃糸が目立つのも特徴である。押型文土器は梢円文と格子目文があり、梢円文は文様が不鮮明なものが目立つ。また、ネガティブな格子目文が見られるのも特徴である。

縄文土器では、細かい気泡を含むため、大きさの割に軽く、すべすべした独特の感触のある胎土が目立つ。文様では、縄文の間隔が開いているものや、縄文施文後に表面が乾かないうちに表面をなでているらしく、縄文の筋が丸みを帯びているものも目立つ。

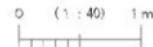
上記の特徴は、池谷信之2003「縦位密接施文から異方向帶状施文へ」『利根川』第24・25合併号で設定された西洞段階～イライナ段階に見られる特徴で、八分平E遺跡の縄文土器がどちらの段階に入るかは決まらないが、西洞階の範囲に入ることは間違いないであろう。

旧石器時代の調査では、休場層と第Ⅲ黒色帯に文化層を設定した。休場層では16基、第Ⅲ黒色帯では1基のブロックを検出した。小規模ブロックが主体で、石器を製作した痕跡が少なく、接合例も少なかったことから、主に石器を搬入した地点であったと思われる。



石器
骨
貝
SCe a 1

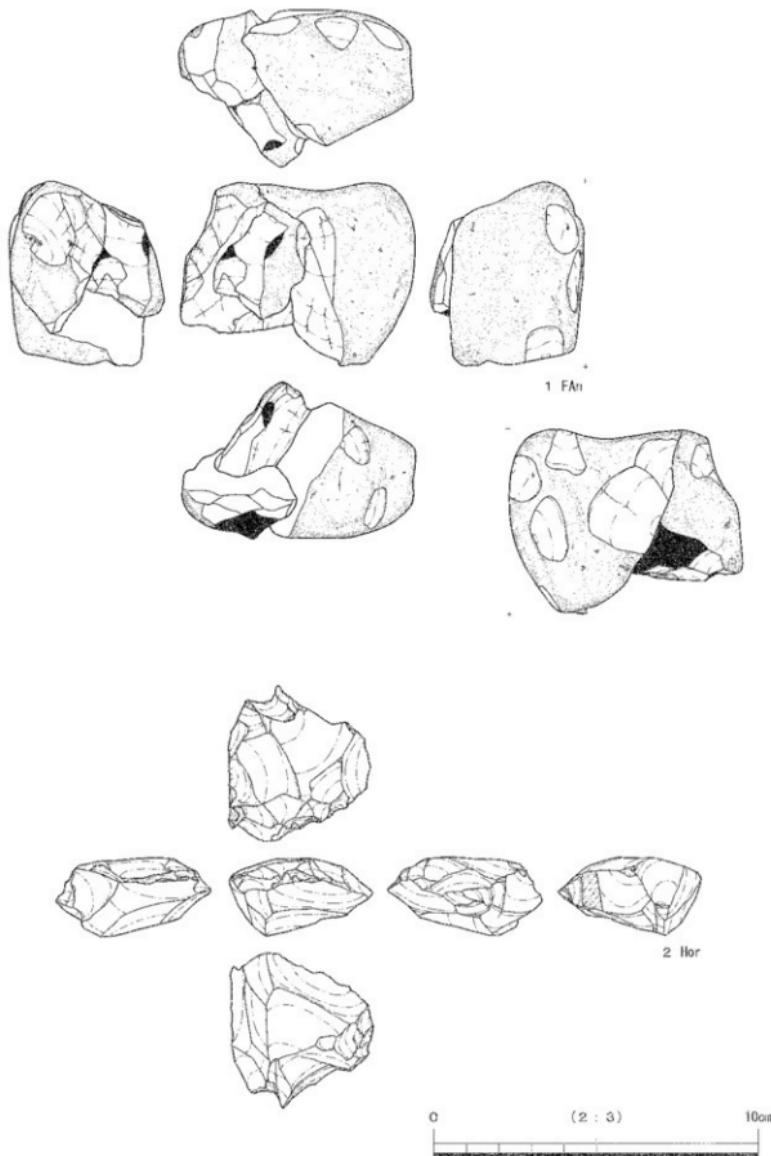
SCe
SCe
SCe
SCe a 1



第75図 第III黑色帶遺物分布図、ブロック17遺物分布図



第76図 ブロック17出土遺物（1）



第77図 ブロック17出土遺物(2)、第III黒色帯出土遺物

付編1 八分平E遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

八分平E遺跡は、静岡県駿東郡長泉町東野八分平（北緯 $36^{\circ} 27' 39''$ 、東経 $137^{\circ} 18' 23''$ ）に所在する。測定対象試料は、竪穴住居跡等の遺構から出土した炭化物11点（IAAA-100717～100727）、遺物包含層から出土した土器に付着した炭化物9点（IAAA-100728～100736）の合計20点である（表1）。土器付着炭化物はすべて土器の内面から採取された。

2 測定の意義

遺構から出土した炭化物の年代測定により、遺構の年代を明らかにする。土器付着炭化物の年代測定では、土器の年代を直接検討する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ビンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

3MVタンデム加速器 (NEC Pelletron 9SDH-2) をベースとした¹⁴C-AMS専用装置を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0 yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入

る確率が98.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい (¹⁴Cが少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値もδ¹³Cによって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暈年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暈年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暈年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暈年較正年代を表す。暈年較正プログラムに入力される値は、δ¹³C補正を行い、下一桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暈年較正年代の計算に、IntCal09データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暈年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暈年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

石器製作場所と考えられるブロック09出土炭化物3022の¹⁴C年代は4490±30yrBPである。縄文時代中期に相当する年代値で、休場層中層の年代としては新しい値となっている。

豊穴住居跡03出土炭化物の¹⁴C年代は、404が1170±30yrBP、405が1210±30yrBPである。2点の年代値は誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で重なり合い、近い年代を示している。暈年較正年代 (1σ) は8世紀後葉から9世紀頃の範囲で示される。

豊穴住居跡04出土炭化物の¹⁴C年代は、282が1220±30yrBP、284が1230±30yrBPである。2点の年代値は誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲でよく一致しており、ほぼ同年代を示している。暈年較正年代 (1σ) は8世紀前葉から9世紀中葉頃の範囲で示される。

豊穴住居跡05出土炭化物の¹⁴C年代は、4279が5570±30yrBP、4325が5420±30yrBP、4360が5430±30yrBP、5058が5790±30yrBP、2591が5580±30yrBPである。4325と4360、4279と2591の年代値は各々誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲でよく一致しており、ほぼ同年代を示しているが、前2者、後2者、及び5058の間には年代差が認められる。暈年較正年代 (1σ) は、最も古い5058が4692~4600cal BC、最も新しい4325が4332~4261cal BCの間に2つの範囲で示される。おおよそ縄文時代前期前半頃に相当する。

集石04出土炭化物7655の¹⁴C年代は9390±40yrBPである。暈年較正年代 (1σ) は8725~8625cal BCの範囲で、縄文時代早期前葉頃に当たる。

次に遺物包含層から出土した土器に付着した炭化物の年代を上位の層から順に見ると、カワゴ平バミス層出土土器付着炭化物2741他の¹⁴C年代は4960±30yrBPである。暈年較正年代 (1σ) は3772~3701cal BCの範囲で示される。縄文時代前期後半に当たる年代値で、炭化物が採取された土器が諸職式と判断されていることと矛盾しないが、カワゴ平バミスの噴出年代よりも古いと見られる。

栗色土層出土土器付着炭化物の¹⁴C年代は、1398他が5020±30yrBP、1396他が4980±30yrBPである。2点の年代値は誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で重なる部分を持ち、近い年代を示す。暈年較正年代 (1σ) は、1398他が3934~3767cal BCの間に2つの範囲、1396他が3784~3710cal BCの範囲となっている。縄文時代前期

後半に相当し、炭化物が採取された土器が諸磯式と判断されていることと矛盾しない。

富士黒色土層出土上器付着炭化物の¹⁴C年代は、4584他が9510±40yrBP、5664が9370±40yrBP、5526が9580±40yrBP、4997が9370±40yrBPである。5664と4997はほぼ同年代を示し、4584他と5526はこれらより古い値となった。曆年較正年代(1σ)は、4584他が9116～8745cal BCの間に3つの範囲、5664が8707～8571cal BCの間に3つの範囲、5526が9137～8837cal BCの間に4つの範囲、4997が8709～8571cal BCの間に3つの範囲で示される。おおむね縄文時代早期前葉頃に当たる。4584他、5664、5526は縄文土器、4997は燃糸文土器と認定されている土器から採取された。

漸移層出土土器付着炭化物の¹⁴C年代は、7816が9780±40yrBP、874が11920±50yrBPである。曆年較正年代(1σ)は、7816が9284～9243cal BC、874が11901～11771cal BCの範囲となっている。7816は縄文時代草創期と早期の境界頃、874は縄文時代草創期に相当する年代値が示された。炭化物が採取された土器は、7816が燃糸文土器、874が階帶のある土器と見なされている。

炭素含有率は多くの試料で40%を超えており、化学処理、測定上の問題は認められない。ただし、5664、7816、4997については10%台の低い値となっており、注意が必要である。

第2表 年代測定結果一覧表(1)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-100717	3022	ブロック09 休場層中層	炭化物	AAA	-27.17 ± 0.48	4,490 ± 30	57.15 ± 0.20
IAAA-100718	404	豎穴住居跡03 埋土	炭化物	AaA	-26.05 ± 0.66	1,170 ± 30	86.44 ± 0.28
IAAA-100719	405	豎穴住居跡03 埋土	炭化物	AaA	-27.89 ± 0.38	1,210 ± 30	86.01 ± 0.27
IAAA-100720	282	豎穴住居跡04 埋土	炭化物	AAA	-26.69 ± 0.59	1,220 ± 30	85.86 ± 0.27
IAAA-100721	284	豎穴住居跡04 埋土	炭化物	AAA	-27.12 ± 0.67	1,230 ± 30	85.83 ± 0.29
IAAA-100722	4279	豎穴住居跡05 埋土	炭化物	Aaa	-27.89 ± 0.48	5,570 ± 30	49.96 ± 0.19
IAAA-100723	4325	豎穴住居跡05 埋土	炭化物	Aaa	-29.34 ± 0.59	5,420 ± 30	50.91 ± 0.19
IAAA-100724	4360	豎穴住居跡05 墓土	炭化物	Aaa	-27.91 ± 0.44	5,430 ± 30	50.85 ± 0.19
IAAA-100725	5058	豎穴住居跡05 墓土	炭化物	AAA	-25.07 ± 0.46	5,790 ± 30	48.65 ± 0.19
IAAA-100726	2591	豎穴住居跡05 内土坑	炭化物	AAA	-25.84 ± 0.55	5,580 ± 30	49.90 ± 0.19
IAAA-100727	7655	集石04	炭化物	AAA	-26.72 ± 0.70	9,390 ± 40	31.06 ± 0.16
IAAA-100728	1398他	栗色土層	炭化物	Aaa	-26.71 ± 0.58	5,020 ± 30	53.52 ± 0.20
IAAA-100729	1396他	栗色土層	炭化物	AaA	-25.76 ± 0.55	4,980 ± 30	53.79 ± 0.22
IAAA-100730	2741他	カワゴ平バミス層	炭化物	Aaa	-25.62 ± 0.43	4,960 ± 30	53.95 ± 0.19
IAAA-100731	4584他	富士黒色土層	炭化物	Aaa	-25.35 ± 0.52	9,510 ± 40	30.63 ± 0.16
IAAA-100732	5664	富士黒色土層	炭化物	Aaa	-24.88 ± 0.60	9,370 ± 40	31.16 ± 0.15
IAAA-100733	5526	富士黒色土層	炭化物	AaA	-25.43 ± 0.43	9,580 ± 40	30.33 ± 0.16
IAAA-100734	7816	漸移層	炭化物	AaA	-23.78 ± 0.54	9,780 ± 40	29.60 ± 0.15
IAAA-100735	4997	富士黒色土層	炭化物	AaA	-25.03 ± 0.49	9,370 ± 40	31.15 ± 0.16
IAAA-100736	874	漸移層	炭化物	AaA	-22.97 ± 0.52	11,920 ± 50	22.67 ± 0.13

[参考値]

第3表 年代測定結果一覧表(2)

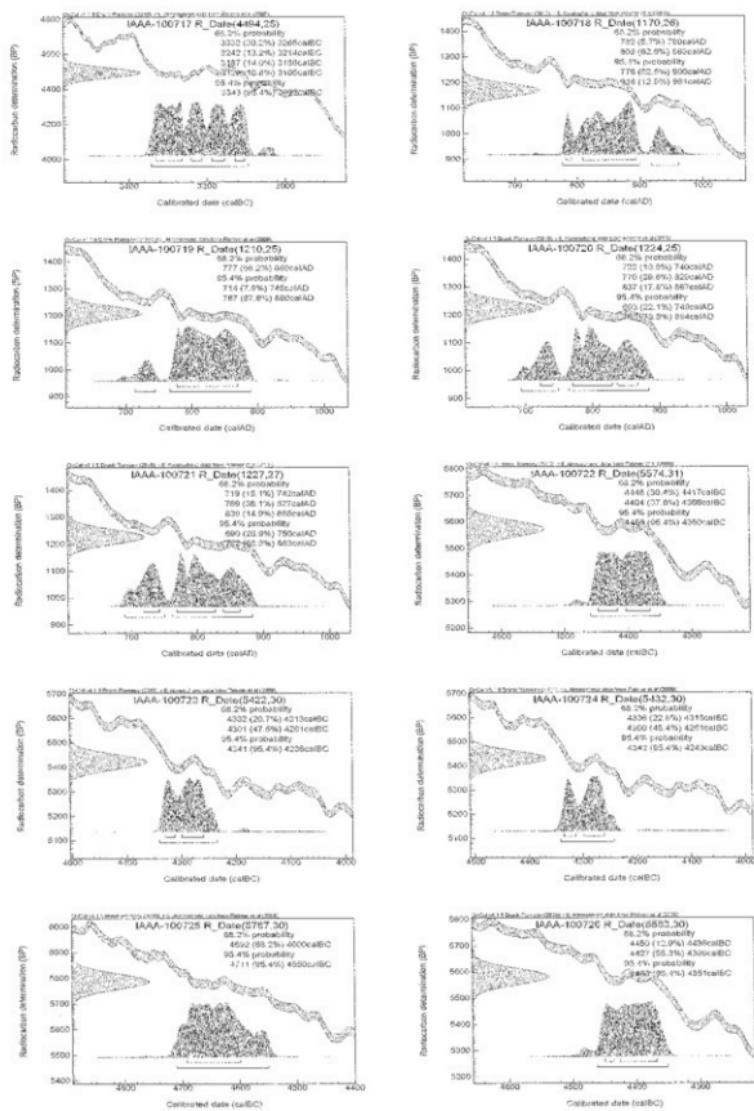
測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ 補正なし		曆年校正用 (yrBP)	1σ 曆年代範囲	2σ 曆年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-100717	4,530 ± 30	56.90 ± 0.19	4,494 ± 28	3332calBC-3265calBC (30.2%) 3242calBC-3214calBC (13.2%) 3187calBC-3156calBC (14.0%) 3129calBC-3105calBC (10.8%)	3343calBC-3095calBC (95.4%)
IAAA-100718	1,190 ± 20	86.25 ± 0.26	1,170 ± 26	782calAD-790calAD (5.7%) 809calAD-893calAD (62.5%)	776calAD-900calAD (82.5%) 918calAD-961calAD (12.9%)
IAAA-100719	1,260 ± 20	85.50 ± 0.26	1,210 ± 25	777calAD-893calAD (68.2%)	714calAD-745calAD (7.8%) 767calAD-890calAD (87.6%)
IAAA-100720	1,250 ± 20	85.56 ± 0.25	1,224 ± 25	722calAD-740calAD (10.5%) 770calAD-829calAD (39.8%) 837calAD-867calAD (17.8%)	693calAD-749calAD (22.1%) 765calAD-884calAD (73.3%)
IAAA-100721	1,266 ± 30	85.46 ± 0.26	1,227 ± 27	719calAD-742calAD (15.1%) 769calAD-827calAD (38.1%) 839calAD-885calAD (14.9%)	690calAD-750calAD (26.9%) 762calAD-883calAD (68.5%)
IAAA-100722	5,620 ± 30	49.67 ± 0.19	5,574 ± 31	4448calBC-4417calBC (30.4%) 4404calBC-4366calBC (37.8%)	4459calBC-4350calBC (95.4%)
IAAA-100723	5,490 ± 30	50.46 ± 0.18	5,422 ± 30	4332calBC-4313calBC (20.7%) 4301calBC-4261calBC (47.5%)	4341calBC-4236calBC (95.4%)
IAAA-100724	5,480 ± 30	50.55 ± 0.19	5,432 ± 30	4336calBC-4315calBC (22.8%) 4300calBC-4261calBC (45.4%)	4342calBC-4243calBC (95.4%)
IAAA-100725	5,790 ± 30	48.64 ± 0.18	5,787 ± 30	4692calBC-4600calBC (68.2%)	4711calBC-4550calBC (95.4%)
IAAA-100726	5,600 ± 30	49.82 ± 0.18	5,583 ± 30	4450calBC-4435calBC (12.9%) 4427calBC-4369calBC (55.3%)	4463calBC-4351calBC (95.4%)
IAAA-100727	9,420 ± 40	30.95 ± 0.15	9,392 ± 40	8725calBC-8625calBC (68.2%)	8756calBC-8565calBC (95.4%)
IAAA-100728	5,050 ± 30	53.33 ± 0.19	5,021 ± 29	3934calBC-3875calBC (39.7%) 3807calBC-3767calBC (28.5%)	3943calBC-3857calBC (46.2%) 3843calBC-3836calBC (1.2%) 3822calBC-3711calBC (48.0%)
IAAA-100729	4,990 ± 30	53.71 ± 0.21	4,980 ± 32	3784calBC-3710calBC (68.2%)	3929calBC-3877calBC (9.3%) 3804calBC-3692calBC (82.7%) 3685calBC-3662calBC (3.4%)
IAAA-100730	4,970 ± 30	53.88 ± 0.19	4,957 ± 29	3772calBC-3701calBC (68.2%)	3790calBC-3659calBC (95.4%)
IAAA-100731	9,510 ± 40	30.60 ± 0.16	9,505 ± 42	9116calBC-9077calBC (13.3%) 9055calBC-9016calBC (12.2%) 8843calBC-8745calBC (42.7%)	9126calBC-8996calBC (34.1%) 8926calBC-8705calBC (60.2%) 8670calBC-8656calBC (1.2%)
IAAA-100732	9,360 ± 40	31.17 ± 0.15	9,366 ± 39	8707calBC-9668calBC (24.4%) 8657calBC-8599calBC (36.5%) 8566calBC-8371calBC (7.4%)	8751calBC-8548calBC (95.4%)
IAAA-100733	9,590 ± 40	30.30 ± 0.15	9,584 ± 41	9137calBC-9110calBC (7.7%) 9088calBC-9040calBC (13.4%) 9031calBC-8974calBC (16.2%) 8929calBC-8837calBC (30.9%)	9177calBC-8796calBC (95.4%)
IAAA-100734	9,760 ± 40	29.67 ± 0.14	9,779 ± 39	9284calBC-9243calBC (68.2%)	9302calBC-9215calBC (95.4%)
IAAA-100735	9,370 ± 40	31.15 ± 0.16	9,368 ± 41	8709calBC-8666calBC (25.9%) 8659calBC-8599calBC (35.5%) 8586calBC-8571calBC (6.8%)	8755calBC-8547calBC (94.9%) 8501calBC-8496calBC (0.5%)
IAAA-100736	11,890 ± 50	22.75 ± 0.13	11,922 ± 46	11901calBC-11771calBC (68.2%)	11981calBC-11576calBC (95.4%)

(参考値)

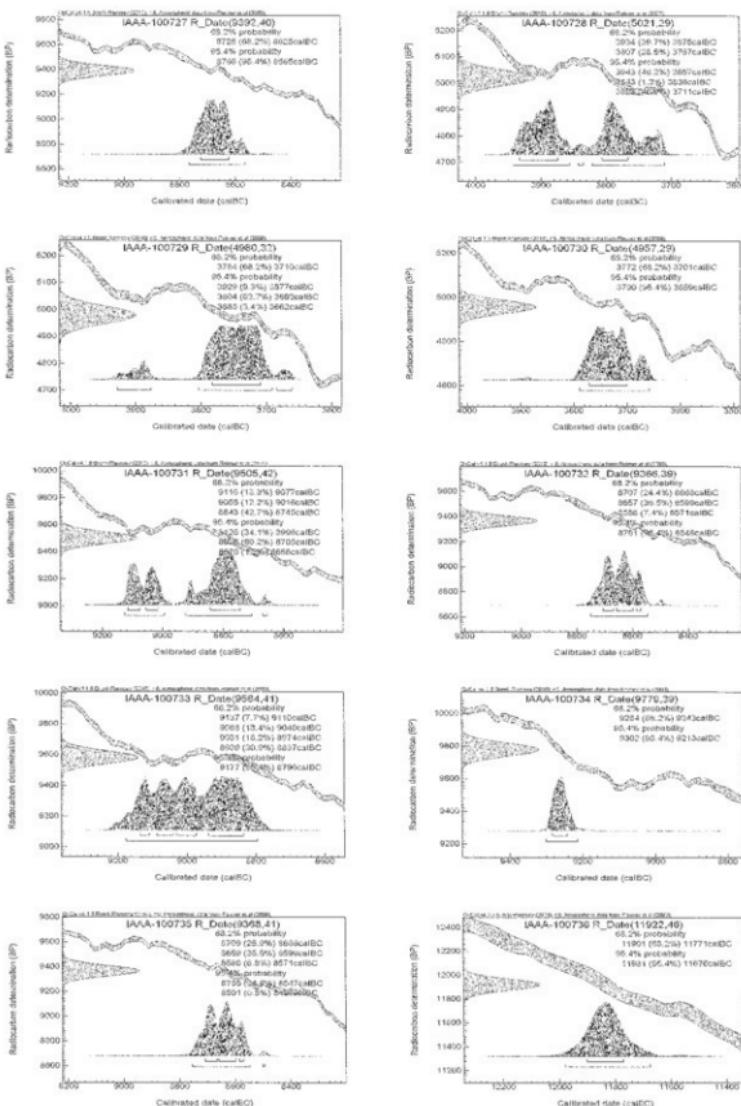
文献

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363
- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150

第78図 年代較正年代グラフ(1)



第79回 历年校正年代グラフ(2)



付編2 第二東名八分平E遺跡出土黒曜石 産地推定結果

沼津工業高等専門学校名誉教授 望月 明彦

1 分析法 エネルギー分散蛍光X線分析(EDX)

2 分析装置 セイコーアンスツルメンツ卓上型蛍光X線分析計 SEA-2110L

3 産地推定法

(1) 得られた蛍光X線スペクトル強度を元素記号で表す。

指標 $\text{Sum} = \text{Rb} + \text{Sr} + \text{Y} + \text{Zr}$ とする。

Rb分率 = Rb/Sum

Sr分率 = Sr/Sum

Zr分率 = Zr/Sum

$\text{Mn} * 100 / \text{Fe}$

$\log (\text{Fe}/\text{K})$

(2) 黒曜石産地から、産地原石を採集し測定する。

(3) 測定結果から上記の指標を算出する。

(4) 以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。

(5) 出土遺物について上記の二つの方法で産地推定を行う。

① 判別図法

用いる指標：横軸：Rb分率、縦軸： Mn/Fe

：横軸：Sr分率、縦軸： $\log (\text{Fe}/\text{K})$

推定方法：遺跡出土試料を蛍光X線分析し、指標を計算。

指標を図にプロットする。

重なった判別群を推定結果とする。

② 判別分析(推定結果表参照)

用いる指標：算出された指標全て

推定方法：判別図法では遺跡出土試料と重なっている判別群を推定結果とする。この判別群は試料と判別図上で2次元的に最も距離が近い。

判別分析ではこの距離を数学的にn次元で計算する。

試料と最も距離（マハラノビス距離）が近い判別群を推定結果とする。

この距離から、各判別群に属する確率を計算する。

第4表 出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表

研究室 年間調査	分析番号	遺物番号	推定产地	判別基 判別群	判別分析				
					第1候補産地			第2候補産地	
					判別群	距離	確率	判別群	距離
MK03-7450	TM141-2_-1	939	繩防星ヶ台群	SMHD	SMHD	17.34	1	WDTN	87.51 0
MK03-7451	TM141-2_-2	944	繩防星ヶ台群	SMHD	SMHD	4.94	1	SBiY	91.57 0
MK03-7452	TM141-2_-3	949	箱根烟宿群	HNU	HNU	22.51	1	HKI	195.15 0
MK03-7453	TM141-2_-4	978	箱根星ヶ台群	SMHD	SMHD	7.85	1	SBiY	48.66 0
MK03-7454	TM141-2_-5	981	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可
MK03-7455	TM141-2_-6	994	箱根烟宿群	HNU	HNU	7.83	1	HKI	86.35 0
MK03-7456	TM141-2_-7	996	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.9	1	HKI	148.89 0
MK03-7457	TM141-2_-8	998	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可
MK03-7458	TM141-2_-9	1018	箱根烟宿群	HNU	HNU	18.64	1	HKI	189.95 0
MK03-7459	TM141-2_-10	1019	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.7	1	HKI	134.52 0
MK03-7460	TM141-2_-11	1102	箱根烟宿群	HNU	HNU	23.62	1	HKI	45.89 0
MK03-7461	TM141-2_-12	1106	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可
MK03-7462	TM141-2_-13	1297	密被星ヶ台群	HNU	HNU	8.12	1	HKI	97.16 0
MK03-7463	TM141-2_-14	1298	密被烟宿群	HNU	HNU	7.5	1	HKI	143.39 0
MK03-7464	TM141-2_-15	1299	密被烟宿群	HNU	HNU	9.53	1	HKI	66.19 0
MK03-7465	TM141-2_-16	1300	密被烟宿群	HNU	HNU	5.67	1	HKI	71.46 0
MK03-7466	TM141-2_-17	1308	天城柏崎群	AGKT	AGKT	7.04	1	HKI	139.03 0
MK03-7467	TM141-2_-18	1324	箱根烟宿群	HNU	HNU	5.07	1	HKI	135.29 0
MK03-7468	TM141-2_-19	2512	密被星ヶ台群	SMHD	SMHD	7.75	1	SBiY	73.12 0
MK03-7469	TM141-2_-20	2536	密被星ヶ台群	SMHD	SMHD	5.07	1	SBiY	74.86 0
MK03-7470	TM141-2_-21	2561	天城柏崎群	AGKT	AGKT	2.33	1	HKI	129.71 0
MK03-7471	TM141-2_-22	2562	箱根烟宿群	HNU	HNU	14.65	1	HKI	193.36 0
MK03-7472	TM141-2_-23	2576	密被星ヶ台群	SMHD	SMHD	6.69	1	SBiY	56.33 0
MK03-7473	TM141-2_-24	2586	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.79	1	HKI	128.27 0
MK03-7474	TM141-2_-25	2599	天城柏崎群	AGKT	AGKT	4.32	1	HKI	137.23 0
MK03-7475	TM141-2_-26	2604	鶴ヶ冷山群	TSTY	TSTY	8.85	1	TSIG	31.37 0
MK03-7476	TM141-2_-27	2636	密被烟宿群	HNU	HNU	17.51	1	HKI	185.35 0
MK03-7477	TM141-2_-28	2645	密被星ヶ台群	SMHD	SMHD	1.97	1	WDTN	96.31 0
MK03-7478	TM141-2_-29	2647	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.49	1	HKI	110.33 0
MK03-7479	TM141-2_-30	2649	密被烟宿群	HNU	HNU	25.34	1	HKI	209.72 0
MK03-7480	TM141-2_-31	2650	天城柏崎群	AGKT	AGKT	1.41	1	HKI	89.95 0
MK03-7481	TM141-2_-32	2663	和田美濃ワード群	WDTY	WDTY	7.13 0.9968	1	WDTY	22.94 0.0012
MK03-7482	TM141-2_-33	2669	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.7	1	HKI	85.28 0
MK03-7483	TM141-2_-34	2695	密被烟宿群	HNU	HNU	1.94	1	HKI	99.28 0
MK03-7484	TM141-2_-35	2727	密被烟宿群	HNU	HNU	15.38	1	HKI	50.17 0
MK03-7485	TM141-2_-36	2732	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.93	1	HKI	78.75 0
MK03-7486	TM141-2_-37	2734	神津島恩島島群	KZOB	KZOB	10.43	1	KZSN	53.81 0
MK03-7487	TM141-2_-38	2735	夢ヶ冷山群	TSTY	TSTY	11.14	1	TUTI	27.54 0
MK03-7488	TM141-2_-39	2740	天城柏崎群	AGKT	AGKT	1.03	1	HKI	123.16 0
MK03-7489	TM141-2_-40	2767	天城柏崎群	AGKT	AGKT	5.95	1	HKI	131 0
MK03-7490	TM141-2_-41	2770	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.09	1	HKI	105.11 0
MK03-7491	TM141-2_-42	2822	箱根烟宿群	HNU	HNU	15.64	1	HKI	197.56 0
MK03-7492	TM141-2_-43	2849	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.35	1	HKI	132.45 0
MK03-7493	TM141-2_-44	3070	天城柏崎群	AGKT	AGKT	5.62	1	HKI	145.8 0
MK03-7494	TM141-2_-45	3353	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MK03-7495	TM141-2_-46	3481	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.41	1	HKI	89.53 0
MK03-7496	TM141-2_-47	3482	天城柏崎群	AGKT	AGKT	3.04	1	HKI	142.21 0
MK03-7497	TM141-2_-48	3521	密被烟宿群	HNU	HNU	2.44	1	HKI	83.65 0
MK03-7498	TM141-2_-49	3582	密被星ヶ台群	SMHD	SMHD	2.24	1	SBiY	89.21 0

MK03-7499	TM141-2_-50	3659	箱根烟宿群	HNU	HNU	14. 9	1	HNKI	139. 18	0
MK03-7500	TM141-2_-51	3670	箱根烟宿群	HNU	HNU	23. 38	1	HNKI	225. 76	0
MK03-7501	TM141-2_-52	3785	箱根烟宿群	HNU	HNU	16. 63	1	HNKI	171. 63	0
MK03-7502	TM141-2_-53	3788	箱根烟宿群	HNU	HNU	3. 6	1	HNKI	80. 93	0
MK03-7503	TM141-2_-54	3793	天城柏叶群	AGKT	AGKT	4. 64	1	HNKT	133. 47	0
MK03-7504	TM141-2_-55	3796	天城柏叶群	AGKT	AGKT	4. 44	1	HNKT	153. 43	0
MK03-7505	TM141-2_-56	3797	箱根烟宿群	HNU	HNU	2. 57	1	HNKI	64. 9	0
MK03-7506	TM141-2_-57	3798	箱根烟宿群	HNU	HNU	8. 64	1	HNKI	70. 27	0
MK03-7507	TM141-2_-58	3799	天城柏叶群	AGKT	AGKT	1. 58	1	HNKT	125. 56	0
MK03-7508	TM141-2_-59	3803	國芳屋々台群	SMD	SMD	7. 33	1	SB1Y	106. 11	0
MK03-7509	TM141-2_-60	3804	國芳屋々台群	SMD	SMD	3. 38	1	WOTN	81. 82	0
MK03-7510	TM141-2_-61	3805	箱根烟宿群	HNU	HNU	11. 74	1	HNKI	60. 45	0
MK03-7511	TM141-2_-62	3807	源防屋々台群	SMD	SMD	6. 12	1	WOTN	83. 87	0
MK03-7512	TM141-2_-63	3808	國芳屋々台群	SMD	SMD	5. 29	1	WOTN	89. 83	0
MK03-7513	TM141-2_-64	3816	和田土屋脈北群	WOTK	WOTK	2. 45	1	WOTN	35. 75	0
MK03-7514	TM141-2_-65	3817	天城柏叶群	AGKT	AGKT	5. 3	1	HNKT	104. 9	0
MK03-7515	TM141-2_-66	3818	箱根烟宿群	HNU	HNU	23. 28	1	HNKI	229. 16	0
MK03-7516	TM141-2_-67	3819	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可		推定不可		
MK03-7517	TM141-2_-68	3820	箱根烟宿群	HNU	HNU	4. 56	1	HNKI	145. 05	0
MK03-7518	TM141-2_-69	3828	箱根烟宿群	HNU	HNU	7. 51	1	HNKI	66. 64	0
MK03-7519	TM141-2_-70	3844	御銀煙宿群	HNU	HNU	17. 45	1	HNKI	195. 9	0
MK03-7520	TM141-2_-71	3852	箱根烟宿群	HNU	HNU	8. 07	1	HNKI	154. 14	0
MK03-7521	TM141-2_-72	3914	箱根烟宿群	HNU	HNU	15. 49	1	HNKI	96. 67	0
MK03-7522	TM141-2_-73	3924	箱根烟宿群	HNU	HNU	6. 45	1	HNKI	148. 78	0
MK03-7523	TM141-2_-74	3927	御銀星々台群	SMD	SMD	4. 15	1	SB1Y	91. 31	0
MK03-7524	TM141-2_-75	3928	箱根烟宿群	HNU	HNU	5. 11	1	HNKI	123. 35	0
MK03-7525	TM141-2_-76	3932	箱根烟宿群	HNU	HNU	6. 73	1	HNKI	154. 54	0
MK03-7526	TM141-2_-77	3938	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可		推定不可		
MK03-7527	TM141-2_-78	3940	箱根烟宿群	HNU	HNU	2. 82	1	HNKI	105. 18	0
MK03-7528	TM141-2_-79	3941	箱根烟宿群	HNU	HNU	10. 46	1	HNKI	159. 07	0
MK03-7529	TM141-2_-80	3942	箱根烟宿群	HNU	HNU	16. 97	1	HNKI	202. 09	0
MK03-7530	TM141-2_-81	3945	箱根烟宿群	HNU	HNU	11. 06	1	HNKI	157. 04	0
MK03-7531	TM141-2_-82	3946	箱根烟宿群	HNU	HNU	8. 08	1	HNKI	123. 36	0
MK03-7532	TM141-2_-83	3948	箱根烟宿群	HNU	HNU	13. 3	1	HNKI	147. 42	0
MK03-7533	TM141-2_-84	3952	箱根烟宿群	HNU	HNU	6. 71	1	HNKI	80. 65	0
MK03-7534	TM141-2_-85	3953	源防屋々台群	SMD	SMD	8. 25	1	SB1Y	65. 69	0
MK03-7535	TM141-2_-86	3954	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可		推定不可		
MK03-7536	TM141-2_-87	3959	箱根烟宿群	HNU	HNU	9. 12	1	HNKI	93. 47	0
MK03-7537	TM141-2_-88	3961	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可		推定不可		
MK03-7538	TM141-2_-89	3972	御銀烟宿群	HNU	HNU	7. 57	1	HNKI	157. 08	0
MK03-7539	TM141-2_-90	3974	天城柏叶群	AGKT	AGKT	1. 79	1	HNKT	103. 40	0
MK03-7540	TM141-2_-91	3975	箱根烟宿群	HNU	HNU	9. 45	1	HNKI	105. 56	0
MK03-7541	TM141-2_-92	3976	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可		推定不可		
MK03-7542	TM141-2_-93	4133	箱根烟宿群	HNU	HNU	5. 06	1	HNKI	144. 84	0
MK03-7543	TM141-2_-94	4146	箱根烟宿群	HNU	HNU	4. 95	1	HNKI	77. 16	0
MK03-7544	TM141-2_-95	4150	箱根烟宿群	HNU	HNU	2. 94	1	HNKI	97. 15	0
MK03-7545	TM141-2_-96	4151	天城柏叶群	AGKT	AGKT	23. 47	1	HNKT	113. 56	0
MK03-7546	TM141-2_-97	4154	天城柏叶群	AGKT	AGKT	3. 1	1	HNKT	138. 1	0
MK03-7547	TM141-2_-98	4155	天城柏叶群	AGKT	AGKT	7. 14	1	HNKT	103. 03	0
MK03-7548	TM141-2_-99	4187	箱根烟宿群	HNU	HNU	12. 71	1	HNKI	73. 62	0
MK03-7549	TM141-2_-100	4488	天城柏叶群	AGKT	AGKT	4. 55	1	HNKT	104. 59	0
MK03-7550	TM141-2_-101	4874	源防屋々台群	SMD	SMD	10. 56	1	SB1Y	71. 01	0
MK03-7551	TM141-2_-102	5099	箱根烟宿群	HNU	HNU	3. 82	1	HNKI	141. 62	0

MK03-7552	TM141-2_-103	6464	箱根烟窗群	HNU	HNU	8.56	1	HNKI	148.23	0
MK03-7553	TM141-2_-104	6465	箱根烟窗群	HNU	HNU	6.3	1	HNKI	93.47	0
MK03-7554	TM141-2_-105	6466	天城泊畔群	AGKT	AGKT	0.92	1	HNKI	125.29	0
MK03-7555	TM141-2_-106	6468	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7556	TM141-2_-107	6582	箱根烟窗群	HNU	HNU	7.94	1	HNKI	100.88	0
MK03-7557	TM141-2_-108	6598	箱根烟窗群	HNU	HNU	12.71	1	HNKI	164.47	0
MK03-7558	TM141-2_-109	6547	箱根烟窗群	HNU	HNU	3.99	1	HNKI	144.16	0
MK03-7559	TM141-2_-110	6649	箱根烟窗群	HNU	HNU	12.65	1	HNKI	187.39	0
MK03-7560	TM141-2_-111	6556	箱根烟窗群	HNU	HNU	4.66	1	HNKI	71.84	0
MK03-7561	TM141-2_-112	6577	天城泊畔群	AGKT	AGKT	4.17	1	HNKI	149.33	0
MK03-7562	TM141-2_-113	6586	箱根烟窗群	HNU	HNU	2.18	1	HNKI	92.09	0
MK03-7563	TM141-2_-114	6588	箱根烟窗群	HNU	HNU	9.95	1	HNKI	127.42	0
MK03-7564	TM141-2_-115	6690	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7565	TM141-2_-116	6594	箱根烟窗群	HNU	HNU	5.72	1	HNKI	75.73	0
MK03-7566	TM141-2_-117	6609	箱根烟窗群	HNU	HNU	3.5	1	HNKI	91.84	0
MK03-7567	TM141-2_-118	6703	天城泊畔群	AGKT	AGKT	2.68	1	HNKI	140.57	0
MK03-7568	TM141-2_-119	5704	箱根烟窗群	HNU	HNU	14.91	1	HNKI	181.59	0
MK03-7569	TM141-2_-120	5705	箱根烟窗群	HNU	HNU	3.55	1	HNKI	77.57	0
MK03-7570	TM141-2_-121	5706	箱根烟窗群	HNU	HNU	1.16	1	HNKI	103.49	0
MK03-7571	TM141-2_-122	5708	箱根烟窗群	HNU	HNU	28.96	1	HNKI	237.87	0
MK03-7572	TM141-2_-123	6730	箱根烟窗群	HNU	HNU	9.86	1	HNKI	151.03	0
MK03-7573	TM141-2_-124	7173	箱根烟窗群	HNU	HNU	5.39	1	HNKI	148.65	0
MK03-7574	TM141-2_-125	7174	箱根烟窗群	HNU	HNU	3.25	1	HNKI	94.36	0
MK03-7575	TM141-2_-126	7175	箱根烟窗群	HNU	HNU	6.13	1	HNKI	97.46	0
MK03-7576	TM141-2_-127	7178	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.49	1	TSIG	21.95	0
MK03-7577	TM141-2_-128	7180	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	6.9	0.9999	TUTI	20.79	0.0001
MK03-7578	TM141-2_-129	7184	箱根烟窗群	HNU	HNU	2.88	1	HNKI	108.45	0
MK03-7579	TM141-2_-130	7185	箱根烟窗群	HNU	HNU	0.46	1	HNKI	109.11	0
MK03-7580	TM141-2_-131	7205	箱根烟窗群	HNU	HNU	5.76	1	HNKI	81.02	0
MK03-7581	TM141-2_-132	7206	天城泊畔群	AGKT	AGKT	0.98	1	HNKI	128.69	0
MK03-7582	TM141-2_-133	7209	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.02	1	TUTI	26.96	0
MK03-7583	TM141-2_-134	7210	箱根烟窗群	HNU	HNU	14.87	1	HNKI	65.75	0
MK03-7584	TM141-2_-135	7212	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	0.69	1	TSIG	17.92	0
MK03-7585	TM141-2_-136	7213	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.34	1	TSIG	26.27	0
MK03-7586	TM141-2_-137	7214	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK03-7587	TM141-2_-138	7215	箱根烟窗群	HNU	HNU	7.12	1	HNKI	139.98	0
MK03-7588	TM141-2_-139	7216	箱根烟窗群	HNU	HNU	1.62	1	HNKI	94.36	0
MK03-7589	TM141-2_-140	7217	箱根烟窗群	HNU	HNU	5.79	1	HNKI	128.19	0
MK03-7590	TM141-2_-141	7218	箱根烟窗群	HNU	HNU	0.76	1	HNKI	105.81	0
MK03-7591	TM141-2_-142	7219	箱根烟窗群	HNU	HNU	6.87	1	HNKI	101.95	0
MK03-7592	TM141-2_-143	7220	雅根烟窗群	HNU	HNU	0.55	1	HNKI	109.61	0
MK03-7593	TM141-2_-144	7223	和田瀬山群	WTYY	WTYY	1.63	1	WTYY	32.54	0
MK03-7594	TM141-2_-145	7300	箱根烟窗群	HNU	HNU	6.34	1	HNKI	73.05	0
MK03-7595	TM141-2_-146	7301	箱根烟窗群	HNU	HNU	3.6	1	HNKI	99.7	0
MK03-7596	TM141-2_-147	7303	箱根烟窗群	HNU	HNU	1.51	1	HNKI	110.18	0
MK03-7597	TM141-2_-148	7304	箱根烟窗群	HNU	HNU	0.98	1	HNKI	92.82	0
MK03-7598	TM141-2_-149	7307	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.37	0.9998	TSIG	15.15	0.0002
MK03-7599	TM141-2_-150	7316	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	22.47	1	KZSM	82.03	0
MK03-7600	TM141-2_-151	7325	測訪巣ヶ台群	SMD	SMD	2.95	1	SBIY	96.01	0
MK03-7601	TM141-2_-152	7326	箱根烟窗群	HNU	HNU	17.75	1	HNKI	191.06	0
MK03-7602	TM141-2_-153	7329	箱根烟窗群	HNU	HNU	9.29	1	HNKI	123.97	0
MK03-7603	TM141-2_-154	7330	箱根烟窗群	HNU	HNU	1.73	1	HNKI	92.41	0
MK03-7604	TM141-2_-155	7331	箱根烟窗群	HNU	HNU	11.64	1	HNKI	71.24	0

MK03-7605	TM141-2_-156	7332	天城柏崎群	AGKT	AGKT	3.16	1	HNKT	I47.1	0
MK03-7606	TM141-2_-157	7333	神津島巻胞鳥群	KZOB	KZOB	5.45	1	KZSN	40.11	0
MK03-7607	TM141-2_-158	7334	天城柏崎群	AGKT	AGKT	19.08	1	HNKT	I38.24	0
MK03-7608	TM141-2_-159	7336	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.14	1	HNKI	74.55	0
MK03-7609	TM141-2_-160	7480	箱根烟宿群	HNU	HNU	7.66	1	HNKI	I32.75	0
MK03-7610	TM141-2_-161	7483	箱根烟宿群	HNU	HNU	16.65	1	HNKI	185.41	0
MK03-7611	TM141-2_-162	7575	箱根烟宿群	HNU	HNU	12.91	1	HNKI	56.79	0
MK03-7612	TM141-2_-163	7576	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.91	1	HNKI	I28.47	0
MK03-7613	TM141-2_-164	7578	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.77	1	HNKI	70.59	0
MK03-7614	TM141-2_-165	7585	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.54	1	HNKI	I53.25	0
MK03-7615	TM141-2_-166	7588	箱根烟宿群	HNU	HNU	8.76	1	HNKI	I43.04	0
MK03-7616	TM141-2_-167	7589	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.82	1	HNKI	I51.14	0
MK03-7617	TM141-2_-168	7590	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.3	1	HNKI	I34.07	0
MK03-7618	TM141-2_-169	7593	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.38	1	HNKI	125	0
MK03-7619	TM141-2_-170	7594	箱根烟宿群	HNU	HNU	8.64	1	HNKI	I61.73	0
MK03-7620	TM141-2_-171	7595	箱根烟宿群	HNU	HNU	7.9	1	HNKI	I37.93	0
MK03-7621	TM141-2_-172	7622	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.91	1	HNKI	82.8	0
MK03-7622	TM141-2_-173	7873	箱根烟宿群	HNU	HNU	11.59	1	HNKI	I81.43	0
MK03-7623	TM141-2_-174	7880	天城柏崎群	AGKT	AGKT	2.64	1	HNKT	I31.05	0
MK03-7624	TM141-2_-175	2958	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.81	1	HNKI	97.29	0
MK03-7625	TM141-2_-176	2959	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.59	1	HNKI	I30.59	0
MK03-7626	TM141-2_-177	2960	箱根烟宿群	HNU	HNU	14.71	1	HNKI	I45.75	0
MK03-7627	TM141-2_-178	2961	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.25	1	HNKI	I01.08	0
MK03-7628	TM141-2_-179	2962	箱根烟宿群	HNU	HNU	19.07	1	HNKI	60.01	0
MK03-7629	TM141-2_-180	2963	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7630	TM141-2_-181	2967	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7631	TM141-2_-182	2968	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.63	1	HNKI	95.99	0
MK03-7632	TM141-2_-183	2969	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7633	TM141-2_-184	2970	箱根烟宿群	HNU	HNU	13.39	1	HNKI	I55.33	0
MK03-7634	TM141-2_-185	2971	箱根烟宿群	HNU	HNU	14.02	1	HNKI	I71.67	0
MK03-7635	TM141-2_-186	2972	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.51	1	HNKI	I37.62	0
MK03-7636	TM141-2_-187	2973	箱根烟宿群	HNU	HNU	11.02	1	HNKI	166.4	0
MK03-7637	TM141-2_-188	2974	箱根烟宿群	HNU	HNU	5.27	1	HNKI	I45.45	0
MK03-7638	TM141-2_-189	2975	箱根烟宿群	HNU	HNU	18.67	1	HNKI	66.22	0
MK03-7639	TM141-2_-190	2976	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.19	1	HNKI	95.56	0
MK03-7640	TM141-2_-191	2977	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.34	1	HNKI	I25.22	0
MK03-7641	TM141-2_-192	2979	箱根烟宿群	HNU	HNU	10.13	1	HNKI	160.05	0
MK03-7642	TM141-2_-193	2980	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.85	1	HNKI	I26.2	0
MK03-7643	TM141-2_-194	2981	箱根烟宿群	HNU	HNU	0.74	1	HNKI	I10.42	0
MK03-7644	TM141-2_-195	2982	箱根烟宿群	HNU	HNU	10.96	1	HNKI	I69.55	0
MK03-7645	TM141-2_-196	2983	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.45	1	HNKI	I35.62	0
MK03-7646	TM141-2_-197	2984	箱根烟宿群	HNU	HNU	15.94	1	HNKI	71.62	0
MK03-7647	TM141-2_-198	2985	箱根烟宿群	HNU	HNU	29.46	1	HNKI	I232.31	0
MK03-7648	TM141-2_-199	2986	箱根烟宿群	HNU	HNU	15.77	1	HNKI	I79.32	0
MK03-7649	TM141-2_-200	2987	箱根烟宿群	HNU	HNU	17	1	HNKI	I97.22	0
MK03-7650	TM141-2_-201	2988	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7651	TM141-2_-202	2989	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.83	1	HNKI	68.54	0
MK03-7652	TM141-2_-203	2992	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.49	1	HNKI	91.95	0
MK03-7653	TM141-2_-204	2993	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.7	1	HNKI	76.28	0
MK03-7654	TM141-2_-205	2994	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.17	1	HNKI	I77.87	0
MK03-7655	TM141-2_-206	2995	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7656	TM141-2_-207	2996	箱根烟宿群	HNU	HNU	16.49	1	HNKI	194.52	0
MK03-7657	TM141-2_-208	2997	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.92	1	HNKI	I35.48	0

MK03-7658	TW141-2,-209	2998	箱根烟宿群	HNU	HNU	12.63	1	HNKI	187.34	0
MK03-7659	TW141-2,-210	2999	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.97	1	HNKI	78.23	0
MK03-7660	TW141-2,-211	3002	箱根烟宿群	HNU	HNU	0.47	1	HNKI	112.76	0
MK03-7661	TW141-2,-212	3003	箱根烟宿群	HNU	HNU	23.49	1	HNKI	63.87	0
MK03-7662	TW141-2,-213	3004	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.95	1	HNKI	130.72	0
MK03-7663	TW141-2,-214	3005	箱根烟宿群	HNU	HNU	0.94	1	HNKI	99.79	0
MK03-7664	TW141-2,-215	3006	箱根烟宿群	HNU	HNU	17.23	1	HNKI	203.45	0
MK03-7665	TW141-2,-216	3007	箱根烟宿群	HNU	HNU	7.63	1	HNKI	105.1	0
MK03-7666	TW141-2,-217	3009	箱根烟宿群	HNU	HNU	20.43	1	HNKI	211.07	0
MK03-7667	TW141-2,-218	3010	箱根烟宿群	HNU	HNU	5.48	1	HNKI	113.06	0
MK03-7668	TW141-2,-219	3011	箱根烟宿群	HNU	HNU	7.75	1	HNKI	142.07	0
MK03-7669	TW141-2,-220	3012	推定不可			推定不可		推定不可		
MK03-7670	TW141-2,-221	3013	箱根烟宿群	HNU	HNU	7.74	1	HNKI	90.42	0
MK03-7671	TW141-2,-222	3014	箱根烟宿群	HNU	HNU	5.93	1	HNKI	63.35	0
MK03-7672	TW141-2,-223	3015	测定不可			测定不可		测定不可		
MK03-7673	TW141-2,-224	3016	箱根烟宿群	HNU	HNU	6	1	HNKI	153.72	0
MK03-7674	TW141-2,-225	3019	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.92	1	HNKI	113.39	0
MK03-7675	TW141-2,-226	3021	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.62	1	HNKI	109.55	0
MK03-7676	TW141-2,-227	3023	箱根烟宿群	HNU	HNU	16.7	1	HNKI	194.96	0
MK03-7677	TW141-2,-228	3026	箱根烟宿群	HNU	HNU	20.52	1	HNKI	41.82	0
MK03-7678	TW141-2,-229	3336	测定不可			测定不可		测定不可		
MK03-7679	TW141-2,-230	3339	箱根烟宿群	HNU	HNU	15.44	1	HNKI	187.19	0
MK03-7680	TW141-2,-231	3340	箱根烟宿群	HNU	HNU	0.64	1	HNKI	110.59	0
MK03-7681	TW141-2,-232	3341	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.53	1	HNKI	136.59	0
MK03-7682	TW141-2,-233	3342	箱根烟宿群	HNU	HNU	13.35	1	HNKI	63.16	0
MK03-7683	TW141-2,-234	3343	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.11	1	HNKI	124.82	0
MK03-7684	TW141-2,-235	3344	天城拍特群	AGKT	AGKT	2.28	1	HNKT	131.85	0
MK03-7685	TW141-2,-236	3345	箱根烟宿群	HNU	HNU	8.93	1	HNKI	145.52	0
MK03-7686	TW141-2,-237	3595	箱根烟宿群	HNU	HNU	13.28	1	HNKI	50.97	0
MK03-7687	TW141-2,-238	3654	鹿島星ヶ台群	SMBD	SMBD	5.18	1	SBYI	75.62	0
MK03-7688	TW141-2,-239	3764	箱根烟宿群	HNU	HNU	7.67	1	HNKI	152.81	0
MK03-7689	TW141-2,-240	3765	箱根烟宿群	HNU	HNU	12.01	1	HNKI	175.73	0
MK03-7690	TW141-2,-241	3767	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.09	1	HNKI	86.6	0
MK03-7691	TW141-2,-242	3768	箱根烟宿群	HNU	HNU	0.87	1	HNKI	96.17	0
MK03-7692	TW141-2,-243	3769	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.19	1	HNKI	153.68	0
MK03-7693	TW141-2,-244	3773	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.46	1	HNKI	135.26	0
MK03-7694	TW141-2,-245	3774	箱根烟宿群	HNU	HNU	13.57	1	HNKI	175.19	0
MK03-7695	TW141-2,-246	3775	箱根烟宿群	HNU	HNU	12.5	1	HNKI	58.49	0
MK03-7696	TW141-2,-247	3776	箱根烟宿群	HNU	HNU	0.56	1	HNKI	108.43	0
MK03-7697	TW141-2,-248	3777	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.56	1	HNKI	134.07	0
MK03-7698	TW141-2,-249	4166	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.24	1	HNKI	73.01	0
MK03-7699	TW141-2,-250	4167	箱根烟宿群	HNU	HNU	20.2	1	HNKI	50.07	0
MK03-7700	TW141-2,-251	4168	箱根烟宿群	HNU	HNU	9.25	1	HNKI	55.69	0
MK03-7701	TW141-2,-252	4169	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.92	1	HNKI	77.12	0
MK03-7702	TW141-2,-253	4170	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.05	1	HNKI	66.22	0
MK03-7703	TW141-2,-254	4171	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.34	1	HNKI	75.08	0
MK03-7704	TW141-2,-255	4172	箱根烟宿群	HNU	HNU	7.09	1	HNKI	64.79	0
MK03-7705	TW141-2,-256	4173	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.98	1	HNKI	109.36	0
MK03-7706	TW141-2,-257	4174	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.78	1	HNKI	93.92	0
MK03-7707	TW141-2,-258	4175	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.7	1	HNKI	131.57	0
MK03-7708	TW141-2,-259	4176	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.52	1	HNKI	89.66	0
MK03-7709	TW141-2,-260	4177	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.63	1	HNKI	161.72	0
MK03-7710	TW141-2,-261	4213	箱根烟宿群	HNU	HNU	13.28	1	HNKI	175.22	0

MK03-7711	TM141-2_-262	4214	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.82	1	HNKI	134.73	0
MK03-7712	TM141-2_-263	4215	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.55	1	HNKI	80.06	0
MK03-7713	TM141-2_-264	4216	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.12	1	HNKI	100.36	0
MK03-7714	TM141-2_-265	4217	箱根烟宿群	HNU	HNU	5.9	1	HNKI	90.82	0
MK03-7715	TM141-2_-266	4219	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.81	1	HNKI	116.06	0
MK03-7716	TM141-2_-267	4224	箱根烟宿群	HNU	HNU	8.05	1	HNKI	140.05	0
MK03-7717	TM141-2_-268	4225	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.39	1	HNKI	124.64	0
MK03-7718	TM141-2_-269	4226	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7719	TM141-2_-270	4229	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.02	1	HNKI	157.7	0
MK03-7720	TM141-2_-271	4252	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.23	1	HNKI	108.8	0
MK03-7721	TM141-2_-272	4245	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.03	1	HNKI	112.58	0
MK03-7722	TM141-2_-273	4346	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.91	1	HNKI	119.6	0
MK03-7723	TM141-2_-274	4347	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.87	1	HNKI	134.06	0
MK03-7724	TM141-2_-275	4348	箱根烟宿群	HNU	HNU	8.58	1	HNKI	146.58	0
MK03-7725	TM141-2_-276	4349	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.1	1	HNKI	84.09	0
MK03-7726	TM141-2_-277	4350	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.36	1	HNKI	86.48	0
MK03-7727	TM141-2_-278	4351	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.98	1	HNKI	112.56	0
MK03-7728	TM141-2_-279	4334	箱根烟宿群	HNU	HNU	5.11	1	HNKI	101.15	0
MK03-7729	TM141-2_-280	6657	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.54	1	HNKI	103.02	0
MK03-7730	TM141-2_-281	6658	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.72	1	HNKI	87.83	0
MK03-7731	TM141-2_-282	6659	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.03	1	HNKI	74.53	0
MK03-7732	TM141-2_-283	6660	神津島思牠鳥群	KZOB		11.63	1	KZSN	50.18	0
MK03-7733	TM141-2_-284	6661	箱根烟宿群	HNU	HNU	25.9	1	HNKI	202.53	0
MK03-7734	TM141-2_-285	6662	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.04	1	HNKI	99.62	0
MK03-7735	TM141-2_-286	6663	箱根烟宿群	HNU	HNU	23.65	1	HNKI	224.68	0
MK03-7736	TM141-2_-287	6664	箱根烟宿群	HNU	HNU	5.61	1	HNKI	123.43	0
MK03-7737	TM141-2_-288	6666	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.79	1	HNKI	73.65	0
MK03-7738	TM141-2_-289	5667	和田山群	WDTY		5.22	1	WDRY	34.73	0
MK03-7739	TM141-2_-290	6668	箱根烟宿群	HNU	HNU	15.92	1	HNKI	56.50	0
MK03-7740	TM141-2_-291	6669	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.72	1	HNKI	92.67	0
MK03-7741	TM141-2_-292	5670	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.31	1	HNKI	82.54	0
MK03-7742	TM141-2_-293	6671	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.28	1	HNKI	77.92	0
MK03-7743	TM141-2_-294	5672	箱根烟宿群	HNU	HNU	16.62	1	HNKI	163.51	0
MK03-7744	TM141-2_-295	5673	箱根烟宿群	HNU	HNU	5.22	1	HNKI	74.42	0
MK03-7745	TM141-2_-296	6674	箱根烟宿群	HNU	HNU	5.53	1	HNKI	102.21	0
MK03-7746	TM141-2_-297	5675	箱根烟宿群	HNU	HNU	10.85	1	HNKI	60.17	0
MK03-7747	TM141-2_-298	7337	箱根烟宿群	HNU	HNU	10.43	1	HNKI	56.43	0
MK03-7748	TM141-2_-299	7338	箱根烟宿群	HNU	HNU	7.82	1	HNKI	83.08	0
MK03-7749	TM141-2_-300	7339	箱根烟宿群	HNU	HNU	6	1	HNKI	105.41	0
MK03-7750	TM141-2_-301	7340	箱根烟宿群	HNU	HNU	22.28	1	HNKI	193.6	0
MK03-7751	TM141-2_-302	7341	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.7	1	HNKI	123.65	0
MK03-7752	TM141-2_-303	7566	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.54	1	HNKI	120.9	0
MK03-7753	TM141-2_-304	7569	箱根烟宿群	HNU	HNU	21.54	1	HNKI	217.29	0
MK03-7754	TM141-2_-305	7570	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.87	1	HNKI	80.64	0
MK03-7755	TM141-2_-306	7573	箱根烟宿群	HNU	HNU	21.3	1	HNKI	208.47	0
MK03-7756	TM141-2_-307	7574	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.69	1	HNKI	102.74	0
MK03-7757	TM141-2_-308	7592	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.99	1	HNKI	95.35	0
MK03-7758	TM141-2_-309	3867	箱根烟宿群	HNU	HNU	26.49	1	HNKI	226.86	0
MK03-7759	TM141-2_-310	3859	天城泊候群	AGKT		2.71	1	HNKT	140.53	0
MK03-7760	TM141-2_-311	3861	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.94	1	HNKI	151.65	0
MK03-7761	TM141-2_-312	3862	天城泊候群	AGKT		1.9	1	HNKT	99.81	0
MK03-7762	TM141-2_-313	3864	天城泊候群	AGKT		2.34	1	HNKT	121.06	0
MK03-7763	TM141-2_-314	3866	天城泊候群	AGKT		8.63	1	HNKT	120.46	0

MK03-7764	TMI41-2_-315	3870	天城柏崎群	AGKT	AGKT	6.34	I	HNKI	101.94	0
MK03-7765	TMI41-2_-316	3871	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	3.72	I	HNKI	89.59	0
MK03-7766	TMI41-2_-317	3873	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	18.58	I	HNKI	68.27	0
MK03-7767	TMI41-2_-318	3876	御訪里ヶ台群	SIMD	SIMD	0.42	I	SBIY	82.57	0
MK03-7768	TMI41-2_-319	3879	天城柏崎群	AGKT	AGKT	4.7	I	HNKI	133.68	0
MK03-7769	TMI41-2_-320	3880	天城柏崎群	AGKT	AGKT	10.17	I	HNKI	111.47	0
MK03-7770	TMI41-2_-321	3886	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	3.09	I	HNKI	97.04	0
MK03-7771	TMI41-2_-322	3888	天城柏崎群	AGKT	AGKT	2.23	I	HNKI	105.75	0
MK03-7772	TMI41-2_-323	3889	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	9.18	I	HNKI	172.7	0
MK03-7773	TMI41-2_-324	3894	天城柏崎群	AGKT	AGKT	4.21	I	HNKI	154.49	0
MK03-7774	TMI41-2_-325	3895	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	5.9	I	HNKI	137.02	0
MK03-7775	TMI41-2_-326	3896	天城柏崎群	AGKT	AGKT	9.5	I	HNKI	121.31	0
MK03-7776	TMI41-2_-327	3906	天城柏崎群	AGKT	AGKT	2.8	I	HNKI	113.15	0
MK03-7777	TMI41-2_-328	3912	天城柏崎群	AGKT	AGKT	4.93	I	THAY	123.92	0
MK03-7778	TMI41-2_-329	3915	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7779	TMI41-2_-330	3917	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	4.46	I	HNKI	80.12	0
MK03-7780	TMI41-2_-331	3922	天城柏崎群	AGKT	AGKT	4.28	I	HNKT	124.32	0
MK03-7781	TMI41-2_-332	4157	天城柏崎群	AGKT	AGKT	4.04	I	HNKT	141.74	0
MK03-7782	TMI41-2_-333	4158	天城柏崎群	AGKT	AGKT	1.01	I	HNKT	115.07	0
MK03-7783	TMI41-2_-334	4231	天城柏崎群	AGKT	AGKT	8.75	I	HNKT	85.13	0
MK03-7784	TMI41-2_-335	4232	天城柏崎群	AGKT	AGKT	13.58	I	HNKT	84.83	0
MK03-7785	TMI41-2_-336	4270	天城柏崎群	AGKT	AGKT	4.58	I	HNKT	153.62	0
MK03-7786	TMI41-2_-337	4271	天城柏崎群	AGKT	AGKT	5.11	I	HNKT	113.18	0
MK03-7787	TMI41-2_-338	4310	天城柏崎群	AGKT	AGKT	12.57	I	HNKT	124.93	0
MK03-7788	TMI41-2_-339	4352	天城柏崎群	AGKT	AGKT	7.33	I	HNKT	111.33	0
MK03-7789	TMI41-2_-340	4353	天城柏崎群	AGKT	AGKT	5.77	I	HNKT	107.86	0
MK03-7790	TMI41-2_-341	4356	天城柏崎群	AGKT	AGKT	3.15	I	HNKT	142.83	0
MK03-7791	TMI41-2_-342	4363	天城柏崎群	AGKT	AGKT	2.82	I	HNKT	135.41	0
MK03-7792	TMI41-2_-343	3978	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	0.56	I	HNKI	101.74	0
MK03-7793	TMI41-2_-344	3980	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	13.02	I	HNKI	168.76	0
MK03-7794	TMI41-2_-345	3981	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7795	TMI41-2_-346	3983	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	2.98	I	HNKI	121.02	0
MK03-7796	TMI41-2_-347	3984	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	3.04	I	HNKI	99.3	0
MK03-7797	TMI41-2_-348	3985	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	14.96	I	HNKI	196.02	0
MK03-7798	TMI41-2_-349	3986	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	26.43	I	HNKI	226.23	0
MK03-7799	TMI41-2_-350	3987	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	15.29	I	HNKI	185.71	0
MK03-7800	TMI41-2_-351	3992	御訪里ヶ台群	SIMD	SIMD	4.7	I	SBIY	85.92	0
MK03-7801	TMI41-2_-352	3996	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	0.72	I	HNKI	108.97	0
MK03-7802	TMI41-2_-353	3998	天城柏崎群	AGKT	AGKT	4.95	I	HNKT	110.06	0
MK03-7803	TMI41-2_-354	3999	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	17.05	I	HNKI	198.69	0
MK03-7804	TMI41-2_-355	4012	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	21.91	I	HNKI	203.7	0
MK03-7805	TMI41-2_-356	4013	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	4.45	I	HNKI	102.38	0
MK03-7806	TMI41-2_-357	4015	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	3.52	I	HNKI	127.23	0
MK03-7807	TMI41-2_-358	4016	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	7.91	I	HNKI	150.95	0
MK03-7808	TMI41-2_-359	4020	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	13.49	I	HNKI	58.31	0
MK03-7809	TMI41-2_-360	6499	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	5.01	I	HNKI	84.08	0
MK03-7810	TMI41-2_-361	6502	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	7.91	I	HNKI	150.95	0
MK03-7811	TMI41-2_-362	6503	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	4.56	I	HNKI	88.93	0
MK03-7812	TMI41-2_-363	6504	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	5.92	I	HNKI	142.61	0
MK03-7813	TMI41-2_-364	6505	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	13.3	I	TSNG	41.07	0
MK03-7814	TMI41-2_-365	6508	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	5.36	I	HNKI	144.88	0
MK03-7815	TMI41-2_-366	6509	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	8.43	I	HNKI	147.72	0
MK03-7816	TMI41-2_-367	6514	箱根烟宿群	HNHJ	HNHJ	10.63	I	HNKI	167.59	0

MK03-7817	TM141-2_368	6518	箱根烟宿群	HNU	HNU	11.42	1	HNKI	182.63	0
MK03-7818	TM141-2_369	6519	箱根烟宿群	HNU	HNU	7.9	1	HNKI	109.26	0
MK03-7819	TM141-2_370	6522	箱根烟宿群	HNU	HNU	19.77	1	HNKI	68.91	0
MK03-7820	TM141-2_371	6526	箱根烟宿群	HNU	HNU	18.75	1	HNKI	197.23	0
MK03-7821	TM141-2_372	6527	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.77	1	HNKI	132.2	0
MK03-7822	TM141-2_373	6530	箱根烟宿群	HNU	HNU	7.84	1	HNKI	146.46	0
MK03-7823	TM141-2_374	6531	天城柏崎群	AGKT	AGKT	1.85	1	HNKT	129.92	0
MK03-7824	TM141-2_375	6533	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.01	1	HNKI	87.55	0
MK03-7825	TM141-2_376	6535	箱根烟宿群	HNU	HNU	12.55	1	HNKI	174.93	0
MK03-7826	TM141-2_377	6536	天城柏崎群	AGKT	AGKT	7.55	1	HNKT	119.24	0
MK03-7827	TM141-2_378	6537	箱根烟宿群	HNU	HNU	13.72	1	HNKI	68.85	0
MK03-7828	TM141-2_379	6540	天城柏崎群	AGKT	AGKT	17.28	1	HNKT	172.87	0
MK03-7829	TM141-2_380	6541	箱根烟宿群	HNU	HNU	24.5	1	HNKI	197.07	0
MK03-7830	TM141-2_381	6542	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.89	1	HNKI	140.03	0
MK03-7831	TM141-2_382	6543	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.76	1	HNKI	111.05	0
MK03-7832	TM141-2_383	6546	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.1	1	HNKI	95.64	0
MK03-7833	TM141-2_384	6548	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.14	1	HNKI	91.36	0
MK03-7834	TM141-2_385	6551	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.1	1	HNKI	83.45	0
MK03-7835	TM141-2_386	6552	箱根烟宿群	HNU	HNU	17.4	1	HNKI	74.65	0
MK03-7836	TM141-2_387	6553	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.11	1	HNKI	112.98	0
MK03-7837	TM141-2_388	6555	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.99	1	HNKI	120.08	0
MK03-7838	TM141-2_389	6557	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.1	1	HNKI	129.18	0
MK03-7839	TM141-2_390	6558	推定不可			推定不可		推定不可	推定不可	
MK03-7840	TM141-2_391	6559	箱根烟宿群	HNU	HNU	13.24	1	HNKI	174.29	0
MK03-7841	TM141-2_392	6560	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.73	1	HNKI	89.95	0
MK03-7842	TM141-2_393	6561	箱根烟宿群	HNU	HNU	17.45	1	HNKI	200.12	0
MK03-7843	TM141-2_394	6563	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.82	1	HNKI	116.74	0
MK03-7844	TM141-2_395	6564	箱根烟宿群	HNU	HNU	29.51	1	HNKI	225.17	0
MK03-7845	TM141-2_396	6565	箱根烟宿群	HNU	HNU	0.65	1	HNKI	115.54	0
MK03-7846	TM141-2_397	6567	天城柏崎群	AGKT	AGKT	9.06	1	HNKT	135.76	0
MK03-7847	TM141-2_398	6568	天城柏崎群	AGKT	AGKT	6.93	1	HNKT	134.35	0
MK03-7848	TM141-2_399	6569	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.98	1	HNKI	103.76	0
MK03-7849	TM141-2_400	6580	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.26	1	HNKI	125.76	0
MK03-7850	TM141-2_401	6581	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.13	1	HNKI	117.3	0
MK03-7851	TM141-2_402	6585	御嶽烟宿群	HNU	HNU	3.08	1	HNKI	118.63	0
MK03-7852	TM141-2_403	6587	箱根烟宿群	HNU	HNU	4.5	1	HNKI	82.45	0
MK03-7853	TM141-2_404	6588	箱根烟宿群	HNU	HNU	16.43	1	HNKI	198.77	0
MK03-7854	TM141-2_405	6592	神津島恩施島群	KZOB	KZOB	7.5	1	KZSN	55.89	0
MK03-7855	TM141-2_406	6792	箱根烟宿群	HNU	HNU	5.25	1	HNKI	121.09	0
MK03-7856	TM141-2_407	6793	箱根烟宿群	HNU	HNU	1.19	1	HNKI	122.13	0
MK03-7857	TM141-2_408	6794	箱根烟宿群	HNU	HNU	25.42	1	HNKI	219.39	0
MK03-7858	TM141-2_409	6795	箱根烟宿群	HNU	HNU	9.99	1	HNKI	160.39	0
MK03-7859	TM141-2_410	6797	箱根烟宿群	HNU	HNU	3.42	1	HNKI	85.66	0
MK03-7860	TM141-2_411	6800	箱根烟宿群	HNU	HNU	7.03	1	HNKI	86.52	0
MK03-7861	TM141-2_412	6809	箱根烟宿群	HNU	HNU	26.21	1	HNKI	226.79	0
MK03-7862	TM141-2_413	6816	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.73	1	HNKI	82.04	0
MK03-7863	TM141-2_414	6817	箱根烟宿群	HNU	HNU	2.44	1	HNKI	135.26	0
MK03-7864	TM141-2_415	6819	箱根烟宿群	HNU	HNU	6.35	1	HNKI	146.37	0
MK03-7865	TM141-2_416	6823	箱根烟宿群	HNU	HNU	5.53	1	HNKI	71.43	0
MK03-7866	TM141-2_417	6824	箱根烟宿群	HNU	HNU	0.76	1	HNKI	107	0
MK03-7867	TM141-2_418	6834	箱根烟宿群	HNU	HNU	18.44	1	HNKI	133.32	0
MK03-7868	TM141-2_419	6850	天城柏崎群	AGKT	AGKT	6.71	1	HNKT	127.46	0
MK03-7869	TM141-2_420	6852	箱根烟宿群	HNU	HNU	5.22	1	HNKI	129.14	0

MK03-7670	TM141-2_-421	6854	天城柏岬群	AGKT	AGKT	2.08	1	HNKI	126.22	0
MK03-7671	TM141-2_-422	6855	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	26.07	1	HNKI	229.47	0
MK03-7672	TM141-2_-423	6864	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	4.48	1	HNKI	98.21	0
MK03-7673	TM141-2_-424	6865	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	10.22	1	HNKI	126.59	0
MK03-7674	TM141-2_-425	6868	天城柏岬群	AGKT	AGKT	3.4	1	HNKI	107.7	0
MK03-7675	TM141-2_-426	6871	天城柏岬群	AGKT	AGKT	6.23	1	HNKI	97.43	0
MK03-7676	TM141-2_-427	6873	推定不可			推定不可			推定不可	
MK03-7677	TM141-2_-428	6874	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	5.54	1	HNKI	122.47	0
MK03-7678	TM141-2_-429	6905	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	5.57	1	HNKI	134.11	0
MK03-7679	TM141-2_-430	6908	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	6.95	1	HNKI	134.75	0
MK03-7680	TM141-2_-431	6914	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	1.64	1	HNKI	115.3	0
MK03-7681	TM141-2_-432	6917	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	12.7	1	HNKI	100.42	0
MK03-7682	TM141-2_-433	6919	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	12.49	1	HNKI	86.06	0
MK03-7683	TM141-2_-434	6937	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	21.21	1	HNKI	93.97	0
MK03-7684	TM141-2_-435	6938	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	5.29	1	HNKI	97.22	0
MK03-7685	TM141-2_-436	6943	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	10.73	1	HNKI	138.77	0
MK03-7686	TM141-2_-437	6947	天城柏岬群	AGKT	AGKT	4.37	1	HNKI	142.46	0
MK03-7687	TM141-2_-438	6951	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	8.14	1	HNKI	130.99	0
MK03-7688	TM141-2_-439	6956	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	7.62	1	HNKI	152.06	0
MK03-7689	TM141-2_-440	6985	天城柏岬群	AGKT	AGKT	2.74	1	HNKI	137.68	0
MK03-7690	TM141-2_-441	6988	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	9.74	1	HNKI	165.02	0
MK03-7691	TM141-2_-442	6994	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	5.34	1	HNKI	70.34	0
MK03-7692	TM141-2_-443	6998	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	4.87	1	HNKI	94.77	0
MK03-7693	TM141-2_-444	6999	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	11.49	1	HNKI	165.58	0
MK03-7694	TM141-2_-445	7003	天城柏岬群	AGKT	AGKT	23.66	1	HNKI	87.55	0
MK03-7695	TM141-2_-446	7005	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	4.41	1	HNKI	89.25	0
MK03-7696	TM141-2_-447	7009	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	14.48	1	HNKI	82.77	0
MK03-7697	TM141-2_-448	7017	天城柏岬群	AGKT	AGKT	1.87	1	HNKI	114.2	0
MK03-7698	TM141-2_-449	7020	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	13.35	1	HNKI	179.97	0
MK03-7699	TM141-2_-450	7027	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	3.37	1	HNKI	91.37	0
MK03-7700	TM141-2_-451	7030	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	3.48	1	HNKI	112.3	0
MK03-7701	TM141-2_-452	7057	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	5.42	1	HNKI	144.5	0
MK03-7702	TM141-2_-453	7063	测定不可			测定不可			测定不可	
MK03-7703	TM141-2_-454	7065	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	11.73	1	HNKI	105.79	0
MK03-7704	TM141-2_-455	7069	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	5.05	1	HNKI	150.69	0
MK03-7705	TM141-2_-456	7078	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	6.49	1	HNKI	162.14	0
MK03-7706	TM141-2_-457	7079	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	5.82	1	HNKI	86.91	0
MK03-7707	TM141-2_-458	7081	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	27.49	1	HNKI	214.47	0
MK03-7708	TM141-2_-459	7084	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	8.52	1	HNKI	91.21	0
MK03-7709	TM141-2_-460	7086	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	16.93	1	HNKI	201.72	0
MK03-7710	TM141-2_-461	7094	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	1.56	1	HNKI	101.81	0
MK03-7711	TM141-2_-462	7095	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	5.24	1	HNKI	154.68	0
MK03-7712	TM141-2_-463	7096	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	6.95	1	HNKI	157.99	0
MK03-7713	TM141-2_-464	7102	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	1.75	1	HNKI	91.89	0
MK03-7714	TM141-2_-465	7104	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	1.49	1	HNKI	122.13	0
MK03-7715	TM141-2_-466	7107	天城柏岬群	AGKT	AGKT	4.4	1	HNKI	109.01	0
MK03-7716	TM141-2_-467	7110	天城柏岬群	AGKT	AGKT	4.56	1	HNKI	143.58	0
MK03-7717	TM141-2_-468	7113	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	18.13	1	HNKI	200.15	0
MK03-7718	TM141-2_-469	7119	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	6.18	1	HNKI	116.74	0
MK03-7719	TM141-2_-470	7122	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	25.76	1	HNKI	222.8	0
MK03-7720	TM141-2_-471	7123	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	2.65	1	HNKI	88.93	0
MK03-7721	TM141-2_-472	7129	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	19.02	1	HNKI	194.96	0
MK03-7722	TM141-2_-473	7138	箱根烟宿群	HNNU	HNNU	7.48	1	HNKI	94.94	0

MK03-7923	TM141-2_-474	7145	箱根烟宿群	HNU	HNU	12. 7	1	HNKI	164. 53	0
MK03-7924	TM141-2_-475	7146	箱根烟宿群	HNU	HNU	14. 74	1	HNKI	126. 95	0
MK03-7925	TM141-2_-476	7149	箱根烟宿群	HNU	HNU	21. 23	1	HNKI	206. 84	0
MK03-7926	TM141-2_-477	7151	箱根烟宿群	HNU	HNU	11. 15	1	HNKI	174. 64	0
MK03-7927	TM141-2_-478	7152	箱根烟宿群	HNU	HNU	11. 48	1	HNKI	165. 35	0
MK03-7928	TM141-2_-479	7154	箱根烟宿群	HNU	HNU	5. 23	1	HNKI	67. 37	0
MK03-7929	TM141-2_-480	7155	箱根烟宿群	HNU	HNU	11. 85	1	HNKI	161. 69	0
MK03-7930	TM141-2_-481	7156	箱根烟宿群	HNU	HNU	2. 71	1	HNKI	105. 17	0
MK03-7931	TM141-2_-482	7159	箱根烟宿群	HNU	HNU	4. 76	1	HNKI	132. 76	0
MK03-7932	TM141-2_-483	7160	箱根烟宿群	HNU	HNU	19. 18	1	HNKI	59. 68	0
MK03-7933	TM141-2_-484	7164	箱根烟宿群	HNU	HNU	10. 93	1	HNKI	134. 08	0
MK03-7934	TM141-2_-485	7166	箱根烟宿群	HNU	HNU	15. 03	1	HNKI	102. 12	0
MK03-7935	TM141-2_-486	7167	箱根烟宿群	HNU	HNU	4. 41	1	HNKI	72. 06	0
MK03-7936	TM141-2_-487	7224	天城柏崎群	AGKT	AGKT	2. 01	1	HNKT	138. 35	0
MK03-7937	TM141-2_-488	7225	箱根烟宿群	HNU	HNU	1. 02	1	HNKI	102. 51	0
MK03-7938	TM141-2_-489	7226	箱根烟宿群	HNU	HNU	11. 15	1	HNKI	174. 64	0
MK03-7939	TM141-2_-490	7231	箱根烟宿群	HNU	HNU	3. 08	1	HNKI	86. 05	0
MK03-7940	TM141-2_-491	7236	箱根烟宿群	HNU	HNU	26. 62	1	HNKI	60. 57	0
MK03-7941	TM141-2_-492	7237	箱根烟宿群	HNU	HNU	2. 96	1	HNKI	81. 9	0
MK03-7942	TM141-2_-493	7238	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7943	TM141-2_-494	7243	天城柏崎群	AGKT	AGKT	8. 05	1	HNKT	116. 94	0
MK03-7944	TM141-2_-495	7244	天城柏崎群	AGKT	AGKT	1. 17	1	HNKT	107. 58	0
MK03-7945	TM141-2_-496	7245	箱根烟宿群	HNU	HNU	11. 25	1	HNKI	178. 91	0
MK03-7946	TM141-2_-497	7248	箱根烟宿群	HNU	HNU	14. 85	1	HNKI	132. 87	0
MK03-7947	TM141-2_-498	7249	箱根烟宿群	HNU	HNU	25. 31	1	HNKI	228. 46	0
MK03-7948	TM141-2_-499	7253	箱根烟宿群	HNU	HNU	4. 47	1	HNKI	129. 79	0
MK03-7949	TM141-2_-500	7255	天城柏崎群	AGKT	AGKT	4. 21	1	HNKT	121. 53	0
MK03-7950	TM141-2_-501	7258	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7951	TM141-2_-502	7271	箱根烟宿群	HNU	HNU	7. 41	1	HNKI	77. 26	0
MK03-7952	TM141-2_-503	7276	箱根烟宿群	HNU	HNU	5. 27	1	HNKI	74. 23	0
MK03-7953	TM141-2_-504	7277	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7954	TM141-2_-505	7278	箱根烟宿群	HNU	HNU	8. 63	1	HNKI	137. 9	0
MK03-7955	TM141-2_-506	7280	天城柏崎群	AGKT	AGKT	2. 04	1	HNKT	137. 44	0
MK03-7956	TM141-2_-507	7281	测定不可	测定不可	测定不可			测定不可		
MK03-7957	TM141-2_-508	7292	箱根烟宿群	HNU	HNU	26. 22	1	HNKI	226. 25	0
MK03-7958	TM141-2_-509	7283	箱根烟宿群	HNU	HNU	5. 49	1	HNKI	74. 85	0
MK03-7959	TM141-2_-510	7284	天城柏崎群	AGKT	AGKT	2. 32	1	HNKT	118. 05	0
MK03-7960	TM141-2_-511	7285	箱根烟宿群	HNU	HNU	1. 43	1	HNKI	101. 62	0
MK03-7961	TM141-2_-512	7286	箱根烟宿群	HNU	HNU	9. 78	1	HNKI	171. 38	0
MK03-7962	TM141-2_-513	7287	箱根烟宿群	HNU	HNU	27. 64	1	HNKI	45. 28	0
MK03-7963	TM141-2_-514	7289	箱根烟宿群	HNU	HNU	4. 58	1	HNKI	127. 83	0
MK03-7964	TM141-2_-515	7398	箱根烟宿群	HNU	HNU	13. 04	1	HNKI	65. 37	0
MK03-7965	TM141-2_-516	7644	箱根烟宿群	HNU	HNU	13. 21	1	HNKI	78. 53	0
MK03-7966	TM141-2_-517	7647	箱根烟宿群	HNU	HNU	1. 51	1	HNKI	152	0
MK03-7967	TM141-2_-518	7648	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7968	TM141-2_-519	7651	箱根烟宿群	HNU	HNU	2. 05	1	HNKI	122. 64	0
MK03-7969	TM141-2_-520	7652	箱根烟宿群	HNU	HNU	7. 3	1	HNKI	156. 37	0
MK03-7970	TM141-2_-521	7681	箱根烟宿群	HNU	HNU	24. 77	1	HNKI	216. 22	0
MK03-7971	TM141-2_-522	7696	箱根烟宿群	HNU	HNU	15. 06	1	HNKI	160. 36	0
MK03-7972	TM141-2_-523	7797	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1. 92	1	TSIG	26. 08	0
MK03-7973	TM141-2_-524	7802	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	9. 29	1	TSIG	35. 5	0
MK03-7974	TM141-2_-525	273	謙訪星ヶ台群	SHD	SHD	8. 47	1	MDYN	107. 08	0
MK03-7975	TM141-2_-526	318	須雲星ヶ台群	SHD	SHD	3. 9	1	SB1Y	82. 48	0

MK03-7976	TM141-2,-527	490	津津島恩恵鳥群	KZOB	KZOB	10.23	1	KZSH	100.55	0
MK03-7977	TM141-2,-528	772	調訪里ヶ台群	SWHD	SWHD	1.13	1	SB1Y	94.9	0
MK03-7978	TM141-2,-529	796	箱根畠宿群	HNU	HNU	6.01	1	HNKI	110.32	0
MK03-7979	TM141-2,-530	829	調訪里ヶ台群	SWHD	SWHD	5.89	1	SB1Y	80.72	0
MK03-7980	TM141-2,-531	909	和田鷹山群	WTY	WTY	6.43	1	WDY	25.42	0
MK03-7981	TM141-2,-532	1594	箱根畠宿群	HNU	HNU	27.3	1	HNKI	47.66	0
MK03-7982	TM141-2,-533	2097	箱根畠宿群	HNU	HNU	5.65	1	HNKI	138.39	0
MK03-7983	TM141-2,-534	5003	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.61	0.9906	TSIG	15.25	0.0004
MK03-7984	TM141-2,-535	5603	天城泊神群	AGKT	AGKT	2.95	1	HNKT	100.46	0
MK03-7985	TM141-2,-536	6043	箱根畠宿群	HNU	HNU	4.91	1	HNKI	113.3	0
MK03-7986	TM141-2,-537	6478	諏訪里ヶ台群	SWHD	SWHD	4.54	1	SB1Y	110.46	0
MK03-7987	TM141-2,-538	7335	箱根畠宿群	HNU	HNU	8.03	1	HNKI	152.51	0

<表中細則>判別回帰分析:判別回法によって推定された座地
 判別分析:第1候補座地…判別分析により推定された座地の第1候補
 第2候補座地…判別分析により推定された座地の第2候補
 判別群:候補座地記号

第5表 座地原石判別群一覧表 (SEIKO SEA-2110L螢光X線分析装置による)

都道府県	地図No.	エリア	新門別群	旧門別群	新記号	旧記号	原石採取地(分析数)			
北海道	1	白滝	八号沢群		STBG		赤石山山頂(19)、八号沢露頭(31)、			
			黒曜の沢群		STRY		八号沢(79)、黒曜の沢(6)、幌加林道(4)			
	2	上士幌	三股群		KSMR		十三ノ沢(16)			
	3	留戸	安住群		ODAZ		安住(25)、清水ノ沢(9)			
	4	旭川	高砂台群		AKTS		高砂台(6)、雨紛台(5)、春光台(5)			
			春光台群		AKSK					
	5	名寄	布川群		NYHK		布川(10)			
	6	新十津川	須田群		STS0		須田(6)			
青森	7	赤井川	曲川群		AJMK		曲川(25)、土木川(15)			
	8	豊浦	豊泉群		TUTI		豊泉(16)			
秋田	9	木造	出来島群		KDOK		出来島海岸(34)			
	10	深浦	八森山群		HUMI		八森山公断(8)、六角沢(2)、岡崎浜(40)			
山形	11	男鹿	金ヶ崎群		OGKS		金ヶ崎温泉(37)、脇本海岸(98)			
			脇本群		OGRM		脇本海岸(16)			
福島	12	羽黒	月山群		HGGS		月山莊前(30)、朝日町田代沢(18)、櫛引町中沢(18)			
			今野川群		HGIN		今野川(9)、大綱川(5)			
新潟	13	新津	金津群		NTKT		金津(29)			
	14	新堺田	板山群		SDIY		板山牧場(40)			
栃木	15	高原山	甘湯沢群	高原山1群	THAY	TKII	甘湯沢(50)、桜沢(20)			
			七尋沢群	高原山2群	TINI	TKII	七尋沢(9)、自然の家(9)			

長野	16	和田 (西)	龜山群	和田峰1群	WDTY	WDT1	龜山(53)、小深沢(54)、東餅屋(36)、 芙蓉ライト(87)、古峰(50)、 土屋橋北(83)、土屋橋西(29)、 土屋橋南(68)、丁字脚頭(18)	
			小深沢群	和田峰2群	WDKB	WDT2		
			土屋橋北群	和田峰3群	WDTK	WDT3		
			土屋橋西群	和田峰4群	WDTN	WDT4		
			土屋橋南群	和田峰5群	WDTM	WDT5		
			芙蓉ライト群		WDHY			
			古峰群		WDHT			
	17	諏訪	ブドウ沢群	男女倉1群	WODD	OMG1	ブドウ沢(36)、ブドウ沢右岸(18)、	
			牧ヶ沢群	男女倉2群	WOMS	OMG2	牧ヶ沢上(33)、牧ヶ沢下(36)、	
			高松沢群	男女倉3群	WOTM	OMC3	高松沢(40)	
	18	蓼科	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWBD	KRM	星ヶ塔第1試区(36)、 星ヶ塔第2試区(36)、星ヶ台A(36)、 星ヶ台B(11)、水月靈廟(36)、 水月公園(13)、星ヶ塔のりこし(36)	
			冷山群	蓼科系	TSTY	TTS	冷山(33)、麦草峠(36)、茂草峠東(33)、 渋ノ瀬(29)、美し森(4)、八ヶ岳7(17)、 八ヶ岳9(18)、双子池(34)	
			双子山群		TSHG		双子池(26)	
			蘆ヶ山群		TSSB		撫鉢山(31)、亀甲池(8)	
神奈川	19	箱根	芦ノ瀬群	芦ノ瀬	INAY	ASY	芦ノ瀬(34)	
	20		箱宿群	箱宿	HNHJ	HTJ	箱宿(71)	
	21		黒岩橋群	箱根系A群	HNKI	HKNA	黒岩橋(9)	
			鎌治屋群	鎌治屋	HNKJ	KJY	鎌治屋(30)	
静岡	22	天城	上多賀群	上多賀	HNKT	KMT	上多賀(18)	
	23	神津島	柏崎群	柏崎	AGKT	KSW	柏崎(80)	
東京	23		恩馳島群	神津島1群	KZOB	KOZI	恩馳島(100)、長浜(43)、沢尻湾(8)	
			砂原崎群	神津島2群	KZSN	KOZZ	砂原崎(40)、長浜(5)	
鳥根	24	越岐	久見群		ORIM		久見バーライト中(30)、 久見探査現場(18)	
			箕浦群		ORMU		箕浦海岸(30)、加茂(19)、岸浜(35)	
			岬群		OKMT		岬地区(16)	
その他			NK群		NK		中ヶ原IG、SG(遺跡試料)、 原石産地は未発見	



第80図 黒曜石产地位置図

写真図版

図版 1



調査区遠景

図版2



竪穴住居跡04遺物出土状況



竪穴住居跡04土器出土状況



竖穴住居跡01、04完掘状況

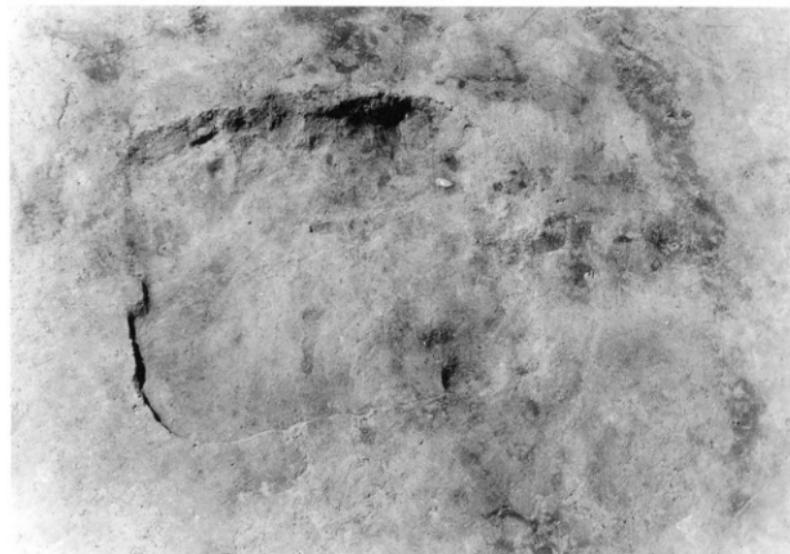


竖穴住居跡01完掘状況

図版4



竪穴住居跡02完掘状況



竪穴住居跡03完掘状況



竖穴住居跡05、集石05検出状況

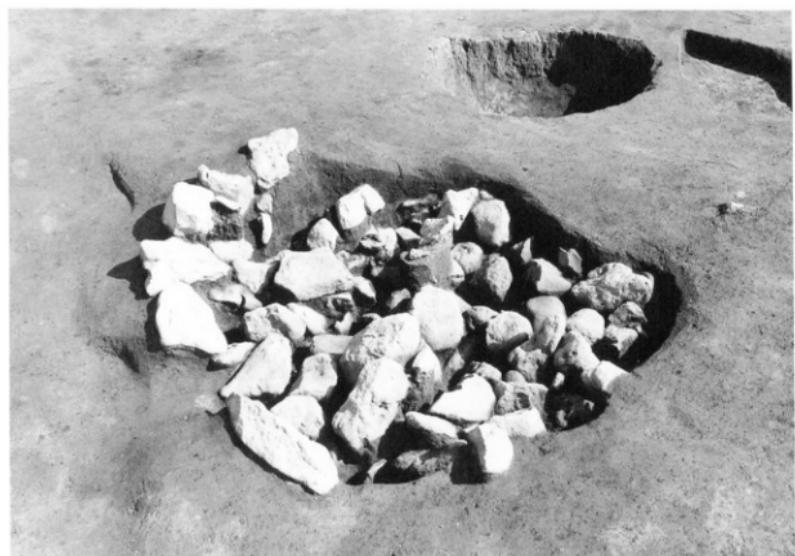


竖穴住居跡05床面検出状況

图版6



集石01検出状況



集石05内部状況

图版 7



集石05发掘途中

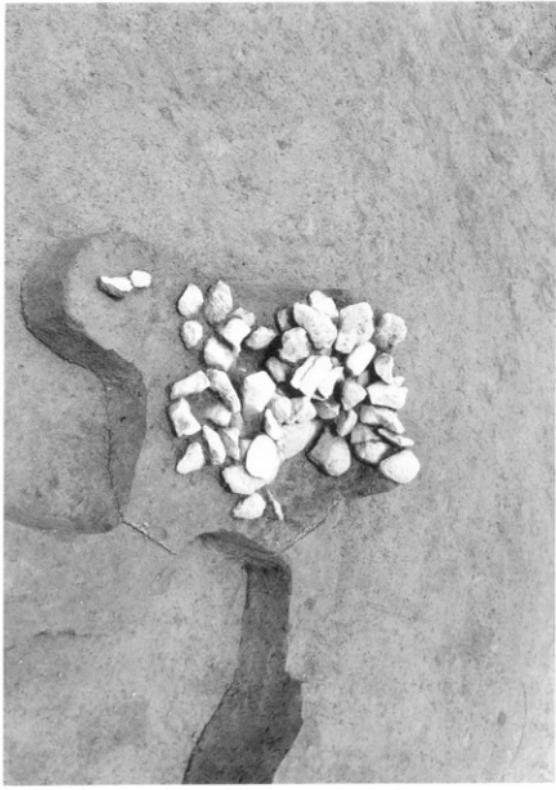


集石05底部出土情况

集石 04 挿出状況



集石 02 挿出状況

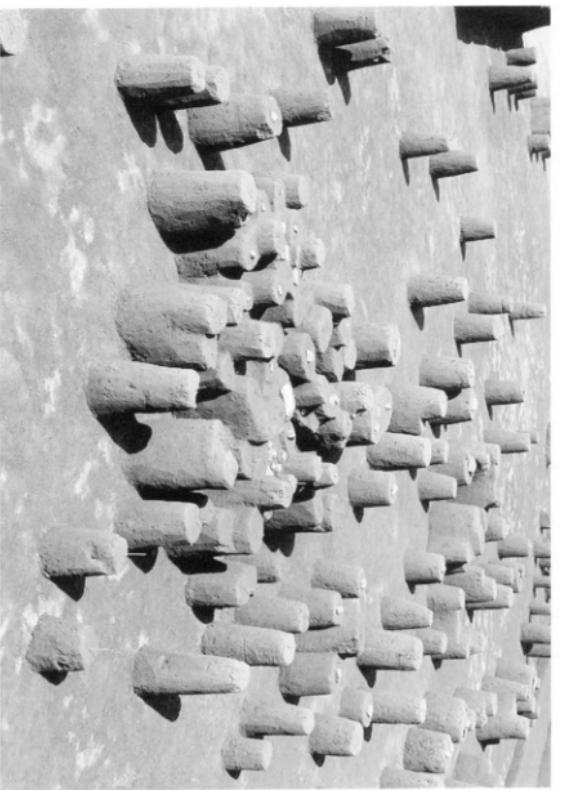




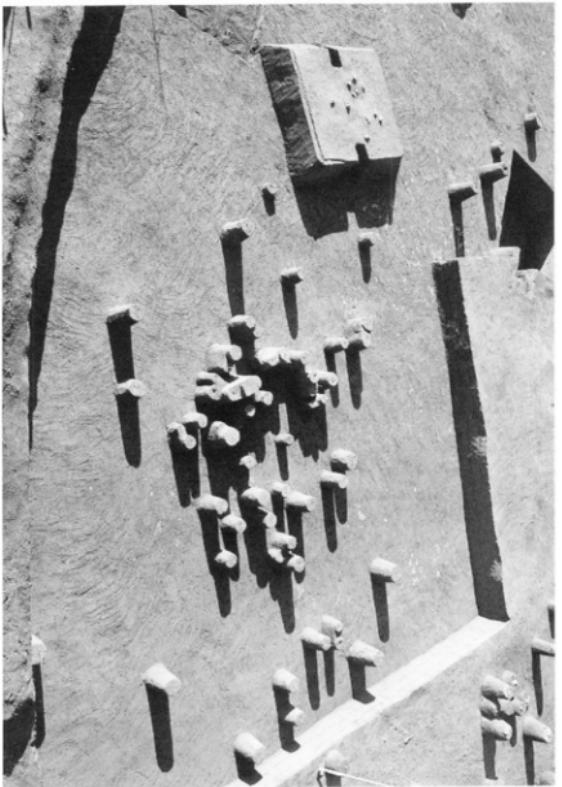
諸磲b式土器出土状況



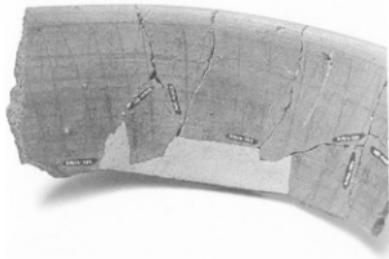
砾群03検出状況



ブロック08検出状況

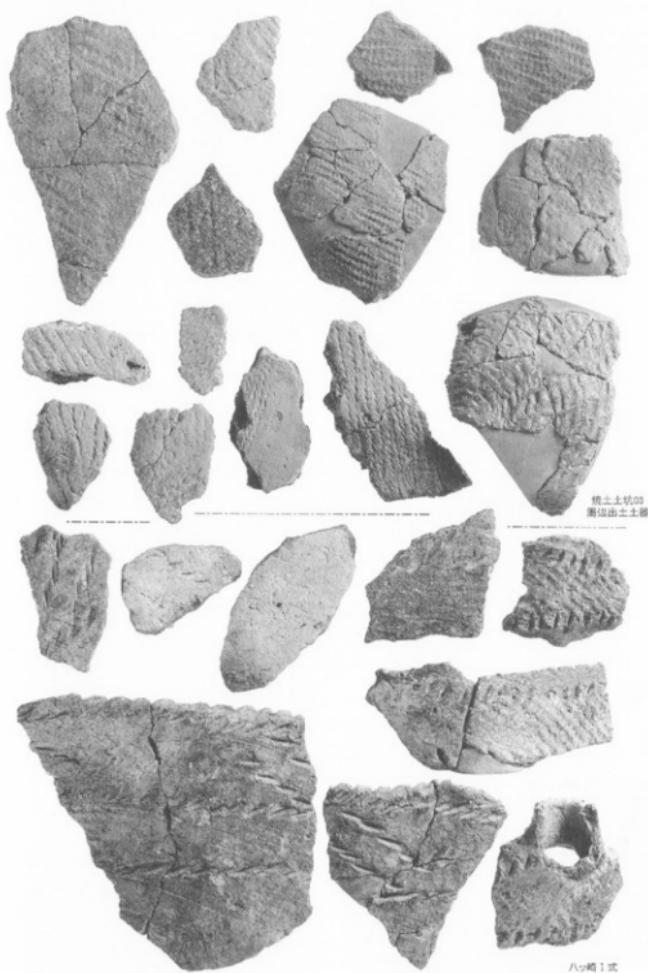


ブロック09検出状況

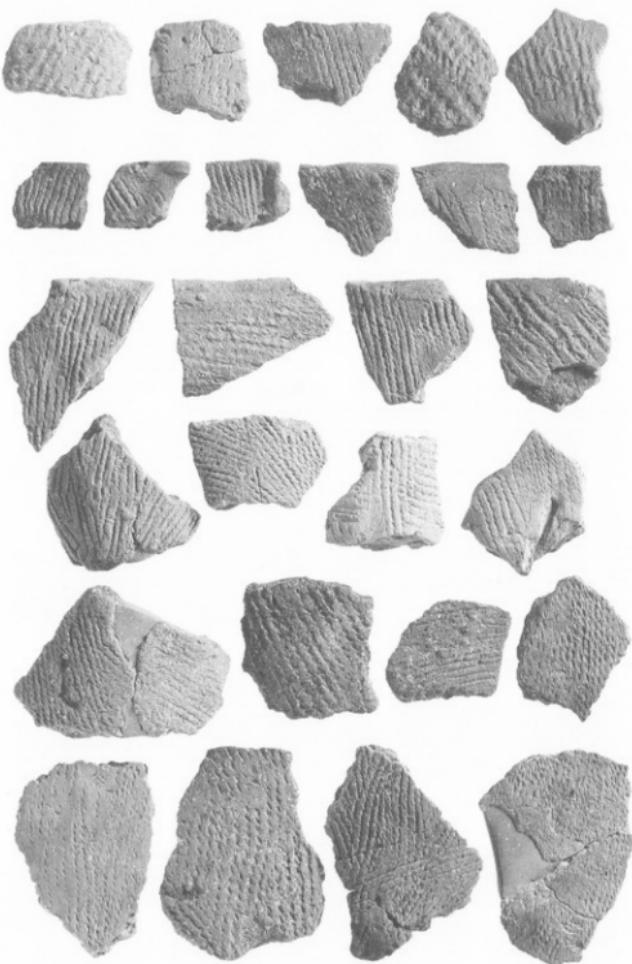


竪穴住居跡04出土土器他

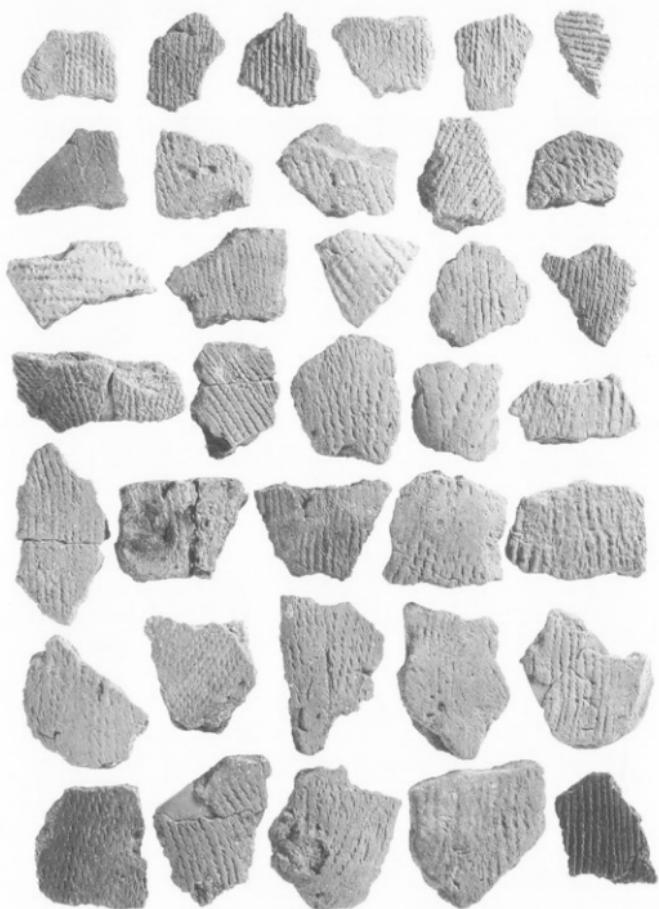
图版12



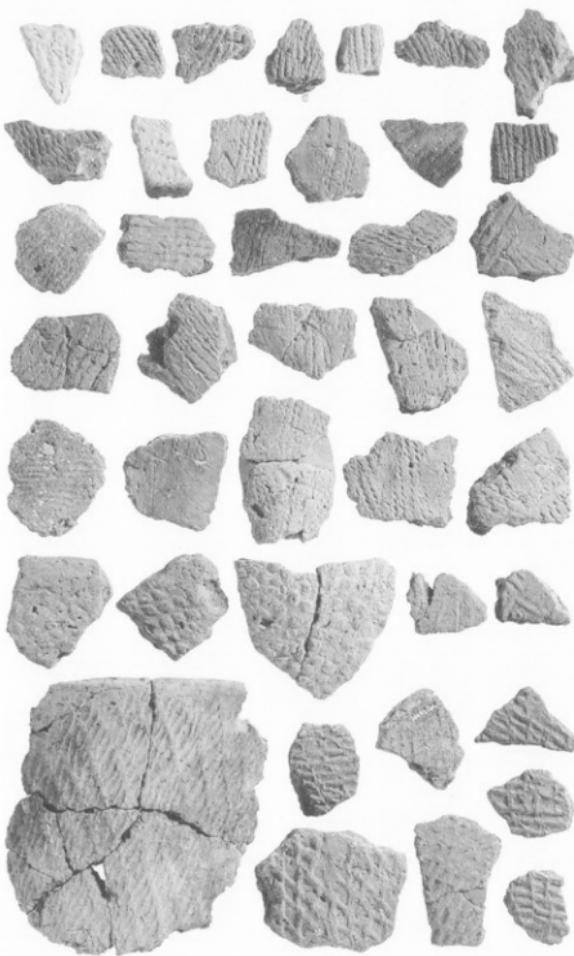
烧土土坑03周边出土土器



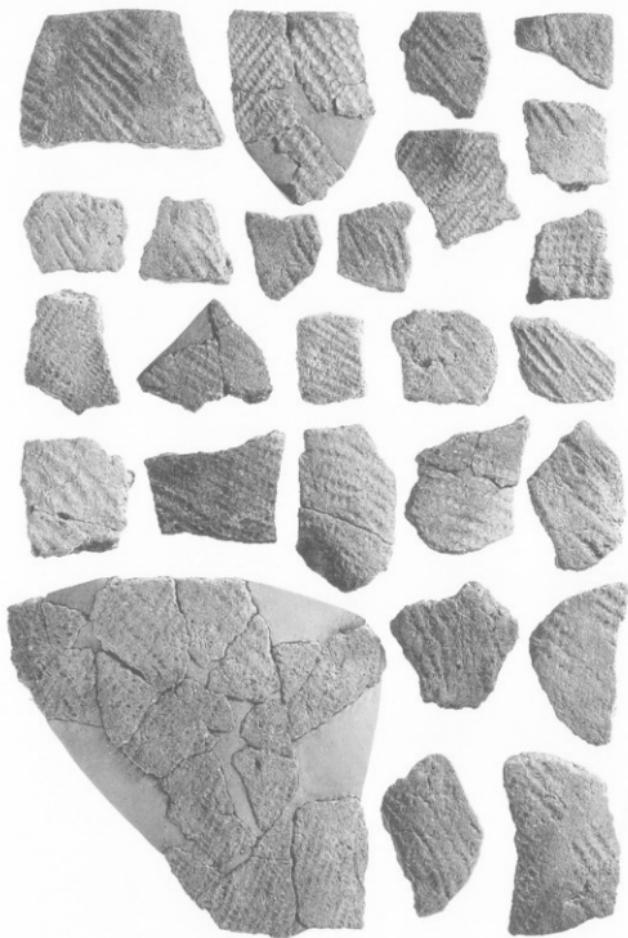
撚糸文土器（1）



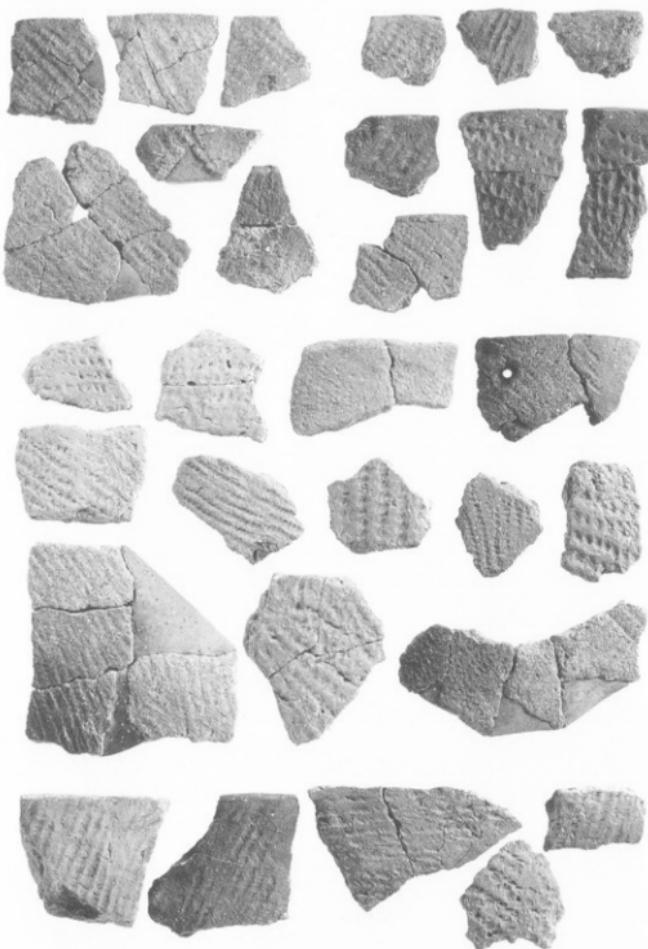
撚糸文土器（2）



捺条文土器、押型文土器

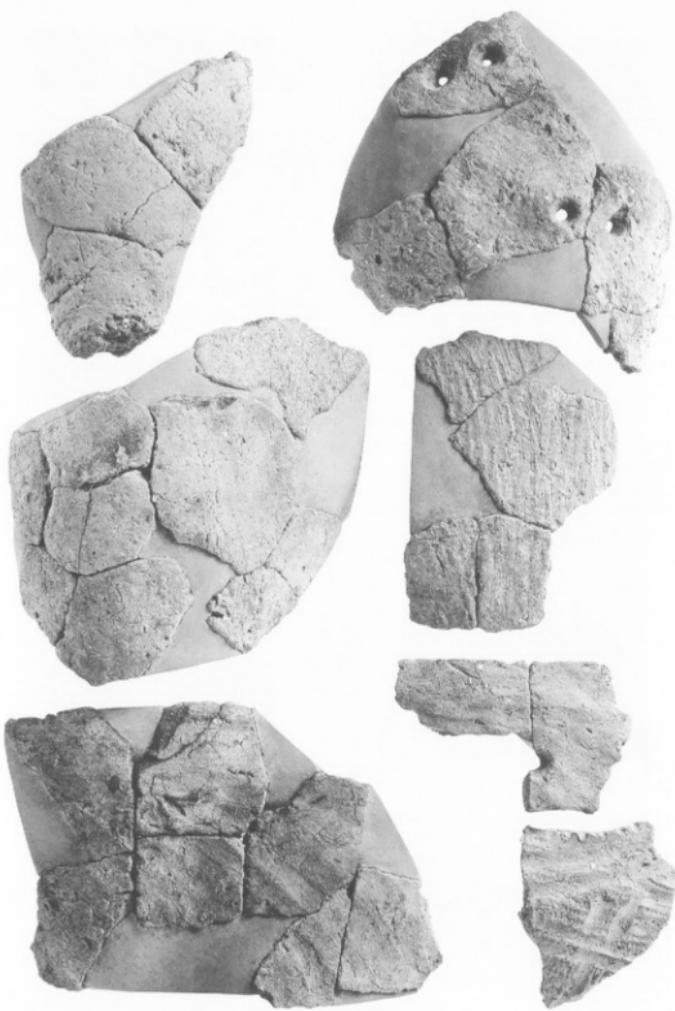


早期縄文土器（1）

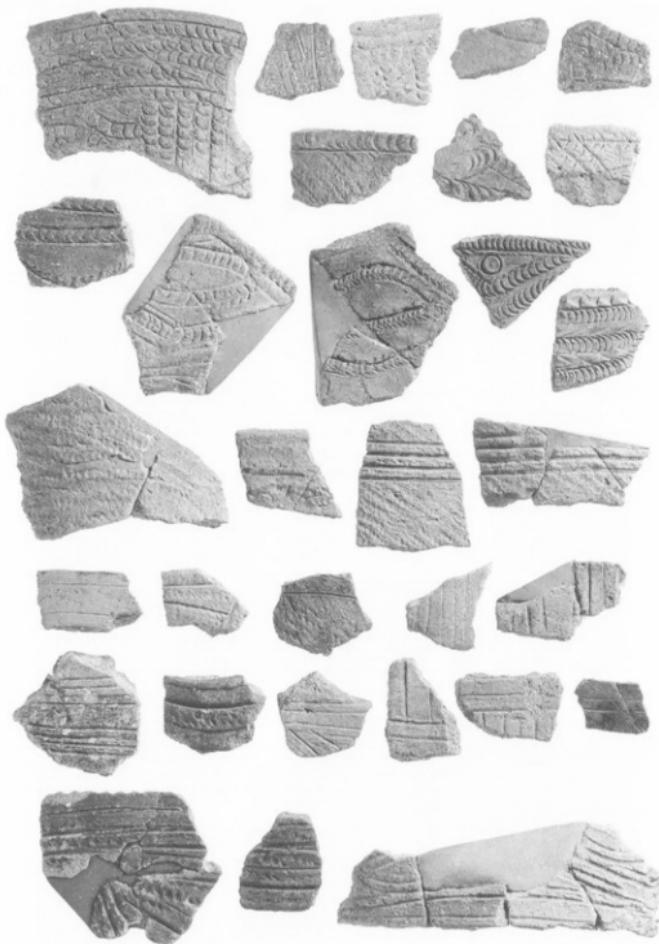


早期縄文土器（2）

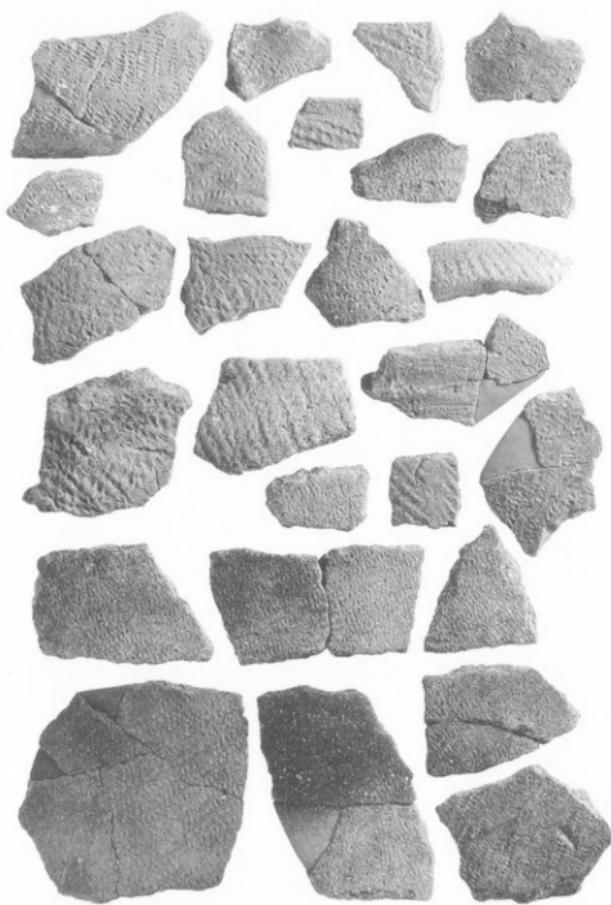
图版18



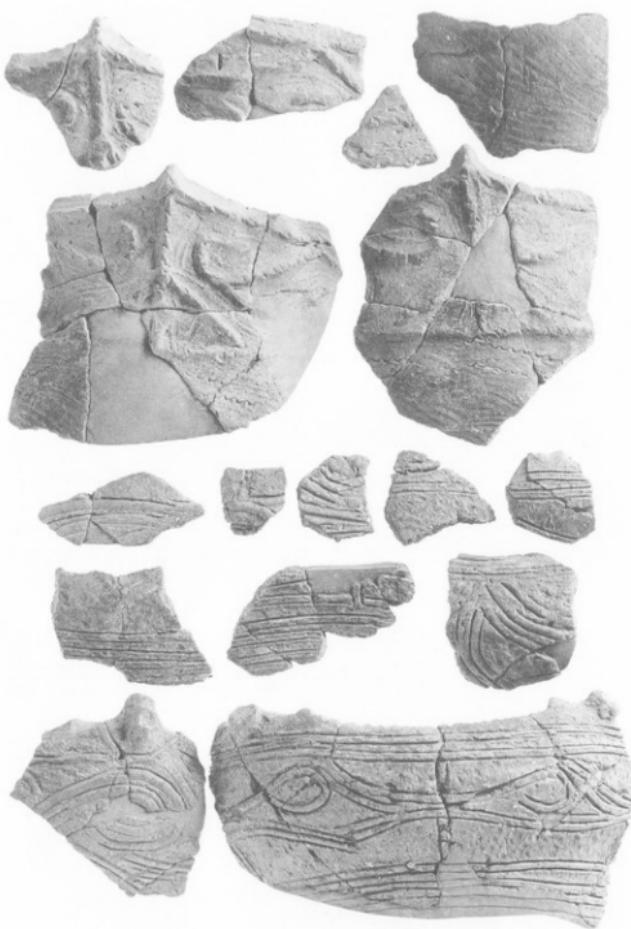
早期条痕文土器



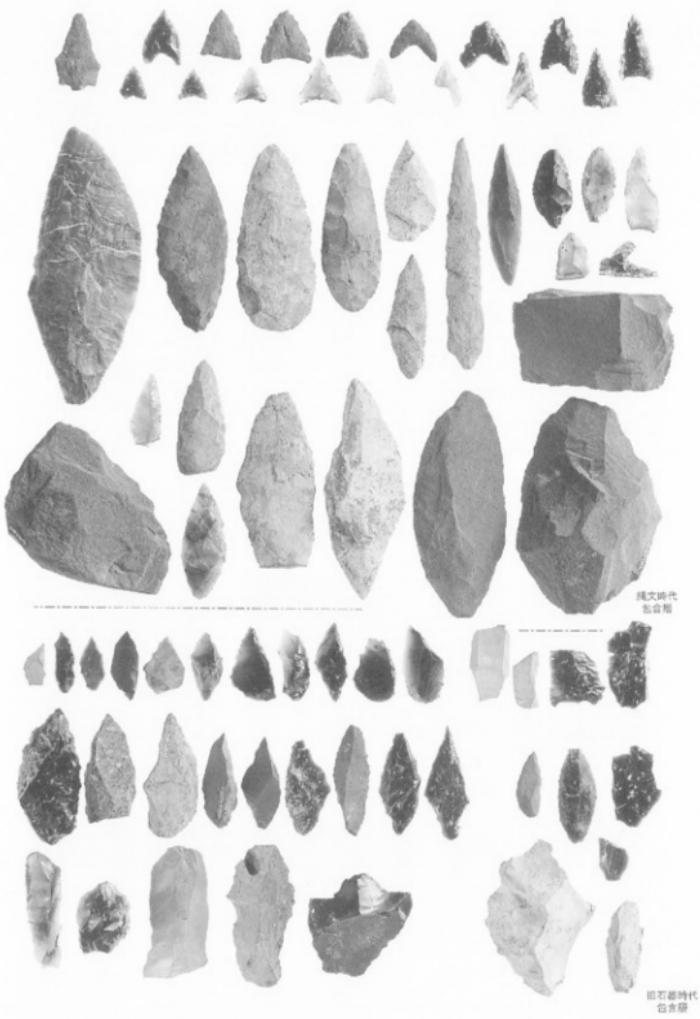
諸磯b式土器（1）



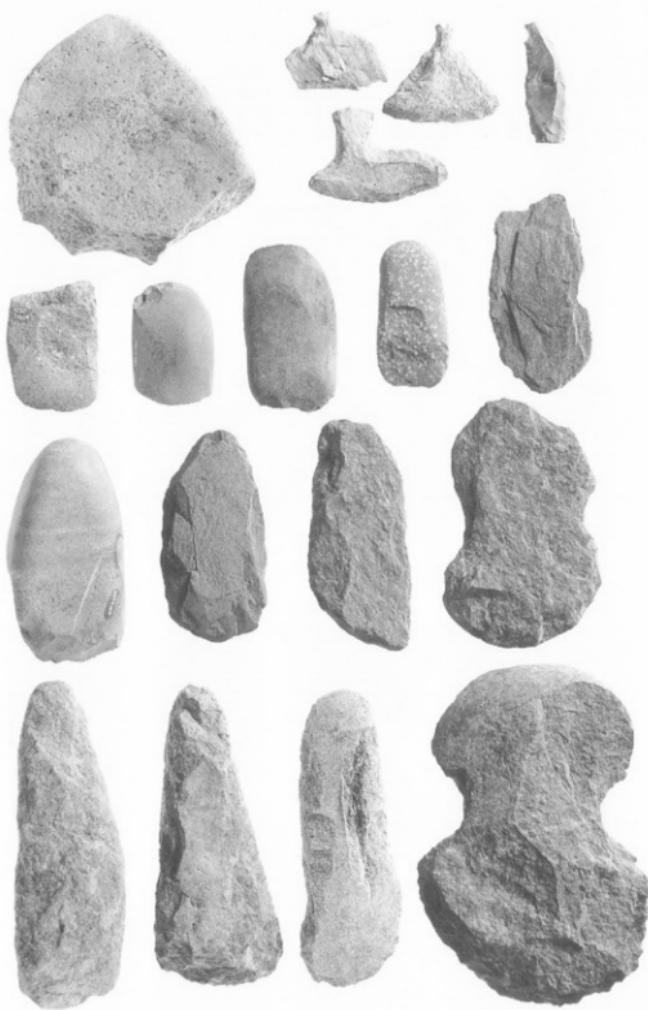
諸磯b式土器（2）



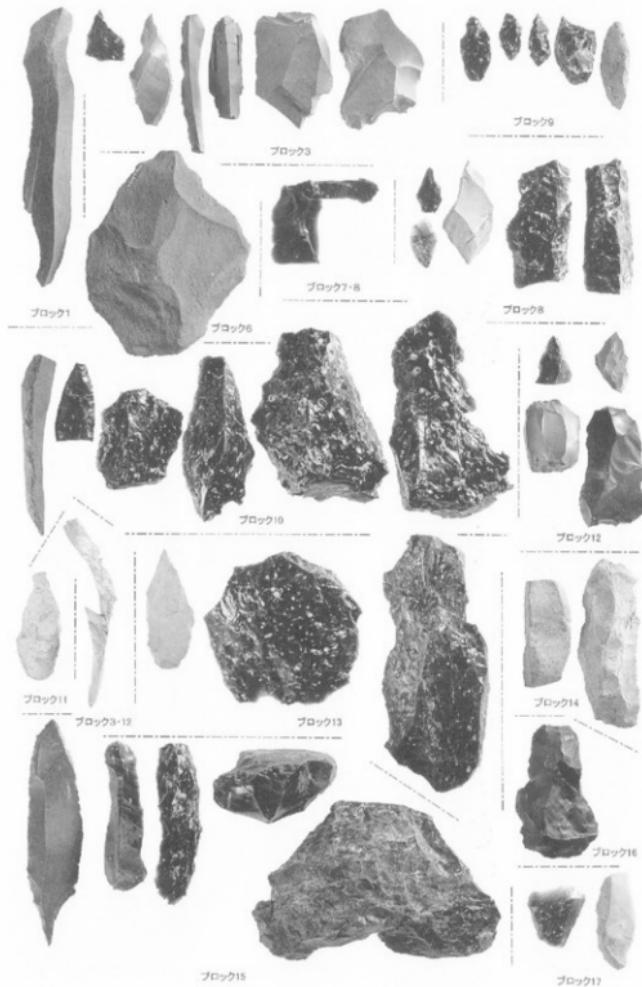
下吉井式土器、諸磠b式土器



包含層出土石器（1）



包含層出土石器（2）



包含層出土石器（3）

報告書抄録

ふりがな	はちぶだいらいーいせき							
書名	八分平E遺跡							
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	長泉町-9							
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告							
シリーズ番号	第238集							
編著者名	富樫孝志							
編集機関	財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所							
所在地	〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23-20 TEL054-262-4261 (代表)							
発行年月日	西暦 2011年3月18日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村	遺跡番号	世界測地形						
はちぶだいらいーいせき 八分平E 遺跡	しづかわいせき 静岡県 すんとうじん 駿東郡 ながいずみちょう 長泉町 ひがしの 東野 あさはちぶだいせき 字八分平 484-78他	22342		36° 18' 23"	137° 27' 39"	確認調査 20011203～ 20020111、 20020115～ 20020331 本調査 20010426～ 20010707、 20011203～ 20020329、 20020402～ 20020703	6099m ²	第二東名建設 事業に伴う埋 蔵文化財発掘 調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
八分平E 遺跡	集落	平安時代 縄文時代 旧石器時代	竪穴住居跡 4軒 竪穴住居跡 1軒 集石 5基 焼土土坑 4基 礫群 15基 ブロック 17基	土師器 縄文土器 縄文土器 石器				
要約	<p>平安時代の調査では、竪穴住居跡を4軒検出し、そのうち1軒の床面から土師器が複数出土した。</p> <p>縄文時代の調査では、集石や焼土土坑が検出されたことから、居住域ではなく、火を使 う作業場だったと考えられる。</p> <p>旧石器時代の調査では、休場層と第Ⅲ黒色帶に文化層を設定したが、いずれも石器製作 の痕跡は少なく、石器を搬入した地点だったと思われる。</p>							

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第238集

八分平E遺跡

第二東名No. 141-2地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成23年3月18日発行

編集・発行 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23-20

TEL 054-262-4261 (代表)

FAX 054-262-4296

印 刷 所 松本印刷株式会社

〒421-0303 静岡県榛原郡吉田町片岡2210

TEL 0548-32-0851 (代表)

